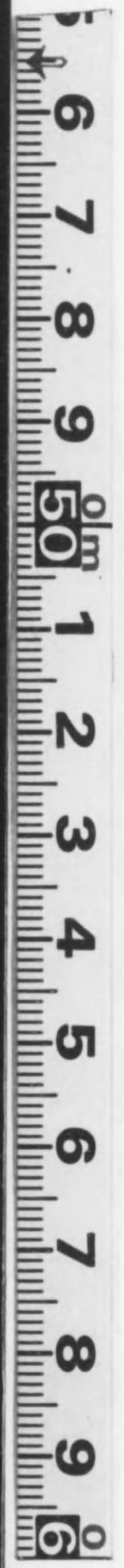


R911.103-Ma83ウ



1200500767874



始



HIB-88

R
911.103
1783



願
井上通泰先生
山田孝雄先生
問
新村出先生

正宗敦夫
編纂
校訂

合資
會社
日本古典全集刊行會壽梓



研究定本

八冊 片カ、矢方

五頁大車

うた、まの、口田、大車、叶代、歌本

尾崎雅嘉が群書一覽に書名に就て攷證して「按ずるに此書の名は詩經に『林有樸楸』と云ふ語によれるなるべし、詩經の注に、樸楸は小木也と見えたり、貞徳謙退の心にて名づけられたるものなるべし」と云つてゐる。赤堀氏「蓋し兼良公の歌林良材抄に對して、かく名づけしものなるべし」と國語學書目解題に云はれたが正に其の通りである。歌の詞、古事等を清輔の奥儀抄、簡兼の重蒙抄、顯昭の袖中抄等を引用して解釋し、自己の新案は丸云として注し、其を「いろは」順に分類したものである。殊に袖中抄に負ふ處がもつとも多い。又日本紀の歌を解いた点は釋日本紀に據つて多くは其のままに掲げ、まゝ今案を加へてゐる。本書は歌詞、古事等解釋したのであるが、日本紀の長歌などは其全部を出し、否其に關係ある歌は其次々のを掲げて釋を加へてゐる。又名目の讀みくせをも掲げてゐる。此書寫本によりて傳はりたれば誤脱も多く、魯魚の誤も少くない。本々異同も有り見える。群書一覽には七巻と記してあるが、是れは七冊に合本せりとの意かと思はれる。帝國圖書本は三冊に合本に成つてゐる。

歌林樸楸解題

歌林樸楸〔カリンボクソク〕二十八卷 八本 寫本 松永貞徳撰

今此書を本會にて刊行するに當つては山田孝雄先生の藏本を借用して底本とし、帝國圖書館本を参考した。しかし圖書館本と底本とは其系統同一ならず、到底校合は出來難い異本で有るから、脱落と思はるゝ處を圖書館

歌林樸楸 解題

―――考査(中) 倉野憲司(口) 昭和七年三月(古) 倉野憲司



本に據りて補入したり、又誤字と思はるゝ文字を校合して決定するに參考として用ゐたが校合と云ふやうな事には成つてゐない。又出来るものでもない。底本の奥書は

歌林樸楸二十八卷 策 第十四 消遊軒貞德所撰述者也

右全篇以貞德老翁之直筆爲元本書寫畢 諸君

と有つて國語學書目解題に出てゐると同じ事である。圖書館本の奥書

右以先師寶壇坊明心居士自筆誦寫爲納御陽講習堂廟藏畢尤可爲證本者乎

元祿癸未季秋望日

門人 篠田力齋厚敬判

這歌林樸楸二十八篇全八册者吾先消遊軒貞德翁所編集之書也大父及晚年著述之故求再治而命已終焉今篠田厚敬生婦聞之餘暇歷試此書該實精理自謄寫而以寄納于講習堂此吾家之至寶抗衡手哉非也 予不堪感際功添秀毫於楮尾因以爲跋

元祿十六年癸未大呂殺旦

康孫尺信軒永三

と有る。一は貞德自筆本とあり、一は篠田厚敬校訂本である。其が爲に差異を生じたのか。次々に寫す人が勝手に改めたのか、其は不明では有るが、たゞ寫誤等の相違ではなく、全く形を異にしてゐる。但し圖書館本も脱落も多く、完全の本ではない。

貞徳の傳は野史に

松永貞徳、小字勝龍神曰尚秀、稱族直江、松永久秀弟也。父曰永種(川岡雜談、○翁草引、俳諧統譜云、本族入江、攝津高槻城主入江九郎盛重曾孫、政重孫永種子、永種改族稱松永、一説貞徳母、松永久秀伯母云、又母播州宇野氏女)甫七歳、爲東福寺喝食、僅二旬、請得法華經一部、人目呼文殊喝食、(觀恩記)貞徳生京師、長而猶束、誓童服、自號長頭丸、又延陀丸(延陀或作圓陀)或消遊軒、明心居士、(雜談、俳家奇人談)好和歌、善聯句、學和歌於關白藤原植通(致山)及右大臣藤原晴季、就内大臣藤原實條爲門弟、頗得有職之名、聚樂行幸之儀衛、晴季撰定者多、貞徳就學焉、權大納言藤原雅綱居船橋、父永種携貞徳、赴見雅綱、爲門弟、授寄道祝題、其後貞徳問會式法於雅綱孫參雅教、聯歌者紹巴亦愛貞徳學才、當永種修其師遺忌冥福、設聯歌會、時貞徳執筆書表入句、紹巴呵嚙反覆授書法、清水宗我亦爲植通入道致山門人、與貞徳爲同門、宗我年老、致山薦、而後貞徳就問其遺、又古田城勝者、仕武田信玄、警者也、每咫尺實條、聞其說多、故固得聞其說、僧安休者、永種門弟也、以聯歌故實、悉傳貞徳、(觀恩記)細川幽齋退隱于吉田、貞徳師事之、親炙有年、和歌聯歌奧旨、悉得傳授、先是山崎宗鑑嗜俳句、著犬筑波集、而句式未全備聯百韻者、貞徳因撰淀川油漬之二書、正宗鑑之書有差誤、補犬筑波之遺漏、復述御傘之書、審辨其法式、(古今人物志)慶長三年八月、前攝政藤原前久、准后藤原兼孝、命幽齋、紹巴、宗養等聽貞徳、稱花咲翁、爲俳諧一道宗匠、每愛木製連、承應二年十一月

死、歳八十三、絶命歌曰、「ネカハクハ、ワレノチノヨノ、カゼトナリテ、ツキマバハラシ、ハナハチラサ
 ジ」(雜談、○翁草引、俳諧統譜云、歿于花開舎、絶命歌曰、「ツユノイノチ、キユルコロモノ、タマクシ
 ゲ、フタタビウケヌ、ミノリナラム」) 嘗講、徒然草於京師三條大橋、觀下富家或服其高髻、密附花開
 地、貞徳乃携琴書移居焉、是夜有夢、建一小祠、稱「花開稻荷社」(奇人談) 堯然入道親王亦賜方廣寺南
 地、自栽種花卉、題曰「柿園」、中造賴恩藏、納趙子昂書妙經一千部、(奇人談) 或時、貞徳問、詠歌遺於玖
 山、玖山對曰、先可樂聯歌也。雖道不異、初學者有害矣、夫聯歌者、以附前句爲趣、故其辭不
 優醜、通以用和歌、是故有碍也、和歌者以詞爲要、雖口授多、今更習得、惟宜盡流、要應埃、而
 嫉水之清矣、一日幽齋謂曰、歌道行則子亦當登庸、貞徳答曰、否我以不見行爲幸也、若盛行則大名
 巨族、多問學於師、然則我輩終世、不能學道也、貞徳謂、林永喜曰、鑿刀劍者、有本阿彌等、雖
 非鍛匠、能鑿鑿焉、如和歌亦然矣、頃間數試、未識其人、唯所得、時世遠近、粗得鑿定焉、永喜
 乃與道春撰取和歌十餘首、書以視之、貞徳斷之、頌其新古、莫一不差、(數恩記) 有門弟野口親重
 (號立圃) 松江重頼(號維舟) 山本西武(號佐以卒) 鷗冠井令徳、安原正章(號貞室) 北村季吟、高瀬
 梅盛(號他心子) 森野安靜、宮河正由(號松堅) 等數人、(翁草引、俳諧統譜) ○貞徳有子、名退年、
 號昌三、又尺五堂、別號講習堂、夙好學、師事藤原順、博覽強記、年十八、見右府秀頼、講說大學、二
 後游事加賀守護利常、異禮待之、晚歸京師、教授、築春秋館、教授徒爲業、隱號說書、是時、所司代板

倉重宗好學、素重昌三、聞春秋館狹小、爲卜宅地於堀川、名以講習堂、數應重宗請、說探史及兵
 書、明曆元年歿、年六十六、有二子、長昌易、居春秋館、仕西洞院、次永三、居講習堂、子孫襲業、

(叢話)

藤井博士が江戸文學研究に「松永貞徳の父祖について」と云ふ研究が載せて有つて、貞徳を久秀の孫と云ふこと
 に多數の書が一致してゐるが其では年代が合はぬと致證してゐられる。今引ける野史には「尚秀」で有つて「久
 秀」の弟となつてゐる。藤井博士の説を引けばよいのであるが長い文であり、畧しては通じがたいから原書に
 就て見られたい。何分にも博士の説の如く在來の説には疑ふべき点が有りて猶研究すべきである。

京師點者家譜、貞徳、松永氏幼名勝照、壯歲雅號曰「松友」軒名「逍遊」晩年復東管而著、童服、自呼曰「延陀丸」、
 後号「長頭丸」云々とある。俳道大系圖には雅名勝照、勝照の隱ヲカリテ逍遊軒ト云説アリ、佛家奇人談(野史
 は之等による)及國語學書目解題に出でたる奥書は「逍遊軒」とあるが、底本も圖書館本も奥書は逍遊軒とあ
 り、かつ三條西實隆が逍遊院で有るから、其の遠からぬ流れの末の身では逍遊軒とは号せぬで有らう。やはり
 京師點者家譜によるべきで有らう。

本書を讀んで行くと貞徳の爲人を知る事も出来る。彼の見識を伺ふに足る点も少くない。其一二を引くと
 第九「タキマヂ」の條に、先哲ヲモドクニアラズ、タマ其哥々ノ正義ヲ糺バカリ也、先哲靈魂アリトモ、丸
 ヲバニクミ給ベカラズ、誤ヲタマスハ先哲ノ本意ナレバ、カヘリテホメ給ベキカトコソ

と云つてゐる。丁度本居官長が玉勝間に師の説になつてまじき事と云つたと態度も同じで有つて、學徒の必ず心のうち深く秘め持つべき事の一つで有らう。又卷十に「タラチネ」の條に

丸是ヲ聞テ、人シレヌ泪ヲ催シ侍ル、上古ノ人ノ説ニモアヤマリハアレド、カヤウニゲニモラシクシテ、事外邪ナル説ヲ求出ス師ノ世ニ出デ、愚ナル弟子ヲマドハスコト、末ノ代ノアサマシキ義ナリ、今ヨリ後ニモカヤウノヒガミタル惡知者、名ヲ取テ正理亂ベキ事アルベシ、右ノ説天下ニ人ノ用タル連歌ノ宗匠タリシ人ノ説ナレバ、聞人無明ニ信ヲ、コシテ一生秘藏セラレシ也、コレハ宰予晝イネタリノ本文ヲ以テ、ウタ、ネヲ戒シ哥ナレバ何ノ秘事カ侍ベキ

と其當時の學界の弊風を嘆息した、彼が俗學の徒と其撰を異にせる事も十分察知せられる。又卷十一「ソガ菊」の條に

カラノ文ニモ古註ヲ新註ニテスツル例アリ、必古ヲ貴ビ今ノイヤシムベキニアラズ、古註ト云モ皆作者以後ノ推量ナレバ、其哥ノ義ニ不レ叶ヲバ不レ可用、マレニカヤウノヨキ新註アリトテ、後人古人ノ智惠ニマサルニハアラズ、古人ノ先一義付タルヲミテ、其ニテ工夫シ出ルコトナレバ、新註ノヨキモ、只古人ノカトオモフベシ、自慢ヲシテ古賢ヲ愚ニミオトスコトナカレ、云々

とは實に私どもに取つて日々心に銘じて服膺すべき教訓ではあるまいか。顯昭が學問に忠實なるに隨喜の涙をこぼして「ユハダ」の條に

愚ヲシラヌハ畜類ニ同ジ、歌人多ケレドモカヤウノムツカシキコトヲ書トマメテ、今ノ我等ニ智惠ヲ付給フ顯昭ノ御心根、アリ難事也、大知識也、大仁者也、此道ニ此法橋ホド功忠アル人無之、ヨミ方ニハ定家卿、歌學ニハ顯昭也、此兩人ノ御恩ヲシラヌ好士ハ冥加アルベカラズ、何ニテモ編ヲカレケル書ヲミテ、何トモオモハデ、結句アシキコトアレバ誹謗ヲナス人アリ、心得ヌ事ナリ、ヨクトアシクト書トメテ末代ニシラシメント思心ヲ感ジ、一切ノ物ノ本ヲバイタマキテミルベキ事也

と云ひ、「白芽子」を「アキハギ」と訓みたるを褒めて「是殊勝ノ説也、顯昭法橋タマニアラズ」と評したるなど貞徳の面目躍如たるを覺える。万葉集が手前にならないから見る事が出来ぬので委い事が書かれぬと有るなどは、今日から見れば、如何に學問をする事が難事であつたかと云ふ事をしのぶに十分である。以上の如き事は直接に學説を知ると云ふ以外に本書が私どもの經典で有るやうな氣もする。殊に釋日本紀を引ける處を今の木版本に比較して見るに余程すぐれてゐる處が有る。袖中抄等の引用文は原文の通りではないが、其でも今の木本は余程誤脱の多い本で有つて、貞徳の用ゐた本がすぐれてゐたと思はれる事も少くはない。

校訂に就てはこゝに申述べて置かねばならぬ事がある。

一、假名遣は凡て元本の通りにして置いた。此時代には無論歴史假名でないものであるが、又前後で異同も有り、是を勝手に直す事も出来ず、やむなく本のまゝにして置いた。殊に上にある「ワ」が「ハ」を用ゐられ有るなぞは讀むのに不便で有るからと思つたが、其も凡て本のまゝにして、改める事はせぬ事にした。

一、萬葉、日本紀等の訓みには無理な点や、寫誤では有るまいかと思はれる点も少なくないが、是は輕々しく改められない。確實に貞徳の訓み方を知る事は今日では出来難い。自筆本でも出て來ぬ限り寫誤たる事を辨別するに困難で有る。其で其註などで分明なる誤寫は訂正したが其他は本に従ふと云ふ事にした。古今以下のは本も大抵定まつて有る事であるから、いちじるき誤は訂正したが、其出所を私が知らぬ歌などの不明の点があるのは是れ又本に據るの外はなかつた。袖中抄を始め、其他の書は一々引出して參考にはしたが、然し是れは貞徳が便宜書き變へたと思はれるから、其に據つて直す事は出来ないが、たゞ一字誤寫など出來てゐて意が通ぜぬ時に、其元本に據つて、其誤寫たるを知つて改めた處はかなり有る。

一、提出の詞はゴヂ形の活字を用ひ、是れは濁点も清点も元本通りにして増減をせぬと云ふ事にした。註の文は大抵に濁点を加へた、あまり讀みづらいから有る。讀点も加へた。但し註のうちにも。の濁点は元本に有つたので有る。

一、長い脱落の處を圖書館本で補つた處がある、其は其の旨を明かにして置いた。底本にはかなり製本上の錯簡がある、是れは一目瞭然であるから訂正した。

一、帝國圖書館本は三冊に合本に成つてゐるが其中卷一冊「ヨ」―「テ」は全く別系の本で有つて、本書の校合に參考とならぬ。其がため「ク」の部の脱落を補ふ事が出来ない。今圖書館本によりて「ク部」全部を掲げ卷末に附載する事とした。

一、編者が加へたのは「〇」をして明にして置いた。又割注は（ ）印を加へて一行に延した。其他は大抵從來の校訂の次第によつてゐるから、自から明かであらう。

終に底本を貸與せられた山田先生に深謝の意を表する。又長嶋豊太郎君が帝國圖書館に通つて校訂を助け給うた事をも感謝する。

昭和六年八月九日校了。昨日立秋、本年の土用は雨繁くして涼しかりしかば、あつさは是れから殘暑にて味へと云ふやうな太陽がかどやいて今日も暮れた

正 宗 敦 夫

つい書落したからこゝへ追加する。本書は

一一二。 三一四。 五一八。 九一一二。 一三一一六。 一七一二〇。 二二一二四。 二五一一八。
の八冊に合本とせられてある。



日本書紀卷之四十四 崇神天皇六年秋七月詔曰、武日照命一云武夷鳥天ヨリ將來レル神寶、
 迹日百襲姫命大物主神ノ妻トナル、然トモ其神ツネニ夜來テ昼ミエズ、明ルアシ
 ノ櫛ゲニ入居シ、露給ナトアリ、アケテミ給ヘバ小蛇ノ長大衣紐ノ如ナルアリ、
 形ニナリ、汝不レ忍吾ニ恥ミセツ、我又汝ニハチミセント、大虚ヲフンテ御諸山ニ
 ノホリマス、ヤマト、ヒメ仰見テ悔テ箸ニテ陰ヲ撞テ歸ス、大市ニ葬ス、故ニソノ墓ヲ箸ノ御墓ト云、此墓、

日ハ人作、夜ハ神作、大坂ノ山ノ石ヲ運ブ、人民時人歌之曰
 多誤辭耳(手越也、人民每手運石

歌ノ心ハ、神ノマジリテツキタマハズハツキオホセガタカルベシト也
 固佐(越也、言不越也、畧須也) 固辞介氏(務介茂(難越也)

也) 固佐(越也、言不越也、畧須也) 固辞介氏(務介茂(難越也)

一イツモタケルカハケルタチ 崇神天皇六十年秋七月詔曰、武日照命一云武夷鳥天ヨリ將來レル神寶、
 又云天夷鳥天ヨリ將來レル神寶、

出雲ノ大神宮ニアリ、欲見焉、遣矢田部ノ造遠祖武諸國而使獻、ソノ時出雲ノ振根ツクシニアリ、其
 弟飯入根以神宝ニ弟甘美韓日狹与子嶋瀧淳ニ付テ貢上、既而振根還テ何ゾ我ヲ待ザル何恐之乎、輒神宝ヲ許
 ツルトイカリ、年月ヲ經テモ猶恨怒ル、其弟ヲテ、コノ比止屋ノ淵ニ多ニ妻生タリ、トモニミニユカントテ、

兄木刀ヲ作りハキ共ニ游泳トハカル、水中ヨリ兄早ク際ニ上リ、弟ノ眞刀ヲハク、弟モ上リテ兄カ木刀ヲハクニ、ヌケズシテツキニ殺シ、故時人哥曰

柳句毛多美(出雲之發語也) 伊頭毛多鶴流(出雲鼻師謂振根也、謂殺弟武畧猛惡也、故云猛也、鼻師、柳林之長) 波瀾流多知(佩也) 蓬頭邇佐波瀾根(葛輪也、上古以葛纏太刀之柄也) 佐微那詳母差成也 微与志同響也 言眞刀與偽刀佩替之由也 阿波禮

天皇ヨリ振根ヲコロシ給フ(吉備津彦、武渟河別ヲ遣シテ)

一イナ筥

(日本紀雜畧) 顯宗天皇ハ雄計天皇トモ云市邊押媛皇子ノ御子也、雄畧天皇ニコロサレタマフ、

其時御兄ノ儼許 王仁賢天皇トモ云御兄弟トモニ遊カクテ方々流軍ナサレ、播磨國 司、山部ノ連カ先祖伊与來目部小楯ガモトニ牧ニ牛馬ヲテヲハス、酒宴ノ時小楯撫經家燭者ニマヘレト云、兄弟相讓小楯噴之曰、ナンゾ起事ヲソキ、時ニ儼計云舞給、次ニ顯宗起、自衣帶ヲ 懸、爲ニ室壽曰

築立 稚室真根、 築立柱者此家長御心之鑰也、 取擧棟梁者此家長御心之林也、 取置椽椽者此家長御心之齊者也、 取置蓬覆者此家長御心之平也、 取結繩葛者此家長御壽之堅也、 取舊草葉者此家長御富之餘也、 出雲者新懸新樂之十握稻於○之穗カ壽紀には無し 於淺池醴酒美飲與哉

美飲契哉 此云于麗羅你烏野羅雨屢阿依也 吾子等(子者男子通稱也) 脚日本此傍山 牡鹿之角 擧而吾儂者旨酒飽香市不以直買手掌 擧亮(手掌擧

亮此云陀那則翠那羅羅你) 拍上賜吾常世等壽畢、乃起節歌曰

イナムシロ(稻席也、稻之被推于水折臥之形、似敷席故云稻席)又曰、飯曾飢云、又曰、俗編柳作席、(○爲)乾稻之備、故曰、已上私記之說、或說、露旅之意也、或說、河底生短草如敷席、或說、柳之流于水、曰之稻席) カハツヒ柳(河副柳也) ミヅケバ(水行也) ナビキヲシタチ(廳押立也) ソノネハウセズ(其根不也)

凡御哥意者、我身雖與皇胤爲避離、居住邊裔、喻岸柳之且隨水逢定不其根之由也

小楯大ニ驚再拜シ悉郡民ヲ發遣宮安置京都ニ二王ヲムカヘ給ヒ、白髮天皇ヨロコビタマヒ、朕ニ無子トテ天下ヲユヅリ給フ

玉ホコノ道行ツカレイナ筥シキテモ君ヲミンヨシモカナ

コレニシク思ハナキヲ草枕タビニカハスハイナムシロトヤ 公實卿

万長歌ニ

彥星ハ七タツメト天地ノ別シトキ由伊奈、津之呂河立向テオモフソラヤスカラナクニ

此「ウシロ」稻筥也、河トツマケタルハ水ノ下草イナ筥ニ似タリ、古ノ川ゾヒ柳モ水ニ移カゲノイナ筥ニ似タル故ナリ。又能因歌枕ニ、ミナムシロトハ、水下ナル石也。顯昭ノ説ニ田舎ヲ云、イネヲ席ニシク故ナリ

一イタツキ ヅグミト云鳥ヲカクシテヨム

サク花ニ思ツクミノアヂキナク身ニイタヅキノイルモシラズテ
種々ノ説アレドモワヅラヒノ心也、勞イタヅカハシトヨム

一イハカネ

石金ノコリシクヤマニ入ソメテ山イツカシミイネガテニカモ

顯昭云、磐金トモ書、イハネコリシキ、擬敷書 又

神サブル磐根コリシクミヨシノ、水ワケヤマヲミレバカナシモ

イハネ。イハカネ、同事ナリ。童蒙抄云、磐金トカケリ、物一也トアレド、石金トカキタルニヨリテ二ツト釋
セリ、不可用

一イツテフネ

サキモリノ堀江コギマフイツテ船カヂトルマナク懸ハシゲ、ン

万葉ニ、伊豆手船ト書。日本紀第十五應神五年十月ニ伊豆國ニ長十丈ノ船ヲ作ソメラル、試ニ海ニ浮ブ、カ
ク浮テトク行コトハシルガ如シ、故ニ其名ヲ枯野ト云、輕野トハ後ノ人ノ訛ナリ、同卅一年八月官舟枯野朽
用ニタヘズ、其船材ヲ斷トシテ塩ヲヤカシム、五百箇ノ塩ヲ得タリ、則諸國ニ賜テ舟ヲ作ラシム、初枯野ヲ
ニセシ日餘儘アリ、其モエザルヲアヤシミ天皇ニ獻ズ、琴作ラシム、又万葉ニ

ホリ江コグ伊豆手ノ舟ノ堀ツクメオトシバタチヌミヲハヤミカモ

イタワカシ
たつた

是ハ家持ガ越中ニテノ歌ナリ、必ズ伊豆ナラネドモイツクニテモヨムトミエタリ

丸案ニ、吾朝ノ舟ハ、伊豆ヨリ此時作ソメシトアリ、不審、應神五年以前ニ三韓セメニ行シ時モ船アリ、其外
日本紀神代ニモ舟ノ沙汰アリ、但此伊豆手船ノ作ヤウ、モト、カハリテ珍カリシヲ以テ始ト云歟、奥義抄ニ、
舟コグモノヲバイク手ト云也、片方ニ一人ヅ、合テ二人ヲ一手ト云ナリ、イツテ舟ハ十人シテコグ舟也。和語
抄ニ、イツテ舟ハ、カヂロロアル舟ヲ云ナリ。顯昭云、一手ト二人ヲ云也、和語ノ義イハレズ、クマノ、
モロ手舟ト云舟有、但舟ノ大小ニ隨テロヲバタツルニ、一手ニ手四手トハイハズシテ、五手トシモヨメルモ如
何、万葉ニハ八椀カケトヨム、カヂトハイヘドロヲヨメリ、ソレハ多カル數ヲトリテ八ト云也、椀ハトリカヂ。
ヲモカヂトテ、ニニハ不過モノ也、但椀ハ二ツナレドモ、八ハ陰ノ數ノ多カルナリ、サテ八十・八百ナドヨメリ、
五ハ陽ノ數多カル也、サテ五百・五十ナドヨメルナリ、サレバ五手ハ多カル數ナリ
丸案ニ八椀ノ説サモ侍ベシ、五手ノ説不信用、日本紀ホトナル委本説アルベカラズ、舟ハソレヨリ先キカラア
ルベケレド、日出度御時作出サレテ、カルク浮テハシリシ枯野ノ例ニナゾラヘテ、其以後ノ舟ヲバ皆伊豆手舟
トイツクニテモ名付タルトミエタリ、サレバツノ字濁テヨムベシ

一イナフネ

モガミ河ノボレハ下ルイナフネノイナニハアラズコノ月バカリ

顯昭云、稻ツミタル舟也、モガミ河ハ出羽國最上ノ郡ニアリ、ソコヨリ流タレバモガミ河ト云也、郡々ノモノ

河
い
る

ヲツミテ箱ニ納レバ、箱ヲモツムナリ、郡々ノ船舟多ケレバ上リ下ルコト數ヲシラズ、否ヲイハントテ船舟トハ云ナリ、 顯季ノ歌ニ

鳴ノフスカリ田ニタテルイナタキノイナトハ人ノイハズモアラナン

此類也、是ヲ最上河ノ早ケレバノボレドモエノボラデ下ルト云説不用、一舟ノ事ニミルハアシ、此河ハ出羽ヨリ奥州ヘ流タリ、又舟ノ頭ヲフルニヨリ「イナ」ト云説不可用「書入〇私曰、舟多クテノボル舟有又下ル舟アリテカズ」ナルヲ云歟。無名抄ニハ、此河出雲國也、早川ニテ上ルニハ四五日、下レバ只一日トアリ

丸案ニ、俊頼ハ出羽ヲ出雲ト書タガヘタル本ニテミチガヘタマフトミエタリ、奥義抄云、イナ舟ハ頭ヲフルト云古義ヲヒケリ、出羽住人申シハ、彼河スベテ早事ナシ、只クラマノ七マガリノ坂ノヤウニ、トカクヒヂオリテ流タレバ、上ル舟ノ又下ルヤウニ、ヨソニテハミユルナリト申セドモ。後撰ニ

モガミ河フカキニアヘズイナブネノ心カログモカヘリケル説

敦長卿云、モガミ河ハ、コノ比キタ川ト彼國ニ申

一イサヤ河

近江路ノ鳥籠ノヤマナル不知哉河氣ノコロノハ總ツ、モアラシ(カ)〇ンカ

顯昭云、トコノ山・イサヤ河、トモニ在近江ハ、又万葉ニ

狗上ノ鳥籠ノヤマナル不知哉河不知二五寸許瀧ワガナ告奈

而 後拾遺序云。近江ノイサラ河イサ、カニ此集ヲエラベリ云と、古今畧本ニアメノミカドノアフミノ采女ニ給ケル

イヌガミノトコノ山ナルイサラ河イサトコタヘヨワガナモラスナ

采女御返事

山科ノヲトバノヤマノ管ニダニ人ノシルベクワガ繼メヤモ

此犬上ノトコノヤマノ哥ハ、万葉ノ、イサヤ河ノ歌ナリ、尤不審ナリ、萬葉ニイサヤ河トアレバ、イサラ川ト云ベカラズ、犬上モ江州ナリ。日本紀ニ「澗水」ト書テ「イサラ」水トヨム、雨ノフルトキ川ニアル水也、又古歌ニ

我門ノイサラヲ川ノマシ水ノマシテゾ思フ君ヒトリヲバ

和語抄云、イサラヲ川トハヤリ水也、マシ水ハヨク出ルナリ、又眞清。水也、綺語抄云、イサラヲ川ハ人ノ不知事也、夕立ナドニ庭ノ水マサリテ門ヨリ出ルヲ云、ソレヲ此比ノ歌體、イヌガミヤ我名モラスナト云歌ノ、イサラヲ川也トアリ(〇有)ケルヲ人々ワラハルトカヤ、是ハイサヤ小川也。童蒙抄云、大和ニ縣川ト云アリ「隼余」ト書テ「イサナミ」トヨム故ナリ。顯昭云、我門ノイサラヲ川ノマシ水ノ歌ヲバ桓根行イサラ小河トモカケリ、此イサラ小河ヲ、日本紀ノイサラ水ト同昧ニ心得テ、綺語抄ニハ歸スル歟、其別事ナリ、万葉ノ床ノ山ナリイサラ川トイヘルニ付テ、後拾遺序ニハ、近江ノイサラ河トハ書歟、マギレヌコト也。但能因歌枕ニ、近江ニイサラ河、イサヤ河トモニ上タリ、不審ナリ、万葉ト古今ト共ニ上ル歟、古今歌ハヤガテ萬葉ノ狗上ノ哥ナ

レバ不可用者ナリ、大和瀬河ハ別事也、同是ニ不可入

丸案ニ、イサヤ河・イサラ河、國モ江州、所モ犬上ナレバ同河ノ名ナルベケレド、万葉ニハ「イサヤ」ト入、古今

ニハ「イサラ」トカヘテ入ヲ、能因面々ニ近江ニ入ル上ハ、同國ノ同所ニ少ノ云カヘニテ河ニ「ツ」アリト思フベシ、

又イサラ小川ト小ノ字入ルハ、俄ニナガル、雨後ノ川也、モトヨリ大和ノ瀬川ハ別也ト知ベシ、カヤウニワケ

テヲカズハ後學ノマドフベキト乍恐加卑詞而已

一イミシキ 也足説「シ」字清。但イミシクオボエシカト云コト、ツレ「草」ニアリ、「シ」ヲ濁テヨミタマ、

フ後ニ問侍レバ濁モ不苦云云

一鷹王 増基ノ集ノ名ナリ

一イデハノクニ 出羽國

一イリテトリ 集ノ字ノ心也、居「鳥」ノ心也、古歌能因ガ記ニ

コヨヒコソ泪ノ河ニイリテトリノ鳴テゾカヘルト人ハシラズヤ

一イハ千鳥 アヤナ鳴ホハ何故ゾナカスノハマノナカズ待ケン

岩千鳥ハ、チドリノ名ナリ

一イナ枕 稻枕賦

一イカニセン 初五文字ニハ是ナリ

一イカ、セン 中ノ五文字、又下句ニハ是也、タトヘバ

今サラニスミヨシトテモイカマセンナダノシホヤノ夕暮ノ空

一イサヨフ ヤスラウ心モアリ、十六夜ノ月ヲイサヨヒノ月ト云モ、十五夜ヨリ少ヲソクヤスラヒテ出カ

ヌル義也、イサヨフ波モ、ヤスラウ心ナリ。又

人ナラバ都ニミマシ宮木ノ、萩ヲイサヨフ秋ノタカゼ

是ハイサナフニヒトシ、サソフ心ナリ

一イツテ舟 船ハ伊豆・足柄山ノ柏木ヲ以作始ニヨル、此時ハ「ツ」ノ字「テ」ノ字濁、又五人ヅ、廿五人シテ、

ヲス早舟ノコト也、此時ハ清ナリ、又舟ハ帆、櫂、綱、イカリ、櫓・楫ノ五色ニテ行ニヨリ五手ト云

丸案ニ此五色ノ説不可然

一イカテ ト云詞ニ ネガヒタル心アリ

便アラバイカテ都ニ告ヤランケフ白河ノ關ハコエト

一イサ、メ カリソメノ心也

一イソノマユ

イソノマユタギツ山河タエズアラバ又モアヒミン秋カタマケテ

間由ナリ、万葉ニ「ヨリ」ト云義アルヤラント云ニハ皆由ノ字ヲ書リ。顯昭奇妙ノ説ナリ

コモリヌノシタ由コヒアマリ白浪ノイテジロク出ヌ人ノ知ベク
郭公イトフ時ナシアヤメ草カヅラニキンモ〔〇ヒの誤〕計由ナキワタル
ケユナキワタレハ、心ヨリナケ也、〔ケ〕ハ氣賦

一イソノカミフル

石上フルノ中道中々ニミズバ戀シト思ハマシカバ

昔女ノ布ヲ洗ニ劍ノ流カ万ノ物ヲ皆切ヤブルニ此布ニマツハリテトマル、此社ニ祝テ布留ト云ナリ、又社ナラ
ネドタ、フルト云詞ニハ、コレヨリ「イソノカミ」トツマクルナリ。奥義抄ニハ、彼社世ハジマリノ所ナレバ、
只古コトニヨセテモ云ニヤ、此義如何、又後撰ニ

イソノカミナラノミヤコノハジメヨリフリニケルトハミユル衣カ

ナラト、石上トハ遙ニノキタリ、アヤシキニ古今ノ詞ニナラノイソノカミ寺ニテ郭公ノナクヲヨメル素性

石上フルキミヤコノ郭公際バカリコソ昔ナリケレ

フルキミヤコトハナラ也、石上トマデカキヤウニヨメリ、詞ニモナラノイソノカミ寺トアリ、素性ハイソノカ
ミノ良因院ニ住バ、ナラノ遠事ハ知テ侍ケン、只ナラノ京ハ故郷ナリ、此京ニウツリテ後ハ、ソノアタリノ所
所ヲバナラト云ヤ、タトヘバ此京ノ外ヲモ山城ノ内ナレバ、京ヘノポルト云心ニヤ、此皆顯昭ノ説ナリ、尤聞
事ナリ、後撰ノ哥ハ衣ノ古キヲイハントテ石上トヲキ、又ナラノミヤコモ時過タル京ナレバ、一所ヘヨセテヨ

ミタルトシラル、ナラノイソノカミ寺ゾ不審ナレド、此顯昭ノ義ニテ一理スミ侍、若奈良ニイソノカミ寺ト云
寺ノアリツルヤラン、布留ニアル寺ノ末寺ナドアリシニヤ

一イモセノヤマ

ナガレテハイモセノヤマノ中ニオツルヨシノ、河ノヨシヤ世間

顯昭云、紀州ニアリ、昔イモトセウト、河ヲ隔テ中ノ標ヲ論ズ、遂ニイモカテテ、セノ山ノ方近ク堀ヲ吉野河
ヲナガスト云リ、又土民説ニ、イモノヤマ。セノヤマノ中ニ小山アリ、ソレヲ「イモセ山」ト云

セノヤマニタマニムカヘルイモノヤマ事ユルスカモウチハシワタル

是ヤ此大和ニシテハ我コフルキヂニアリトイフ名ニオフセノヤマ

ワギモコニ我コヒユケバトモシクモナラビキシカモ妹與勢ノ山

コレラノ心ナラバ、イモノ山。セノ山別號

オホナムテスクナミ神ノ作タルイモセノヤマヲミレバトモシモ

是ハ夫婦ニヨセタリ

木道ニコソ妹山アリトイヘ櫛上ノ二上山モ妹コソアリケレ

ムツマジキイモセノヤマノ中ニサヘヘダツル雲ノハレズモアルカナ

ムツマジキイモセノヤマトシラネバヤタツ秋霧ノ中ヲヘダツル

一イハツナ

イハツナノ又ワカヘツ、アヲニヨシナラノ都ヲ又モミンカモ
顯昭云、ツナハ何事ニモヨム、木ツナ。竹ツナモアレバ、石ツナモ、ツヨク久心賦、又イホツナ賦、「ハレト」ホ
ト五音也

アメニハモ五百郡綱ハフ万代ニ國シラレントイホツ、ナハフ
コレハ多カル心ナリ、ソレヲ畧而、イハツナト云賦、又石ハトキハノモノ、ツネト云ヲ「ツナ」ト云賦、同音ナリ
丸案ニ、右ノ歌ノ心註セネバ此ツナ何事トモシラレズ、若天ノ星ヲ分ツコトニ分野ノ圖ト云モノアレバ、天ニ
モ國ワリアル也、地ヲモワルニハ綱ヲ張コトアリ、サレバナラノミヤコノアレハテタルモ、又ナハマリシテ都
トナランヲ、ワカヤギテミントナリ

一イハシロノ松

イハシロノ野中ニタテルムスビマツ心モトケズ昔思ヘバ
顯昭云、紀伊ニ有所名也、結松ハ孝德ノ王子ニ有間皇子齊明御宇彼所ニオハシテ自傷結松枝

岩代ノハマ松ガ枝ヲヒキムスビツツシ眞幸アラバ又カヘリコン

此歌ヨリ事ヲコレリ、文武紀伊ニ幸時 人丸

後ミント君ガムスベル岩代ノ小松ガウレヲ又ミケンカモ

無名抄云、結松ノ心ハ手向ト云同事ナリ、松葉ヲ結テコレガトケザラン先ニカヘリコントチカヒムスブ也、サ
テマサシクアラバトヨムナリ

白浪ノハマ松ガエノ手向草イク代マデニカ年ノヘヌラン

松ヲムスビテ時ニ隨テ花ヲモ紅葉ヲモ折テ手向ナリ、手向草トハ是等申也。私云、此歌ハ幸紀伊之時、河島屋
子ノ歌也、手向草ト書タルヲ礼部ノ本ニハスマヒ草トヨメリ、テムカフト云義ニテ也、心ヨカラズ。神樂ニ

ミヅガキノ神ノ御代ヨリ篠ノ葉ヲタブサニ取テアソビケラシモ

是手草賦、古語拾遺、以三竹葉、飯穂木葉爲手草今多シカレバ手向草ハ此手草賦。俊賴

手向草シゲキ濱江ノソナレ松代ニヒサシキモ君ガタメトゾ

無名抄云、近來ノ人ハ石代ト云所ノ有トハシラデ失タル人ノ墓也、結松ハシルシニウエタル木也、サレバ祝ノ
所ニテハヨムマジキト云ハ僻事也、後冷泉院御時永承四年十一月九日歌合ニ左能因

春日ヤマイハネノ松ハ君ガタメトセノミカハ万代ゾヘン

右資仲辨

岩代ノ尾上ノ風ニ年フレド松ノミドリハカハラザリケリ

是ヲ大ニ条關白殿判者ノ定申サレヌ、先ニ春日山トヨマレタラン哥ハイカマクベキ、沙汰ニモ及マジト申サ
セタマヒケレバ、サルコト、テ又サタスル人モナクテヤミニケリ、後二人ノカタブキケレバ、ヨウモシラヌ事

ヲ云ナリトゾ、作者申サレケル、其人ノ子顯實宰相申サレシ、石代ノ松ハイミアルコト也ト云ケルヲ聞テ、彼石代ノ事ヲオロ聞テヨクモシラズ、人ノ云ナメリトゾ、此歌ヨミタル資仲ノ子ニテ、腹ダ、レシナメリ、石代ノ松ハウセタル人ノ墓ノ義ニハ非ドモ、有馬王子ノ位ニツキタマフベキカコレヲ思ヘバ哥合ニハヨマデモアリヌベシ、イト目出シトモキコエズトコソ申サマホシカリシカ、一説、住吉ニ岩代ト云所アリト云リ

諸語抄云、岡本天皇ノ〔〇皇子脱カ〕物ニ狂テ結儼給云ミ、此事皆以テ無詩據ニ事ナリ、齊明天皇四年戊午十月攝津國温泉ニ幸シテ有間皇子謀反被誅於磐代結松墓、義歟住吉ノ義有ヘカラズ云ミ不吉之条勿論歟、彼皇子後ニ謀反シテ被誅專内裏ノ歌合ニ有ベカラズ歟、シカラバ只高砂ノ尾上ノ風ニ年フレド、テモアリヌベシ。又万葉ニ家持歌

ヤテクサノ花ハウツロフトキハナル松ノサ枝ヲ我ハムハズ

此歌ハ石代ナラネド松ヲ結トヨメリ

丸案ニ、結松ハ云ニ不及岩代ノ松トバカリモ内裏ナドニテハヨムベカラズ、サレドモ別ノ所ニテハ更忌ベカラザル歟、アル相傳ニ結トサヘヨマネバ岩代ノ松ハ不吉トイヘド、スデニ資仲ノ哥ニ結トナケレド、此センサクアル上ハ、寒食ニツ、シライムタメシニ、祝歌ニハ岩代ノ松バカリモ無用也、又松ヲ結テソレニ花紅葉ヲ手向トアルモ心エヌ事ナリ、シカラバ其花紅葉ヲ手向草ト云ニヤ、松ハ神ニテモアラヌニ、手向ケシモ如何、シカレバ無名抄ノ結松ト手向草ト同事トアルモイハレザル歟、白浪ノ瀆松ガ枝ノ哥トハ別ノ事ナルベシ、有間皇子

ノハ松ノ枝ヲ結タマヘルトコソアルニ、ソレニ手向草ト一トハワケキコエズ、又松ノ葉ヲ結トアルモイハレズ、其時ノハ枝ナリ、此註ハ書ソコナヒ歟、松ニカキラズ、花紅葉ノ枝ヲモ結ト云コトナルベシ、ソレヲ手向草トモ云ト云事ナルベシ、ソレニテハ無ニ不審ニ也、此松ヲムスビタマヒシコト、有間皇子ニモガギラズ、家持ノ歌ニモアル上ハ只今了見スルニ、カラニハ旅ヘ行人ニ環ノ玉ヲヤル、此輪ノ如クヤガテカエラレヨト云義ナリ、サレバ其カハリニ關送ニ柳ヲ折ト云モ、柳條ヲワガヌト云詩ノ心ナリ、サレバ柳ニカギラズ、昔ハ木ノ枝ヲ丸ク結テ旅ヘ立シトミエタリ、皇子モ此心ニテ石代ノ松ヲバ結タマフナルベシ、此古事ニアハセネバ家持ガ哥モ、何事ニ松ヲ結タリトモシラレズ、又手向草ト同事ト云註モサモアルベシト思ヘバ、白浪ノ歌ノ手向草モ松ノ枝ヲ結タルヲ云トヨクシラレ侍ル、此瀆松ガ枝ノ手向草、昔ヨリシレヌ事ニテ種々ノ説アリ、和歌ノ難義ナレドモ今ノ愚案ニテ、何ノ無疑歟、又事ノ次ニ申候、手向ト云詞神ニハアリ、佛ニハ夫聞、或人云、宗祇ノ發句ニ佛ニ手向トセラレシト云ミ、縱其句アリトモ無詩據ハ和歌ニハ不可用、佛ノ事ニヨマヌ道理至極セリ、古語拾遺ノ多久佐ノ詞ヨリハジマレバ也

一 イツシハ、ラ

道ノヘノ五柴原ノイツモノ、ヒルノユルサンコトヲシマタン

顯昭云、五シバ、ラハ、道ノホトリノ柴原ト云ナリ、世俗ノ説ニモイテシバ、柴ト云是也。又歌ニ

大原ノ此市柴ノイツシカト我思アイモニコヨヒアヘルカモ

イツシバ、市柴同事也、「チ」ト「ツ」ト同音ナリ

御符スルカリ場ノヲノ、カシハ木ノナレハマサラデ懸ゾマサレル

或本ニハ狩場ノヲノ、櫻柴ノト云、イチシバ、イチイシバ也、六帖ニ芝部ニ入タリ、僻事歟、此歌ヲバ常ニハカリバノヲノ、檜柴ノトイヘリ

丸柴ニ、御カリスル歌ハ、柏木ヨリモ、市柴ヨリモ、檜柴マサル歟、サテコソナレハマサラデトツマキ侍レ、道ノヘノ五柴ハラヲタマ柴原トバカリニテハ五ノ字心ユカズ、モシ市へ出ル柴ナラバ原キコエズ、只コレハ櫻柴原ナルベシ

一イサヨフ月

山ノハニ不知夜歴月ヲ將出カト待ツ、ヲルニヨゾ更ニケル

顯昭云、ヤスラフ心ナリ、サレバステニ出タル月ノ立ノボリヤラヌヲモ、又出ヤラヌヲモ云ベシ、一方ニ付テ論ヲイタス人アリ、イガ、トキコユ

ヤマノハニイサヨフ月ヲイツトイモ（〇ルカトか）ワガマチヲランヨハフケニケリ

山ノハニ不知世経月ノ出シカト我待君ニヨハフケニツ、

六帖

ヤマノハニイデズイサヨフ月マツト人ニハイヒテ君待ワレヲ

コレハ万葉ニ

悪日來ノヤマヨリイヅル月マツト人ニハイヒテイモ待ワレヲ

此歌拾遺ニハ君ヲコソマテト書リ

新撰

ヤマノハニイサヨフ月ヲトマメヲキテイクヨミテカハアクトキノアラン

終語抄云、山ノハヨリサシイヅル月ヲ云、又月ハ日ナミニ隨テ其名カハレリ、始ニハ三日月、七八日ハカミノ弓ハリ、十五日ハモチ月、十六日ハイサヨヒ、十七日ハタチマチ、十八日ヲ居待、十九日ハネマチ、廿日ハハツカノ月、廿二三日ヲハシモノ弓ハリ、下旬ヲハヲシナベテ在明、大方ハ十五日ヨリ、月イラヌサキニ夜ノアタルヲ在明ノ月ト云ベケレド、委クイヘバ廿日ノ後ヲ云ベキニヤ、上絃下絃ハ半月ナリ、ツルカケタル弓ノ如シ、一方曲、一方直也、十六日ヲイサヨヒト云ハ、望ノ後、立待ノ先ニイヅルホドヲヤスラフト云、コ、ロ望月ヨリハ少ヲソキコ、ロナリ、人ヲイサナフト云詞也。童蒙抄云、十六日ノ月ヲ云ナリ、サレバ待トテ夜モ少更ベシ、本集ニハ不知夜ト書ハ、夜ヲシラデトク出ルカトミユルヲ、不知ト云ハ、イサト云コトナレバカク書ルナルベシ

丸云、此不知ト云ハイサト云コトナレバトアル書アヤマリ歟

今云、本集トハ万葉ニヤ、山ノハヨリ不知夜歴月トコソ書タレ、十六日ヲイサヨヒトヨム歌ニハアラズ、奥義

抄云、古今ニ

君ヤコン我ヤユカンノイサヨヒニマキノ板ドモサ、ズネニケリ

イサヨヒハ伴心也、ト或物ニ申タレド、ソレハ別ナリ、ヤストラフコ、口也、イサヨフ月ナドヨムモ、月代アカ
リテ出モヤラヌホドヲ云也。万葉挽哥ニ

カクレヌノハツセノヤマノ山ギハニイサヨフ雲ハイモニカアルラン

是モヤストラフ心也、カヤウノ事ハ、聞ハ同テ心ハカハル常ノコト也、追考、凡如此數多也

ヒトネロニイハルモノカラアヲネロニイサヨフ雲ノヨソリヅマハモ

或本ニハ、タナビク雲トアリ、雖_レ然又同集ニ

アヲネロニタナビク雲ノイサヨヒニモノヲゾオモフ年ノ此比

丸昔明魏ノ自筆ノ書ニイサヨヒノ月ト「サ」ノ字ニ清ルシヤウヲ付給タルヲミ侍リ、是ハ万葉ニ不知ト書タルニ
ヨリ、イサシラヌト云義ニテイサトハアヤマレリト思タマヘル歟、尤面白シ、サレドモ、イサヨフ月・イサヨフ
雲浪ナドヲ、イサトスミテモアシカルベシ、万葉ノ不知ノ字ハ濁ベキ義ナケレドモ、イサヨフト云詞ノ心ハ、
サソヒヤストラフ心アレバ、心ノツヨキニ隨テ濁テヨムベキ歟、ヲソキヲバイサト必サソフモノナル故也、ヨフ
ハタマヨフ等ノ類也、十六夜ノ月ヲ、イサヨヒノ月ト云モ、十五夜ヨリ少ヲソク出ル故ト云義ハ明也、シカリ
トテ、イサヨフ月トアル歌ヲ皆十六夜ト思フハワルシ、哥_ニヨリテソレ_ノニキクベシ、此義皆イサヨフ・イサ

ナフ同詞ト心ウルニヨリテ也、但明魏ノ説ヲ信ジテフカク思フニ イサヨヒ・イサヨフハ、イサナフト云詞ノ
類ニアラズ、万葉ニ、イサヨフ月ト云ニ不知ト云文字アレバ、上代ニハサ文字スミテヨミタルトミエタリ、誘
引ノ心ニイサト濁ル詞ナラバ不知ト書ベカラズ、イサヨフト云詞ハ十六夜ノ月ヨリヲコリタル詞ナルベシ、然
レバ十五夜ヨリスコシハヲツケレバ、明テモ少遲入月ノアカキニヨリテクラキ間ナケレバ、夜ト云コトハイサ
シラヌト云義ニテ、十六夜ヲイサヨヒト云ヨリ、少ヲソキヲモ、ヤストラフ心モ、タ、ヨフ心モ、皆イサヨフ
ト云トミエタリ。サルニヨリテ、イサヨフ浪・イサヨフ雲・イヅレモヤストラフ心ニアレドモサソフ義ハナシ、此
道理ヲシラデ云ツケ、聞ツケテイサナフ心アルヤウニオボユルニヨリテ、イサヨフト濁ルナリ、万葉ノ正字ヲ
ケガスベキニアラネバ自今以後ハ清テヨムベシ、過テハ改ニ憚コトナカレトハ聖ノ御詞ナリ、明魏ハ南帝ノ臣
下大才ノ人、和歌ノ上手ナリ、耕雲トモ申セシ人也〔書入○日本紀ヲミルニイサト云誘心ニ云時ハ伊弉ト書リ〕
丸ガミタル本ハ紀伊國中納言サマノ御内ノ戸田藤左衛門尉所ニ在歟

一イシフミ

石文ノケフノホソ布ハツノニアヒミテモ猶アカケモ〔○サカ〕哉

顯昭云、陸奥ニアリ、田村將軍征夷ノ時、弓ノハヂニテ石ノ面ニ日本ノ中央ノ由ヲ小書付タレバ石文ト云リ、信
家侍従ノ申セシハ、石ノ面長サ四五丈計ナルニ、文ヲエリ付タリ、其所ヲツボト云ナリ。私ニ曰、奥州ハ東ノ
ハテトオモヘドモエゾガシマハ多テ千嵩トモ云ヘバ、陸地ヲイハシニ日本ニ中央ニコソ

一 イヤトシノハ

フセノ海ノ沖ツ白浪アリガヨヒイヤトシノハニミツ、シノバン

顯昭云、年ノ始也、イヤハ彌也。万葉ニ

年ノハニ春ノキタラバカクシコソ梅ヲカザシテタノシクノマメ

毎年ニキナクモノユヘ郭公キケバシヌバクアフ〔〇ハヌヒ〕ヲオホエ〔〇ミ〕 如本

毎年謂之等之乃波ニ然バイヤトシニト可謂賦、万葉多ハ彌年ト書リ

丸云、右ノ註如何、毎年ノ字謂之等之乃波トアルハ、万葉ノ抄、公望ノ註トミエタリ、シカレバ毎年ト書テ、トシノハトヨムコト必定也、トトシノハハ年ノ始トイハントスレバ郭公ノ歌ニ相違ス、案之ニ、トシノハヲ、トシノ始ト云ハアヤマリナリ、タマ年ゴトニト云コトナルベシ、シカルニ毎年ヲトシノハト云詞ノヲコリ、始ニアラズシテハ何故トシノハト思フニ、此ハノ字ハ端ノ字ナルベシ、一年ノノ端アリ、タトヘバ稍布ヲ一端ニ端ト云ガ如シ、トシモ一年二年ト別々ニカゾフルモノナレバ、毎年トシノハトヨム賦

一 イナオホセ鳥

我門ニイナオホセドリノナクナベニケサ吹カゼニカリハキニケリ

顯昭云、古今ヨミ人シラズノ哥ナリ、又忠峯

ヤマ田守秋ノカリ菴ニヲク露ハイナオホセ鳥ノナミダナリケリ

此歌ハ菅家万葉集ニ「泪ナルラシムト入り。結語抄云、庭タ、キ也。倭語抄云、山田ニ夜ヤ曉ニナク鳥也。無名抄云、庭タ、キナメリト云人アリ、ヲシハカリナメリ、此庭タ、キハ、トツキラシエドリトゾ申ナル、ソレニ付テ心有賦

アフコトヲイナオホセドリノヲシエズハ人ハ戀ヂニマドハザラマシ

此歌ヲ思アハスルナメリ、雀ト申人アレド、雀ハ常ニアル鳥ナレバ今始テナクナベニナド露ベキコトニモアラズ、奥義抄ニモ、古今サマニニヨメリ、或ハ秋田ニヲシハム鳥ナリ。或ハ秋立タル由アリ、俊子哥ニハ

サヨ更テ稻オホセ鳥ノナキケルヲ君ガタ、クト思ヒケルカナ

又逢事ヲ教トモアリ、就之庭タ、キト申人モアレドモ、本草和名・兼名菴ナド云文コソハ万ノモノ、異名カタチヲサヘアカシタルニ、ミエタルコトモナシ、又順和名ニハ庭タ、キヲバ鷺鷥・鶴鶴ナド書テ註云日本紀云、トツキラシエ鳥トカケリ、又別ニ稻負鳥ト書テ註ニソノヨミ、イナオホセ鳥ト書テ萬葉ヲ引文ニ出シタレバコト鳥トミエタリ、順シラザランヤハ、但此古哥ニテハ庭タ、キトゾミエ侍レドモ、順ガ不弁コトヲ今ノ世ニ定メガタシ。私考日本紀云、陰神先唱曰、善哉善小男、時以陰神先言故爲不辨、更復改巡、則陽神唱曰、善哉善小女、遂將合交而不知其術、時有鶴鶴飛來插其首尾二神見而學之、即得交道、同紀公望註云、鶴鶴師說、ツ、〔〇マ脱カ〕ナハシラ。或說トツキラシエ鳥、又說ニハクナブリ、安氏說、ツ、ナハセ鳥、案之ニ、ニハタ、キト云ツベシ、然ニ本歌二首ハ古今ニ入、アフコトヲ教ル哥ハ不知定説之上、順和名序云、或舉類聚國史、

万葉集・三代集等所用之假字、水獸有蓋鹿之名、山鳥有稻負之号、野草之中女郎花海苔之屬於期菜等是也云々。
 又私云、日本琴万葉云俗用倭琴字云、万葉云、海人ア万葉喚子鳥ヨブコ、万葉集歌云稻負鳥イナオホ、新撰万葉詩
 云女郎花和哥云女倍之、(○以上原本亂レタリ袖中抄ニヨリテ訂ス)今云此物名并字引、萬葉中、稻負鳥入菅家
 万葉、然バ庭タ、キト云義ハアルベカラズ、喚子鳥モ僅出、万葉、是ハ何鳥ノ實名ト尋コトヤハ侍、只イナオホ
 セ鳥トテ秋來テ夜秋田ニナク鳥ニテコソ侍ラメ、以上袖中抄

歌林樸楸第一卷畢

歌林樸楸

第二

【ハ】

- 一ハナヲ^{ハナ}コメ、キ　　コノ字濁
- 一ハクヤウニイハク　　百詠ニ云也
- 一鳩ノウツラ　　鷹ニトラレヌ鴨ノ有事也、ハトノキマス同前
- 一春鳥　　只春ノ鳥ナリ
- 一ハイリノコヤ　　ハヒ入也、ヒキ、家ナリ
- ヤマカツノハイリニタテル青柳ノミドリノイロハミレドアカヌカモ
- 山ガツノハイリノ竹ノ下葉ヨリカヨヒテナビク野田ノウス雪
- ハイリニハ植物ヲ結テヨムベシ
- 丸案ニ、必植物ヲ結テヨムベキヤウニ古人ノ説ナレドモ、一涯ニサヤウニ心得テムスパヌ人ノ歌ヲ難ベカラズ、
 是モ彼最中ヲ漢ニヨセテヨムト云説ト等カルベシ、水邊ナラデモヨム也
- 一ハツセメ　　爲家云、ムサトハ不^レ可^レ詠。宗祇云、初瀬山ニアル女也
- 一ハシケヤシ　　顯云、「ヨシ」ト云心ナリ、又「ハシキ」トモ同ジ、又「ハシケヤシ」、喜撰式云、ハシケヤシ

ハ女ヲ云、無名抄・繪語抄・輿義抄、皆女ヲ云、俊顯歌

ハシケヤシナレコソサソヘイナワレハミタノミクニヲコノモシミ思フ

清輔、顯昭万葉ノ哥ドモカキタテ、輿義抄ノ、男ヲバ「ヨシエヤシ」女ヲバ「ハシケヤシ」ト云義ニ不叶、何ノ抄ヨリ出タリト論ジタレバ、男ハ「セナ」女ハ「ワギモゴ」ト書ナラサレシガ、世ニアル本ハモトノヤウナレバイカガト袖中抄ニアリ。万葉云、ハシキヨシトハ、帝ノモトヘ人ノ參ヲ云ナリ

今案ニ、朝參ト書テ、ハシキヨシトヨミタレバ、朝家ニツカフルヨキコトナレバ、ハシキヨシトヨメル也云ミ

ハシケヤシツマモコドモ、タカノニマツラン君ヤシマガクレヌル

ハシケヤシマヂカキ里ヲ雲居ニヤ懸ツ、ヲラン月モヘナクニ

ハシキヨシカクノミカラニシタヒコシイモカコ、ロノスベテスベナキ

ハシキヨシ君ガ姿ヲミスヒマニヒナニシスメバアレコヒニケリ

長歌ニ

ヲ「〇ハカ」シケヤシ家ヲハナレテ トモアリ

右万葉ノ歌ドモニテ可ニ分別、日本紀第七、景行天皇、日向國ニテ京都ヲ思ヒ給テヨマセタマフ

ハシキヨシ(註ニ端清也)、(日本紀ニハ端清也、イフ心ハ褒美之詞也)(丸云、此歌ヲミルニ、女ヲハシキヨシト云トハ不見) ヲキヘノカタユ(我家ノ方ヨリ也、ユハ由也) クモキタテクモ(雲居) ヤマトハ國ノ

マホロハ(ノ鳥ワキノ下ノ毛賦、マハ眞也、國ヲオホヒカクス國ト云心ナリ、大和ハ奥區之由褒美ナリ)

ハ、ナツク(青山並立ノ義也、タ、ハ立也、「タ」ト「チ」ト五音通也、丸云、タチナラビツマク賦) アヲカキ

山(青垣山) コモレル(籠也) ヤマトシ(大和ナリ) ウルハシ(麗也) イノチノ(壽ナリ) マソケン人ハ

(坐)人ハ、ソ「ト」ト「ま」ト五音通也(丸云、命、マスベキ人ト云コト賦) タ、ア(〇)按云アハ「ミ」ノ古

跡の偽カ) コメ(平群山ノ倍々アルノ由也、今群疊籠也、「モ」ト「メ」ト五音通也)(丸云、唯吾子國ハ天皇ノ御身

ヲアコトサスナリ) ヘクリノ山ノ(平群山也、ヤマトノ國ノ諸山ノ中ニ平群山ヲサシテ云ハ壽命平遠歷代

而來也云ミ) シマカシカエヲ(白檀栢也、諸木ノ中檀栢ノ兩木ハトキハカキハノ義也) ウスニサセ(註ニ

謂移殖也、干受珥移也、左勢差也、殖木ノ義ナリ)(丸云、「ウズ」ハウツスニモウフルニモ非ジ、人々

冠ノウズニサセト云詞ナルベシ) コノコ(此子也、天皇ノ自稱也)(丸云、コノコハ、ソコニ居タル人ドモ

ヲサシテ、コノコト云賦、ウズニサセト下知ナリ)

是ヲ謂ニ思邦歌也

丸云、此御歌ニテ端清ノ説明也、コレ「ハシキヨシ」ノコトバノ始ノ哥也

一ハ夕薄

ハタス、キ尾花サカフルクロキモテ作レル宿ハ万代マデニ

顯昭ハ「タ」ト「ナ」ト同音ナレバ花薄タルベシトイヘレドモ、能因ガ穂ノ出テ旗ヲ擗タルヤウナルヲ云ト申説可

然、皮薄・シノ薄・膚薄、此三色ハ種々ノ推量ノ説袖中抄ニアレドモ、トテモ委クシレヌコトヲ糺シテ無説、カヤウノス、キ品々アリト知テヲクベシ

一ハネス色

唐棣花色ノウツロヒヤスキ心アレバ年ヲゾキフルコトハタエズテ

夏待テ咲タルハネズ久方ノ雨ウチフラバウツロヒナンカ

山吹ノ匂ヘルイモガ翼酢色ノアカモノ姿爰ニミエツ、

万葉ノ裏書ニ、山ナシノ花（江都督）庭隈 柘榴 露草云々。袖中ニ、夏マチテトヨメバ、夏ノ初ニ咲歟、赤色也、非三月草、イカサマニモ「ハネズ」トヨメリ、別ノモノ、名ト可レ心得

丸案ニ、江都督ノ説ノ山ナシノ花、夏ノ始ニ咲テ赤色ナラバコレヲ可用歟、其山ナシノ花未見バ無甲斐ハ愚夏ノ初ニ赤サク花ナラバベニノ花ニ木ニサク花ガアリト人ノ申、マコトナラバソレナルベシ、紅粉ハ酢ニテ色ヲマスモノナレバ「ハネ」ハ「ハナ」ト云コト「ス」ハ酢ナルベシ、又柘榴ノ花モスキモノナレバコレヲヤ云ベキ。万葉ニハネカヅラト云カヅラハ、花カヅラ也、花ヲ「ハネ」トモ云、五貫通ズル故ナリ、シカレバヲ出シテ花ト云ハ紅粉ヲイヘバ、花ノ酢ニテ色ノマス花ト云心ニ、ベニヲハナス花ト云ナルベシ、木ニサクニアラズトモ末ツム花ノ別名ナルベシ

一ハナヒル

イテ、ユカン人ヲトマメンヨシナキニ隣ノ方ニハナモヒヌカナ

毛詩、贈ハ人道我々又咤則禱言ス。四分律云、時世尊咤諸比丘呪願言長壽時有居士咤及禮拜比丘佛令比丘呪願言長壽、今案今俗正月元日若早且咤即稱曰千壽萬歲念々如律令是因縁也、何只在元日哉、尋常々禱之。又万葉

ウチナヒキハナヲゾヒツル劍太刀身ニソフイモガ思クラシモ

此歌ハ思人コントテハ鼻ヒルトミエタリ、又云

眉ネカキハナヒルヒモトキマツランヤイツシカミント思我ヲバ

是モ同心也。奥義抄云、ハラヘスルニハ、ハナヒルヲバ忌事也。或物云、人ノ事ヲ思企ニハ、鼻ヒツレバ不叶トイヘリ

一ハタレ

ハダラ同ジ、雪ノ名ナリ

サ、ノ葉ニ薄太礼フリオホヒケナバカモコヒントイハママシテ思ハン

吾ヤドノ李ノ花カ庭ニチルハダレノイマダ残りタルカモ

顯昭云、雪トイハネド雪ニナルナリ、又天徳ノ歌合ニ 兼盛

ワガヤドニ鶯イタクナクナレバ庭モハダラニ花ヤチルラン

庭モハダラニト云コト歟、此二詞トモニ宜カラヌニヤ、シカラバ、ハタラト云コトハ聞ヨカラヌト思ベシ
 丸案ニ、鶯イタクノ詞ヲトガムルニハアラジ、庭モハダラニノ詞タルベシ、万葉ノ哥トモニハ、雪ノ異名トミ
 エテ、薄太礼トミニ、兼盛ハマダラトコ、ロエテ「ハタラ」ヲ「ハダラ」トヨマレシヲトガメタルコト歟、兼盛ノ
 「ハダラ」トヨミシ故其後ハ、ハダレ・ハタラ、雪ノマダラニフルコト、心エテヲクトミエ侍ル、今心ヲツケテ
 ミレバ、「ハタラ」ト云詞ハワルシ、又兼盛以前ニミエズ、兼盛「マダラ」ノ心ニ思チガヘテヨマレタルヲ、小野、
 宮殿被難、万葉ノ「ハダレ」ヲワロキ詞トキラフベカラズ、是ヲ推スルニ、雪ニハ草木ノ葉垂ル故ニ、雪ノ異名
 トミエタリ、スコシモ斑ノ心ハナキナリ、サレバ「タ」ノ字濁ルベカラズ、若兼盛以前ニ「ハダラ」トヨミタル哥
 アラバ此説可爲ニ僻事ハサレドモ五音同ケレバ「レ」ヲ「ラ」ニカヘタルニコソアレ、カハル義アルベカラズ、
 此庭モハダレニトマダラニ用ル詞ノヤウナルハ今ハヨムマジキ也

一ハシタカ

トヤカヘルワガタナラシノ著隴ノクルトキコユル鈴虫ノ聲

トヤダカラ云、人ノモノクヒタル古著ヲ火ニタキ、夜トヤヨリ出シソムル故ナリ、一説ニ七月ニ亡者ノ著共ヲ
 タク云ミ、シカラバ小タカノミノ事ナルベキヲ、大鷹ヲモ云ナラハシ侍ル、鶴(ハイタカ)似鷹而小也、野ノ
 行幸ニモハイタカ鷹飼トテ小鳥トラン料ニ供奉スル也、小鷹ニハ雀鶴ヲハ、ツミトモ、ス、ミタカトモ云、賦
 エツサイトヨム説哉トモ書ナリ、兄鶴コノリトヨム、皆同、小鷹ナレドコノリハ少大キナリ。綺語抄云、鷹ヲ

バスベテ著隴ト云ナリ。顯昭云、ハイタカラ云也、是ハ綺語抄ニ著隴トハ小鷹ノ名ニカ、ルタカノアル也ト云
 ノ説ナリ

丸案ニ、歌ニヨムニハ著隴ト云詞キ、ヨケレバ、何鷹ヲモハシタカトヨミテ難ナキ也

一ハニフノコヤ

久方ノハニフノコヤニコサメフリトコサヘヌレヌ身ニソヘワガイモ

万葉ニ赤土トカケリ、土ハ「ハニ」ト云也、土ニテヌリタルコヤ也。無名抄云、アヤシノ家板敷ナドモナクテ、
 ワヅカニネドコロバカリニ板ノマネカタヲヒロヒシキタルヲバ「ハニフノコヤ」ト申トカヤ

丸案ニ、俊頼ノ説ニツカハ板敷ナドモナクテ、土ノ上ニネヲキスル家ト云心ナリ、又前ノ説ニヨラバ赤土ニテ
 スリタル壁ノ事ナリ。土壁ノ説ヨキヤウニ心得ラレ侍、サレドモ、ソレニテハ「ハニ」ト云コトハゲニモナガラ
 「フ」ト云文字ノ心ユカズ

今案ニ、イカニモワビタル家ヲ云ニ、四方ヲ土壁ニテヌリタルト云バカリニテハワビタル義ニ不叶、イカナル
 大家モ壁ヲハヌルナリ、コレハヤネヲモ板ナキニヨリテ、ハニ土ヲ以テ書タル家ナルベシ、今モ片邊土ニサヤ
 ウノ家ノヤネニ、苔草ナドノ生タルアリ、コレヲ云ニヤ、又久方ノハニフノツマキ昔ヨリシラレヌ由カキヲ
 カレ候ヘドモ、コレハヤスク心エラレ侍、イカホド句ヲヘダテ、モ、下ニ天象アレバ、久方トヲクナリ、此歌
 モシタニ雨字アルニヨリテ也、久方ノハニフトツマクルニハアラズ、カヤウノ作例ヲヨクオボエザレバヒロク

歌ハヨマレヌモノナリ、又和歌ノ判者モナラヌモノ也、此巻物ヲヨク／＼ミ覺ラルベシ
一鳩フク秋

マスラオノハトフク秋ノ音タテ、トマレト人ヲイハヌバカリゾ

顯昭云、秋サカリニ山鳩ノナケレバ、其マネヲ手ヲ合スルナリ、獵師ノ鹿待ニモ、人ヲヨブニモ、亦盜人ノ木
ヲマフシニシテ、友ニシラレントテモスルナリ、マフシハ、木ヲ折カケテ身ヲ隱也

マフシサシ鳩吹秋ノヤマ人ハヲノガスミカヲシラセヤハスル

曾丹

朝マダキ袂ニ風ノ涼キハハトフク秋ニナリヤシヌラン

顯季

マフシサスサツオノ身ニモタヘカネテ鳩フク秋ノ音タテツ也

仲實

奥義抄、秋ノ始鷺トラントテ鳩ヲク、リヲキ、其カタハラニ網ヲハリ、我鹿ヲサシ、カクレキルヲ云也。或説
ニ、トヤノ内ニ鳩ヲ置鳩ヲフキテ、鷹トルトモ又鳩ヲラントテモスルト云。童蒙抄云、立秋ヨリ鳩ハナク也、
吹トハ啼ト云事也、謠ニハトフクイ「○ヒカ」タリト云ハ、スサマジキ心也。顯昭云、此説右ノ哥ドモニ不レ叶

一ハ、キ木

ソノ原ヤフセヤニ生ルハ、キ、ノアリトハミエテアハヌ君カナ

顯昭云、信濃ノソノハラ・フセヤト云所ノ杜ニ、ヨソニテミレバ藤ニ似タル梢アルヲ、立ヨリミレバミエズトナ
ン、此ハ平ノ定文家ノ歌合ノ哥也、家成卿哥合、藤原爲忠、鹿歌

ハ、キマニツマヤコモレルサホシカノソノハラニナク匿ゾキコユル

基俊判云、左ハ、キマニツマヤコモレルトヨマレタルコト難ニ心得侍、此鹿ノツマノイカヤウニ帯木ニハコモ
レルニカ侍ラン、此木林ナドノヤウニアツマリ生タル木ニモ侍サレバ、中ニコモレリトイハンニカタシ、此鹿、
猿丸・ムサ、ビニアラネバ、枝ノ間葉ノ中ニコモレランコト又カタシ、無指證文證哥、バ何ヲ指南トシテカ可甘
心説、昔風土記ト申文ミ侍シニコソ、此帯木ノ由ハ大畧ミ侍シカ、サレドハカ／＼シクモ覺侍ラズ、件木ハ美
濃・信濃兩國ノ堺、ソノハラ・フセヤト云所ニアル木也、遠クミレバ、ハ、キヲ立タルヤウニテタテリ、近ク
テミレバ、ソレニ似タル木モナシ、然ハアリトハミレドアハヌニタトヘ侍、古歌云、ソノハラヤ……如前此
左哥心、頗与ニ本文心ニ已相違詞モ非ニ秀逸。縮語抄云、ハ、キマニノ論アリ、一ニハ帯木ノアル森ノアル也、
其森イトシゲクテ杜ノ中ニハハ、キマニ生タルナリ、ソレヲ森ノ下ニ行テミレバ木ノシゲクテミエヌ也、一ニハ
帯ニ似タル木ノ其森ニアルヲ、遠ミルニハアルヤウニテ、近ヨレバウスル也。無名抄云、此比ミタル人ニトヘ
バ、サル木モミエズトゾ申。私云、爲忠歌ノ心ハ、森ノ木皆帯ニテ在ト存歟。承曆歌合師賢朝臣紅葉哥
ハ、キ、ノ梢ヤイツコオボツカナミナソノハラハ紅葉シニケリ

此歌意ハ森ノ中ニハ、キマ一本マジレルカ。經信卿記云、此哥本入ニ繼ノ弁伯誓木ノ歌ニ不レ快事ナリ、以ニ書改テ
不レ轉離不レ知所レ避、私云、如此難而俊頼入ニ金葉集ニ畢如何、件書改哥師賢

吹カラニチルモミヂバノシタガヘ、パウラヤマシキハコガラシノ風

奥義抄云引後拾遺云

ユカバコソアハズモアラメハ、キ木ノアリトバカリハヲトツレヨカシ

今勘國史、仁明天皇承和二年、勅如_レ開關東海東山兩道河津之處、或渡舟數少或橋梁不_レ備、由_レ是貢調撥夫來
集河邊累_レ日經旬不_レ得_レ利涉、宜_レ每_レ河加_レ增渡舟二艘、其價重者須_レ正稅、又造_レ浮橋令_レ得_レ通行、及建_レ布施
屋_レ備_レ于橋、寄_レ其造作_レ料共用_レ救急稻云々。陽成天皇元慶四年云、弘仁十二年國分寺尼法光爲_レ救_レ百姓濟渡
之難、於_レ越後國古志郡渡戶濱_レ建_レ布施_レ屋_レ、_〔神中抄_〕聖田四十余町_レ渡船二隻令_レ往還之人得_レ其禮使_レ而年代積
久無_レ人勞濟_レ屋宇破損田疇荒廢望_レ請_レ被_レ苑_レ越後國備九_〔五_〕神中抄_〕人_レ永令_レ領守云々。今案_ニ信州其原ト云所
ニ、フセヤト云所ノ別_ニアルカトオモフニ、布施屋トテ所々ニツクレルニコソ、サレバ信濃國ソノ原ニモ此布
施屋ヲタテタリケルニヤ。又俊賴田家秋興ヲ

ヤマ田モルキノフセヤニカゼフケバアゼツタヒシテ鵜ヲトナフ

是ハ谷ノフセヤ・シツノフセヤナド云牀ナリト存、信濃ノ岐祖ニモ彼布施屋アルニヤ、又キソ其原相違ト云リ、
又信濃國ニハ穴ヲホリテ、フキ板ノカタ_レノバ士ニウヅミテ、片方ニ口ヲアケテ、ソレヨリオリノボル、多
雪ノ深オリノ料ト云リ、ソレヲモフセヤトツ申

丸案ニ、第一ノ歌ハ、紀ノ友則作也、辨木ト云木アル説ハ不_レ可_レ然、只辨ニ似タル木ノ説可_レ然、又フセヤト
云ニ品々アルトミエタリ、一ニハ田フセト同ジク人ノフセルタケアルヤウノイヤシキ屋也、一ニハ布施屋、コ

レハ大ナル家モアルヤラン、元慶ノ國史ニ屋宇破損ストアリ、弘仁ノ時ヨリタテヲキタルガ元慶ノ比マテ殘ル
トミユ、而ニ布施ノ字ヲ用ユト不_レ審、モシ勸進ナドヲシテタツルヲ云カト思ヘバ、公儀ヨリタテラル、トミエ
タリ、案ルニ宿賢ヲアガナハズ往還ノ者ヲヤドス家ナレバ布施ノ功德ニヨセテ此名アル歟、又フセヤニ生ルト
ヨムハ、其家ニ生ルニハアラジ、其布施屋ノアリシ所ノ邊ヲ皆フセヤト云トミエタリ、サリトテ名所ニアラ
ズ、サレドモ此友則歌ヨリ以來ハ、名所トコ、ロエテ註シタルモ、古人ノアヤマリニハアラザルベシ

一ハネカツラ

波瀾蕩イマスルイモガウラワカミエミ、イカリミキテシ紐トク

顯昭云、花カツラ也、「ナレト」ト「ネト」ト同音也、サネカツラヲサナカツラトヨメルガ如シ、又家持贈童女

葉根蕩イマスルイモヲ夢ニミテ心ノウチニ戀ワタルカモ

童女報歌

ハネカツライマスルイモハナカリシヨイカナルイモゾコ、ダコヒタル

是ハ女ノ花ノ蕩ヲ敦陸ガ部類古集ニ蕩篇ニ入タル如何、文字モ蕩ト書リ、蕩ニマギルベカラズ
丸云、ハネカツラ・花カツラハ非_ニ植物_一ノ女ノカザリニ頭ニサスモノナリ、シカラバ_〔華_〕カツラ・ヒンツラ
ナルベシ、草甲ヲソフルコトアルベカラズ、又蕩字ヲ多カキタル歌書アリ、コレハ草ノカツラノ時用歟、エシ
ラヌコト也、草ノカツラニハ羅葛ナドノ字尤可然

一ハナチトリ

嘉宮ノ勾之池之放鳥人メニコヒテ池ニク、ラス

顯昭云、タマ放カフ鳥也、此歌ハ日並皇子尊ノウセタマヒテ後ヨメル歌ナリ

嶋宮ノ上池有放鳥アラビナユキソ君マサズトモ

同皇子ノ舍人等、嶋傷哥ナリ、万葉抄云、シマ宮ハ所名ナリ、ハナチ鳥トハ、ミコノミヤノカハレケル鳥ヲ、其宮ウセタマヒケレバ、シマ宮ノ池ニ彼放タルナリ、サレバ此放鳥ハ其鳥ト名ヲサスマジ

丸云、水鳥ナラバ存生ノ御トキモ池ニ放ガヒナルベシ、日本紀ニハ鴨ヲゾ多其池ニハ放タレタリケルト云リ無名抄云

ハナチ鳥ツバサノナキヲトフカラニイカデ雲并ヲ思カヘラン

是ハ飼ナドシタル鳥ノツバサノナキヲハナチテ詠バ也、マチドリニマギルレバ別ニ註ト云ミ。私云、池ノ鳥ハカヒツクルホド羽ヲヌクコトナリ、無名抄ニ、カヒタル鳥ノ翅ノナキヲ放テヨムトアルハ如何、タトヘバ日比簡ニ入テカハン鳥ヲ放モセンハ、羽ヲキラズトモ放鳥ト云ベシ、今ノ伊勢ガ歌ニ麴ノナキヲトヨメルハ、羽ヲ力ニス、人ニ取テモ臣ハ帝ノ羽翼ト云ハ御タスケナリ、鳥ノ如ニ思ハナタレテ、タスクル力モナキコトニヨセテソヘヨメルナルベシ、万葉ノ哥ハ、水鳥ナレバヤガテ池ニテ放カフ故ニハナチ鳥トハ云也

丸云、勾ノ池ノ哥、上ノ池ノ歌ノハ水鳥ナリ、サレドモ主人ノ死スル時ハ、籠ニカフ鳥ヲモ放ツ、池ニカフ鳥

ヲモ常ハ虚空ニ飛去ザルヤウニナツカ又間ハ羽ヲ少ツ、ソギヲク也、ソレニ今マデノヤウニソガズ飛去次第ニスルヲ、サシテハナチ鳥トハヨミタルトミエタリ、サレバ不吉ノ詞ナレバ哀傷ナラデハ歌ニヨムマジキ事也

一花田ノ帶

泣ナカズ泪ニタヘテ絶スレバ花田ノ帶ノコ、チコソスレ

顯昭云、催馬樂ニ

石河ノコマウドニ帶ヲトラレテカラキクニスルイカナル帶ゾ花田ノオヒノ中ハ絶タルコレヲ本ニテ、中ハタユトヨム也。古歌ニ

君ガセシ花田ノ帶ノ中絶テサレハゾイヒシナカ、ラジトハ

俊頼歌

石河ヤ花田ノ帶ノ中ダエハコマノワタリノ人ニカタラン

是ハ山城ノ國ナリケル人ノ妻ヲ、或人忍テモノ申トキコエケルヲ、ホドモナクカレ、ニ成ヌト聞テ遣シケル云ミ

一萩カ花スリ

ケサキツル野原ノ露ニ吾ヌレヌウツリヤシヌル萩ガ花ズリ

顯昭云、催馬樂ノ更衣哥心也

衣ガヘセンヤサキンダチヤワガキヌハ野原シノバラハギノ花ズリヤサキンダチヤ
又万葉云

ワガキヌハスレルニアラズタカマトノ野ベユキシカバ萩ノスレルヲ(○ゾ袖中抄)

萩ノキヌニウツリタルガスレルヤウニミユルナリ、或古物云、此籥永ガ哥ヲバ時ノ人笑ケリ、催馬樂・万葉ノ
歌ヲバシラザリケルニヤ、又萩ニテスルトモヨメリ。万葉云

古ニアリケン人ノ求ツ、キヌニスリケンマノ、萩ハラ

寄木歌

シラスゲノマノ、榛原心ニモ思ハヌ君ガ衣ニゾスル

奥義抄云、万葉ノマノ、萩ノ哥ハ入ニ詠木哥部。今案ニ、稱ニ大萩是賦、古枝ニ花渡ナドヨマン此義ナリ、
榛字用之、萩字ハ小萩賦、但万葉ニハ皆以榛字用之。私云、眞野ナラヌ野ニモ木萩トテ、古枝ニ花サク萩
アリ、モトアラノ小萩トハソレナリ、其木萩ハカリモシヤキモシタレド、新シク枝ハエテサケリ、唯萩ハ古枝
ニサクコトナシ、俊頼頼哥ニ

春キヌトキ、ダニアヘヌ明クレニカスミニムセブマノ、萩原

是ハ時ニアハヌヤウナレド、マノ、萩ハイツトモナケレバ如此詠ナリ、其マノ、萩ニテ衣ハスル也、他所ニハ
其萩ナシト俊惠カキタルハ、コ、ロエヌ事ナリ

住ヨシノ遠里ヲノ、眞榛モテスレル衣ノ盛過行

思フコノ衣スランニ句ヒセヨ嵩ノ萩原秋タ、ズトモ

ヒクマ野ニ句フ萩ハラ入ミタル衣ニホハセ旅ノシルシニ

今云、眞野ナラネドモ榛字ヲ書、ミナ衣スルトヨメリ、又此催馬樂更衣哥ニ秘説アリ、春夏ハ萩ノ葉スリヤト
ウタヒ、秋冬ハ萩ノ花摺トウタフベシト云々、ソレヲ秘説ニ付テ譜ニアラハサズ、萩ノ葉ノスリト書タルハワ
ルシ、彼纏振ノ風俗ニ

ナハノツフラヘノ春ナレバカスミテミユルナハノツフラヘ

アルヲ秘説ニテ、春夏ハ如此ウタヒ、秋冬ハキリニモミユルナハノツフラヘトウタフガ如シ。但或本云、ナハ
ノフリ

ナハノツフラヘノセナノ春ナレバ霞テミユルナハノツフラヘ

ツフラヘノセナヤ秋ナレバキリニモミユルナハノツフラヘ

如此説ハ時ニ隨ニハアラデ本末ニ如此歌賦

丸云、ナハノツフラヘノ歌、後ノ本末ノ説尤也、始ノ萩ノ葉ズリノ秘説イハレヌコトナリ、是ハタゾ其昔其部
曲ニ名ヲ得タルモノ、稀ニフトウタヒカヘタルヲ、後人面白思テ秘事ニシタルナルベシ、サヤウニイハハ、一
切ノ春秋ノ哥ヲ、夏多ニカヘズシテウタフハ皆アヤマリナルベキ賦、詠歌モウタヒ物モ其時ニナキモノヲトリ

出テ飯コソ哥ノ徳ナレ、センナキ批判ナレドモ万事付テカヤウノ道理ニ不達コトヲ、秘事ガマシク書ヲキタルコト多ケレバ、後生ノ人ニ眼ヲツケヨト思テ如此記之
又赤人ノ歌ニ

百濟野ノ萩ノ古枝ニ春待トヨリシ鶯ナキニケルカモ

萩ハ花モ葉モカハラズ一種ナレドモ、ツヨキヨハキ性ニヨリテ古枝ノ殘ルト不殘トアル歟。榛シ(實似ニ小栗ニツバキクリ)小栗也ト字書ニアリ、万葉ノ比ハ此字ヲ用タルヲ、其後古今ノ時ヨリアヤマリト改テ萩ノ字ヲ書トミエタリ、萩日本ノ作字カト中人アレド、玉篇ニ「ハギ」ト付タリ、万葉ニハ榛字ニツキテ木部ニ入ト云ドモ、今ハ草ニノミ可レ用事ナリ

一ハモリノ神

カシハ木ニ葉モリノ神ノマシケルヲシラデゾ折シタ、リナサルナ

顯昭云、雄神也、万ノ椎ヲ守ル神ナリ、サテ葉ヲ守ル神ト云也、シカルヲ家成卿哥合、落葉ノ題ニ通憲ガ哥

ナニシオハマ葉守ノ神ニイノリミンハ、ソノ紅葉チリヤノコルト

判云、ハモリノ神ハ柞ツノカヘデノ葉守ル神ニアラズ、弘仁式ノ三綱柏ノ所ニクハシクミエテ侍レド、事ナガクテ申侍ラズ。私云、此事ノ説々彼柏ノ哥ヲヒケリ、柏木ノミ守ト云ニヤ、弘仁式ヲタシカニ可考之、他ノ木ヲ守ランヲ嫌ベカラズ、通憲定不暗(○精)ニ三綱柏ニ賦。無名抄云、木ノ葉ヲマボル神ノ椎ニハオハスルナリ

丸云、後撰集 第十六雜二云、柞ツ左大臣用侍テナラノ葉ヲ求侍ケレバチカヌガアヒシリテ侍ケル家ニトリニツカハシタリケレバ。俊子 イエヌシ

ワガ宿ヲイツナラシテカナラノハヲナラシガホニハオリニヲコスル

返シ 柞ツ左大臣

ナラノ葉ノハモリノ神ノマシケルヲシラデゾ折シタ、リナサルナ

大和物語ニモ如レ右

丸案ニ、ハモリノ神トヨミタル歌万葉ニモ古今ニモミエズ、此後撰ノ歌始也、雄神ノコトハ一切ノ木ニアルコトナガラ、三綱柏ノ説ヲ以柏ニカギルト歌合ニ判セシ上ハ、顯昭ノ詞バカリヲ以、今コト木ニヨマン事ハアシカルベキ事也

歌林樸楸 第三

【二】

一ニイハリツクハ (日本紀景行ノ内) 日本武尊蝦夷ヲ平ゲ自ニ日高見國ニ還ニ之西 南ニ歷ニ常陸ニヲ至ニ甲斐國ニ居ニ于酒折宮ニ時ニ擧燭ニ而進食 是ノ夜以レ歌之間ニ侍者曰

珥比慶利(新治也、言、旅宿也、旅行之時引レ如レ織之義也、首書云、珥比慶利ハ欲レ謂ニ筑波ニ之發語也、又

常陸國新治郡在之、丸云、世ノツネノ説ハ壘トテ苗ノ生出テ針ノ如ナルヲ云ニヨリ、針ハ尖ニテモノヲツ

クト云秀句ト云リ、コ、ニ郡ノ名ト出セリ、是正義也、サレドモ此御歌ヨリ後郡ノ名ニ付タル歟) 薨政

波場(筑波) 須臾氏(過) 異政用加(幾夜) 爾業流(寢)

諸ノ侍者不能 答言時ニ有ニ乘燭者ニ續ニ王歌

伽羅奈倍氏(謂並心計也) 用珥波虛々能用(九夜也) 比珥波苦場伽場(十日也)

丸云、カマナヘテト云詞ヲツネハ哥ノ序ノ詞ト心得テ、夜ニハ九夜トイヘリ、日本紀ノ歌ハカマナヘテト云

ハ、歌ノ五文字ナリ、或首書ニ、カマナヘテハ實ノ義トアリ、手ノカマミカネタル心賦、タマカンガヘカゾフ

ルコトノ註可然歟、是今ノ代ノ連歌之體觸云ニ

一女帝

一ニキ 日記也

一ニフノ忠峯

一任那ノ國

一二四八

ナヲ坊(○ラ坂)ヲキナキトヨマス郭公二四八トソオチカヘリナク

顯昭云、此歌万葉ニアリトイヘド未見、又二四八ヲハツ隱ナド申メレド如何トキコユ、訓ニヨムヤウアルベ

シ、又七モジノ八九モジアルコトハアレド六文字アル例ナシ。公實卿

オチカヘリイホニナケドモ郭公二四八トモニ珍説

堀河院ヨリ二四八可ニ註進ニ之由アレバ此歌ヲ止テ

ワレハサハ入ヤシナマシ郭公山路ニカヘル一隱ニヨリ

是ヲ百首ニ被レ入、公實モ委ハシラレザリトミエタリ。カヤウニ古來シレヌ事ナガラ、丸思案シテ心ニカナヘ

ルヨミヤウ侍ル、ワザト筆ニハアラハサズ、同志ノ人ニカタリ賦侍ベシ

一鳩ノウキス

アフ事ノ渚ニモスル鳩ノスノウキシツミツツモノヲコソ思ヘ

顯昭云、此鳥集ヲ波ノ上ニツクリヲキテ、方々ヘユラレアリク、細政モ ユラレキテトヨメリ、此義ニ付ベ

シ、マサシク池ナドニアルハ、アチコチクヒモテアリクト人々申セリ、十郎藏人行家ハ、芦ノクキヲ便ニツク
レバ水フカケレバシヅミタルモ浮ビ、アサクナレバ浮タルモシヅミテユラレアリカストイヘリ、又顯輔ハ、ア
カラサマニモクガヘノボラヌ鳥トコソ、サレバ水ノ上ニツクルニヤ、又伯母ノ案ニハ、鳩ハ氷ニラツル鳥也ト
カケリ。高陽院ノ歌合ニ雪ノ歌

フミ、ケル鳩ノ跡サヘヲシキカナ氷ノ上ニフレルハツ雪
此歌ノ註ニ書リ

丸案ニ、顯昭ハユラレアリクノ説ニヨレリ、汝ナドニアルヲ人ノミテ云ヲ信ゼリトミユ、併此逢事ノ渚ニヨス
ルトヨメルハユラル、ニハアラズ、芦ノクキニツクレル集モ、芦ト、モニ波ニユラメク躰ナリ、下句ノ浮沈ト
云詞ヲ以ミレバ行家説正理ナルベシ、浮集ト云トテムサト流レアリクヤウニ集ヲツクルベキイハレナシ、一寸ノ
虫ニモ其集ヲ大事ニカケテウシナハヌヤウニスルホドノ智惠ハ生ツクモノナリ、芦ナドノナキ池ノ海川ノヤウ
ニ、ヨソヘユカヌ水ノ上ニハコトナルモノヲ便ニテ作ランモアルベケレバ、ソレヲ定木ニハミルベカラズ

一二ハタチ

モロコシノ屏風ノ繪ニモミチ本ノママ、〔○テキ神〕アレバワガスベ〔○レサヘ無形式〕神ノ庭タチノヨキ〔○サ式〕

顯昭云、ニハタチハ神ノオリ給コト歟、神樂ニハ庭火ト云事アリ、又社ニハヒロ庭ナド云リ、又諸社ノ行幸ニ
モニハノ座トテアリ、又歸立トモ云リ、神ニハ座立アルコトナリ。孫姬式云、漢國ノ屏風豈勝我〔○神ヲア〕

之立庭伊〔○倭〕流屏風欲釣故人之累路共古〔○右〕神樂寄也

カミカタニイセヘ我行歸サニモハモマツラン門サスナユメ

下向也、又神カタニトハ、太神宮ノ御カタト云歟、將又神風ヲ書タガヘタル歟

一ニシキ木 アラテクム

錦木ハ千東ニナリヌイマコソハ人ニシラレヌ閩ノウチミメ

顯昭云、二ノ様アリ、一ニハ奥ノエビスハ女ヲヨバントスルトキ、文ヲヤル事ハナクテ、一尺バカリナル木ヲ
マダラニイロドリテ女ノ家ノ門ニ立ルニ、アハント思フ男ナレバ、ソノ木ヲトリ入ツ、ヲソクトリ入レバシキ
テ猶立テ、千東ヲカギリニテタツレバ、賊ニコ、ロザシアルト、ソノトキトリ入ルト云リ、或千東ニナリテモ
トリ入ネバ、思タエヌト云リ、但一筋ヲ立ル木、東トイハント如何ト、ウタガハル、故ニ、薪ヲコリテ立ト
云義ハ侍レド、ソレハ別ノコトナリ、一筋ナリトモナドカツカトイハザラン、和語抄云

錦木ノ數ハ千東ニナリニケリイツカミタチノヨルハミルベキ

今云、コレハサキノ哥ト同心ナリ、匡房歌ニ

思カネケフタテソムルニシキ木ノテツカモマタデ相由モガナ

又千東過ニモ猶タツル由ヲ藤原永實

イタヅラニ千東クチヌルニシキ木ヲ猶コリズマニ思タツカナ

一ニハ錦木ト云ハ灰木ナリ、モノ、色ニアフユヘニ其木ヲ灰ニヤキテサセバ云也、東國ノ紺布ノイロノ光目出度ハ、其灰ノ木ヲサスユヘナリ、ヤガテモ其灰木ヲ錦ト云ナリ、ソノ木ヲコリテタツレバ、錦木ノチツカト云ナリ、モノ、イロニアフユヘニ視テ、トクアフベキ由ニケサウ文ニ用テ門ニ立ルナリ、サレバ錦木マダラニイロドルト云コトハ錦木ト云ニ付テ云ナルベシ、サモアラキフルマヒニテ、チツカマテイロドリデタテソコトモ如何トゾオボユル、此後ノ義アシクモ侍ラズ。奥義抄云、灰ニテ錦ノ糸ヲモ染レバ錦木ト云、又薪ヲイロドレル也、サレバチツカトモ云トアレド、千東マデイロドラソコトハ如何。又能因ノ歌ニ

ニシキ木ハタテナガラコソクチニケレケフノ細布ムネアハズシテ

私云、此哥モ只錦木ト云ルバカリナリ、色ドルトモ不見、無名抄云、陸奥ニ男女ヲヨバ、ソト思フトキ、消息ヲバヤラデ薪ヲコリテ、毎日ニ一東ソノ女ノ家ノ門ニタツルヲ、アハント思フ男ノ木ヲバ程ナクトリ入ツレバ、其ノ後ハ木ヲバタテ、ヒトヘニ云ヨリテシタシクナリヌ、アハジト思フ男ノ木ヲバ、イカニモトリ入ネバ千東ヲカギリニシテ三年立ルナリ、此木ヲ錦木ト云事ハコ〔○タ神〕マホコノサホノヤウニマダラニ色ドリテタツレバ云ナリトゾ、知タリトオボシキ人ハ申セド、實ニハサモセヌトカヤ、錦木ト云ニ付テイヘルニヤ。私云、此義如何トキコユ、始ニハ薪ヲコリテ日毎ニ一東立ト云、後ニハマダラニイロドリタレバ錦木ト云トイヘリ、イロドル義ニテハ薪一東ト云ベカラズ、薪一東トイハマイロドル義アルベカラズ、オボツカナシ、一方ニ云トラスベシ、然ニ實ニハサモセヌトカヤ、錦木ト云ニ付テイヘルニヤトアルハアシカラズ。又

アラテクム門ニタテタル錦木ハトラズハトラズ我ヤ苦キ

ヤマカツノ門ノメグリニ三グミニシタルワラクミニテ垣ヲシタルヲ云ナリ。私云、古文ドモニ千東タツルトハアレド、毎日ニ三年立トモイハズ、又ニシコギト書タル本モアリ、同事ナリ、「キ」ト「コ」ト同音也。和語抄云、彼エビスハ女ハラミヌレバ、女子ナラバワカメニセン、男子モタルモノハワガヨメニセン、男子ナラバワガムコニセント約束シテ、此木ヲ門ニ立ル也、其ハラミタル時ヨリ、契テタツレバ、ニシコキトハ云ト云リ、又五色ノ木トモ云。私云、此コキノ事モ只詞ニツキテイヘルコトナルベシ、或「ニシコリギ」ト云ヲ異シタルト云人モアレド皆ヲシハカリノ事也。又能因歌枕ニ「ニシコギ」トハ薪ヲコリテ東ノエビスノケサウ文ヤルニ付テ、ヨバフ女ノモトニヤルナリ云々。今案ニ、コレモ錦木ヲ「ニシコギ」ト云ナシタル歟、若ハ又錦木ハ女ノ門ニ立「ニシコギ」ハ薪ヲコリテケサウ文ヲツケテヤル木ニヤ、又錦木ニトリテ只木バカリヲタテズシテ、灰ノ木ニモ文ヲ付テ立ニヤ、ソレヲモトリ入ネバ、タテナガラタツトイハンモタガフマジ、打任テハ文ヲ付ゾイハレタル、申文ヲモウルハシキコトニハ木ニハサミテコソハ上モシ、立ルコトニテアレバ、視テ灰木ニ文ヲ付テ立ン事ハイハレアルヲ、錦木タツルト云コトヲムネトシテ、文ツクル事ヲ云ノコシタルニヤ。或云、傳ベキユカリモノキモノハ、門ニ文ヲ立、錦木ニ文ヲ付テヤル事モヤアラン、オボツカナシ、イカサマニモ薪ヲコルト書タレバ、灰木ハ叶ヘリ、ワザトマダラニイロトルトハ云ベカラズ

丸案ニ、説々多シテマダラハシク、ツキニ落着ナシ、トモアレカクモアレ、能因ガ哥枕ノ説ニ付テ、ソレニ叶ヲ

正發トスベシ、先錦木トハ灰木ノ名ナルトミエタリ、ソレハ薪ナレバ「ニシコギ」トモ云ベシ、薪ハコルモノナレバナリ、モノ、イロニアフ物ナレバ祝ノ心ヲ以テ其ニシコギニ文ヲ付テ、先一本門ニ立ルナリ、ソレヲトリイレヌトキ、コリセズタテカサヌルニヨリテ、歌人ノ千東ニモナルトハヨミナシタルモノナリ、此ニシキ木ノ外ニ、マコトノ柴薪ヲ千ゾク万ゾク門ニツミタルコトニハアラズ、錦木ト云木即薪也、火ニタキテ灰トナセバ也、ソレヲ薪ヲコリテ文ヲツクルト哥枕ニ書タリ、ケサウ文ツクル薪ノ名ヲ錦木トモ、ニシコキトモ云ト知ベシ、其木ハ只一本ナルベシ

一ニケ水

東路ニアリトイフナルニゲ水ノニゲカクテモ世ヲ過スカナ

俊賴

アヅマヂニアリ、クマントスレドモ大方クマレデニグル水ナリト云傳タル、イヅレノ國ニアリトモシルサズ

【ホ】

一牧馬

一法性ノ室戸

一法興院

一ホウノ半ノ枕トモヨメリ

一星ノマキレ 暮ニ曉ニアリ、一アルト思ヘバ二三コ、カシコニソヒテ前ノホシノマギル、ナリ、曉ハ多アルホシイヅレカラトモシレズ、一ヅ、ウセテミエズナルナリ

在明ノ曉ヨリモツラカリキ星ノマギレノ宿ノワカレハ

明ヌトテ泊コキイヅル友舟ノ星ノマギレニ雲ゾ別ル、

一ホツエハ 枝ノ未也、ハツ枝モ同シ。但木ノ花ノツボミヲ持テ、ホツエト云、葉ノスエヲハツエト云。以上宗祇ノ説ナリ。

丸案ニ、ホズエナルベシ、「ツ」ノ字ナルベカラズ、又花ノツボミノ説不ニ信用、只「ハヒフヘホ」ノ同音ナレバ無ニ差別ニ同ジ心ニ梢ヲ云ナルベシ、ホノカナル梢。ハツカナル梢トイカニモトサキホトヲ云ナルベシ

一ホロニフミアタシ

天雲ヲホロニフミアタシナル神モケフニマサリテカシコケンカモ

「ホ」ハアラハナル詞ナリ、「ロ」ハ休字也、アタシハワタシナリ、或ハフロニフミアタシトモアリ、「ホ」ト「フ」ト同音也

一ホトロク

童蒙抄云、モノ、程々ニタマレルヲ云、雪ノイダクフラヌホドハ、モノ、キハ／＼ニタマルナリ

丸案ニ、此説ナラバ「ホト」ノ「ト」ノ字濁テヨムベキ歟、「ロ」ハ例ノ付字歟

夜之穂拵呂ワガ出テクレバワギモコガオモヘリシクヨ佛ニミユ

秋ノ日ノホダヲカリガネクラヤミニ夜ノホドロニモ鳴ワタルカモ

是ヲモ夜ノマダラト云歟、偏ニアカクモナラヌ心ニヤ

丸案ニ、此義カナハズ、童蒙ノ程ノ説可也然

一ホカラく

シノ、メノホガラくトアケ行バヲノガキヌくナルゾワビシキ

朗ト云字ナリ

一穂ヤ 非ニ人家ニ神ノ舎也、宇治・諏方ノ兩所バカリニアリ、薄ノ穂ニテ作ル

丸案ニ、ウヂノミヤコノカリホシゾ思フ、トヨミタルヲ、帝ノカリホノ庵ト同ケレバ、必神ノ御家バカリニカ
ギルベカラザルベシ

東路ノホヤノ、薄ホニ出テシドロモドロニ乱アヒニケリ

一ホヤノス、キ

信濃ナルホヤノス、キニ風フケバソヨくサコソイハマホシケレ

顯昭云、ホヤノト云所信濃ニアリ、其ノ所ニアル薄ナリ、或書ニハチイサヤカナル薄トカケド如何ト覺ユ

云、諏方明神ミサヤマノトウ人カリヤヲ作テツケタルコト也

丸云、御射山祭ノ哥

尾花フリホヤノメグリノ一村ニシバシ里アル秋ノミサヤマ

是ハ此祭ノ日、穂ヤヲ作トミユ、薄ヲ御草ト云モ此祭故ナルベシ、ホヤト云所ニアル薄トイハルレバ常ノ薄ニ
アラザルヤウニテワルシ、只カハリメハアルベカラズ、ソコニアル常ノ薄也、ソレヲ屋ニフケルヲホヤノ薄ト
云ナルベシ

歌林樸楸 第四

【ト】

一トコ世ノムシ 皇極天皇三年東國不盡河邊人、大生部多勸祭ニ虫於村里之人曰、此者常世神也、祭ニ此神者致富與壽、巫祝等遂詐託ニ於神語曰、祭常世神者、貧人致富、老人還少、由是加勸捨ニ民家財寶、陳酒饌、○紀ナシ、榮六路於路側、而使呼曰、新富入來、都鄙之人取常世虫置於清座、歌舞求福、聚拾珍財、都無所益、損費極甚、於是葛野秦造河勝惡民所惑、打大生部多、其坐視等恐、休其勸祭、時人便作哥曰

ウヅマサハ(大秦也、河勝之姓也) カミトモカミト(神也) キコエクル(聽來也) トコ世ノカミヲ(常世神也) ウチキタマスモ(持絶也、又打倒也)

丸云、ウチキタマスモハ、非此義「キ」ト「ケ」ト同音ナレバ打ケテタマヒマシマスナリ
此虫者常生ニ於橋欄、或生ニ於曼研、(曼研此云哀會記) 其長四寸餘、其大如頭指許、其色綠而有黑點、其貌全似三毒蠱

一トヲタアファミ 遠江也

一トマテ ハ八雲ニ田新也、私(了俊也) 手クビニ鷹タヌキノヤウニワララクミテ貫入タルヲ云ト土民ノ

説也

一トヨノアカリ 豊明節也、十一月ノ大會ノ事ヲオシ出シテイヘド必五節バカリヲイハズ、年中ノ節會ヲ云、サレバ宴字ヲモ「トヨノアカリ」トヨメリ、非神祇ナリ

一トハカリト云詞ハ シバシノ心アリ

一鳥カナシアツマ

トリガナクアツマ男ノツマワカレカナシクアリケン年ノ緒ナガミ

袖中抄ニ日本紀玄中記ヲ引テ鷄ガ啼テ東方カラ夜ノアルクヤウニ聞セラレケレドモ皆不叶、是ハ夫婦イネテハ曉ヲ妻ニ告ルトキ、ハヤ鳥ガナクゾ、ア、ツマト、ナゲキテオシユルナラヒノ詞ヲ、アハレナルコトナレバ東ノ枕詞トセシナリ、コレ正義ナリ、不レ可レ疑

一トコヨノ國

常世邊ニアラマシモノヲ劍太刀ワガ心カラヲソヤコノキミ

顯昭云、日本紀ニ蓬萊山ト書テトコヨノクニトヨム、然ヲ後拾遺、ヒサシウワヅラヒケル比、鷹ノナキケルヲキ、テ 赤染衛門

オキモキヌ我トコ世コソカナシケレ春カヘリニシカリモナクナリ

此歌ニ付テ鷹ハ常世ヨリ來ト鬮鬮等ニアリ、常ハ胡國ヨリ來ト云、又蓬萊ヨリ來ト云、本文未見、蓬萊ハ東

ナリ、又鷹ノ仙家へ往反モ如何、又赤染所勞トブラヒニ來ル人ヲウタガヒテ。江匡衡

カリニクル人ニトコヨヲミセケレバ世ヲアキカゼニ思ヒタルカナ

又、清正哥

トコ世出テ鷹ノ羽衣サムキウヘニコ、ロシテフケアキノヨノ風

又考、日本紀公望註云、常世何處乎、答或此國云々、亦云蓬萊ト、然則是仙人ノ所在居耳、所在未詳云々、又万葉ニ、大伴卿向京上道之時、過輶津一日作哥

ワキモコガミシトモノウラノムロノキハ常世ニアレドミシ人ゾナキ

此歌ハ、トキハト云義賊、但赤染・清正ガ哥床ヲソヘタレバ蓬萊也、心エガタシ、儘可考ニ本文、或云、此國又蓬萊、然則是仙人所在未詳云、此國ハ常世胡國ト云ベカラズ、亦日本記ノ註ニトコ世ヲバ或ハ此國ト云リ、胡ノ國ト云コト歟

丸案ニ、日本紀ノ註ニ此國トアルヲ、胡ノ國ト云義ノ註尤ト存ザレドモ、鷹ノトコ世ヨリ來ルト云未決。丸心ヲ付テミルニ、鷹ハ北ヨリ來レバ、唐ノ北ノ胡國ヲサス、其イハレアリ、蓬萊ハ唐ヨリ東海ニ在トミエタリ、徐文成ガ秦ノ始皇ヲアザムキ仙藥ヲ求ニ蓬萊ニ赴トテ出タリシモ、日本ノ富峯又熊野山ニ上ルト云、楊貴妃ノ魂魄ヲタツネシ方士モ、熱田宮ニ來ルトイヘバ、日本ヲ蓬萊トサシテ公望ガ註ニ此國ト云ナル歟、又蓬萊ニハ不死ノ藥アルニヨリテトコヨノ國トヨム也、須彌ノ四州ヲ聞ニ、南瞻部州ハ壽命短ク、北州ハ壽命千年ナリ、鷹

ハ北ヨリクレバ命長トコロヨリ來ト云義ニテ、鷹ハトコ世ヨリ來ルトヨムナルベシ、其トコ世ノ文字ハ日本紀ニ蓬萊ト書テヨマセタレバ、ソレニツキテ顯昭ノ不審モ出來カト存、此外別ニ自蓬萊ニ鷹ノワタルト云本文アルベシトハ不存、將來之君子猶タマサルベシ

一トフヒノ野守

カスガノ、トフヒノ野守イデ、ミヨイマイクカアリテワカナツミテン

顯昭云、兩義アリ、一ハ飛火ノ野守、一ハ飛火野ノ森也。奥義抄云、普通義ハ飛火ノ野守也、實ハ森ナリ、而ニ森ニワカナツマンコト不審。但寛平法皇春日詣之時、大和守忠房所獻歌云

ワカナツム年ハヘヌレドカスガノ、森ハケフヲヤ春ト知ラン

忠房廿首奉ルニ、返歌ヲ二首ヅ、女房ニヨマセテ廿番ニツガハレテ歌合ニセサセ給ヘルナリ。返歌

ケフニテゾ春、〇ワレ袖モ知ヌル春ハ猶カスガノ野ベノ森ナラネドモ

アリヘテモカスガノ、モリ春ニアフハトシモワカナモツメルシルシカ

又忠房哥

今年ヨリ包ソムメルカスガノ、若紫ニテナ、フレソモ

返歌

紫ニテモコソフルレカスガノ、野守ヨ人ニワカナツマスナ

チハヤブル神トミルランカスガ野ノワカ紫ニタレテフレマシ

今案ニ、森ハケフヲヤトヨムハ野守ヲト畧賊、森ノ一義用ベカラス、又トモシハ唐令云、諸置^{ヲトフヒ}烽之處置^ニ火臺之上^ニ梓^ヲ又此國ニモアリ。國史云、天智三年於對馬・壹岐・筑前等置^ニ防与^ニ烽、和銅五年廢^ニ高安烽始置^ニ高見及春日烽以通^ニ平城也、延曆十五年山城・大和兩國相共使處置^ニ彼烽燧。又能因哥枕云、肥前國ト^ニブヒノ岡、又万葉長歌云、イコマヤマト^ニブヒガクマニ、又ト^ニブヒガ原トヨム。又故六條左京兆、淡路ト云女ノ^ニモトヘ

イカニセント^ニブヒモイマハタテワビヌ摩モカヨハヌアハヂシマヤマ

コレハ須磨ト淡路ノイハヤト云所トハ渡ニテアルニ、アハヂヘ下ル急ノ使舟ノナケレバ、スマノウラニテ火ヲ^ニタクナリ、ソレニアハヂノイハヤノ濱ニ火ヲタキテ合也、サテムカヘ舟ツカハス、其ヲト^ニブヒタツ、ト(〇フ^ニヒアクト云ナリ。無名抄云、昔春日野ニ火ノ飛ケレバ、恐ヲナシテ、野守ヲスヘテ守ラセケルトゾ、此事^{マコトナラバ}、飛火ノ野守トハ春日野ニテノミヨムベキコトナリ、外ノ野ニ詠タラバヒガゴトナルベシ。私^云、此火ノ飛ト云事ハ烽ヲ不知賊、烽ハ國々ニアレド飛火野ト云コトハ春日野ニノミヨミナラハシタレバ、^{烽ノ義ニテモ他野ニ不可^レ詠}

一トモノミヤツコ

トノモリノトモノミヤツココ、ロアラバ此春バカリ朝ギヨメスナ

顯昭云、主殿寮ノ下部ナリ、一説ニ彼下部ハ伴氏ナリト云、如何。神祇官ノ下部ヲモトモノミヤ人トシルセ^リ、凡諸司ニワタリテ伴・佐伯二ノ氏ヲ用ラレタリ、昔ハ他姓ノモノハ改姓シテ諸寮ノ下部ニハ成ナリ、主殿^{寮ニハ伴氏タエズ云々}。奥義抄云、或人云、主殿ノ下部ハ伴氏ニテ有也、ミヤツコハ彼氏ノカバネナリト申セ^ド、トモトハ公ト云字ヲヨメバ、キミノミヤツコト云ニヤ、ヤツコトハ氏ナリ、奴也、君ノ御奴トイヘルニコ^ソ、万葉ニ

マスラオハトモノゾメキニナグサムルコ、ロモアランワレゾクルシキ

是公事ノイソギニナグサム也、田舎ニハ大領小領ナド云モノヲバコホノミヤツコ、スコノミヤツコナド云由口^{遊ニミエタリ}、只オホヤケニハ民ヲバ宮ツコト云ベキニコソ、但トモノ公ト云義ハアマリノコト也、伴氏ノミ^{ヤツコトヨムナルベシ}。今云、万葉ニハ友ノ騒ト書リ、友ノイトナミト云ベキナリ、公ノ義アルベカラズ。綺^{語抄云}、諸司ニハトモノミヤツコト云下部ノアルナリ。私云、此事アシカラズ

一トカヘル覽

我レガ身ハトカヘルタカトナリニケリ年ハフレドモ戀ヲワスレズ

鷹ニカヘルトヨムハ毛ノカハルコト也、トカヘルハ鳥ヤニテ毛ノカハルナリ、ヤマカヘリハ山ニテ毛ノカハル^也、サレバ黄鷹ト書ケバワカダカトヨム、一歳ノ鷹ナリ、撫鷹トカキテハ鷹カヘリトヨム、二歳ナリ、鶺鴒ト書^{テハカヘルトヨム}、經二歳也、タカヘルト云ニ二歳ニ申、一ニハ合ヤルタカノ手ヘカヘルヲ云、長能歌

御符スル末野ニタテル一松タカヘルタカノコキニカモセン

一ニハ、我手ニテ毛ノカハルヲ、タカヘルト云ナリ、長能ガ哥ハアヤマリト古キ物ニ書タリ、或説、タカヘルト、トカヘルトハ同音ナレバ同事ト云ミ、トヤカヘルヲ「ヤ」ノ字ヲ畧シテトカヘルト云トイヘ共、古歌ニハシダカノトカヘルヤマノシキ柴ノハカハラストモ君ハ忘レジ

トアレバ、山ニテ毛ノカハルヲトカヘルト云歟、又トヤカヘルトハ、トヤニテカヘルニムカヘテ、トヤノ外ニテカヘルト云心トイヘド、ソレモコ、ロエラレズ、又説、鷹ニハ七カヘリ・八カヘリト云コトアレバ、十カヘリト云トイヘド、十度カヘル山ト云モ心ユカズ、大方此トカヘルト云コト、京田舎ノ鷹カヒモシラズ、古哥ドモニテ心ヲウルニ、トハ鳥也、其ノ鳥ハ鷹也、万葉ニ鷹カリト書テ、トカヘリトヨム、サレバトカヘルハ鷹ノ毛ノカハルヲ云、山カヘリヲモトカヘルヤマトヨミ、鳥ヤニテモ久カヘル由トミエタリ、又トダチ・トツケナド 雉ヲモイヘド、此トカヘルハ鷹ナリ。以上顯昭説。縮語抄云、外ニテカヘルモ、トヤデカヘルモ、同トカヘルト云、次ノ年ノ秋過テカヘルヲ、片カヘリト云、ムネノフノヨコサマニナル也、或ハ野ナドニテカヘルヲ云、童蒙抄云、トカヘルハ、トヤカヘル也。奥義抄、トカヘルハ、トヤカヘルヲ云ト思侍ニ

ワスルトハオモハザラナンハシダカノトカヘルヤマノ椎モ、ミヂス

此哥ニテハ、ヤマニテカヘルヲモトカヘルト云トキコエタリ、オボツカナシ

丸案ニ、イヅレモ後ノ人ノ推量ノ説也、三十六人ノ歌仙ノ傳ハナキトミエタリ、サルホドニ各々ニシテイヅレ

ヲ正義ト難用、其中ニモ古歌ノ數ヲ以テヨク勘辨セラレシハ、顯昭ノ説ニ、トカヘルノトハ鳥也、鳥ハ鷹ナリ、サレバ鷹カヘルト毛ノカハルヲ云ベキ歟ノ由尤宜歟、サレドモ箬鷹ノトカヘルト云ツマキサモアリゲニモ思ハズ、鷹ノ鷹カヘルト云ベキニアラズ、カヘルハ毛ノカハルヲ云トモ云ベシ、山カヘリトハヤマニテ毛ノカハルヲ云、次ノ年ノ秋過テ毛ノカハルヲ片カヘリト云ナレバ、トカヘルモ毛ノカハルナルベシ、「ト」ノ字ニ付テ或トヤカヘル、或外ニテカハル、或十度カハル、或鳥カハルナリト説々混乱セリ、山ニテ毛ノカハルヲヤマカヘリト云ニ付テ、里ニテ毛ノカハルヲトカヘルト云ハ、トヤカヘル心也ト註シタルナリ、サテハトカヘルヲトヤニテ毛ノカハルコト歟ト思ヘバ、トカヘルヤマノ椎柴トヨミタル哥ニ付テ不審ヲコリテ未決ナリ、今愚ナル智ニテ存ヨルハ、此トカヘルハ年ノ字ナルベシ、一歳・二歳ト年ヲフレバ毛モカハルユヘニ、年ヲカユルトイヘバ毛ノカハルニナル也、此カヘルノトキハ歸ノ字ヨリ反ノ字ヲ用ベシ、カハルコ、ロツヨシ、サヤウニテコソ箬鷹ノトカヘルトツマケテ侍レ、下句ニ年ハフレドモト侍義ニモ叶ナリ、「ト」ノ字年字同心病ナレドモ、古歌ニハ其類多シ、年ノ字ニ心エ侍レバヤマニテ毛ノカハルヲモ、里ニテカハルヲモ、更ニ不審ハナキナリ、能々吟味シテ猶ヨキ説アラバ可被改之

一トモヤタハサミ

マストラオノトモヤタバサミタムカヒニキルマトカダハミルニサヤケシ

顯昭云、得物矢ト書、鹿・鳥ニ射アツル矢ヲ云ベシ

足曳ノヤマニモ野ニモミカリ人トモヤタバサミ乱レタルミユ
先ノ哥ハ的ヲキルトアレバ的ニアタラン矢ヲ云トシルベシ、長歌ニ

マスラオノ得物矢タバサミタチムカヒタカマトヤマニ

ヤフサメニタバサミトハ矢一筋ハ手ニハサミテマツ、一ヲバキテ後ニハサミタルヲキル也、万葉〔〇抄アリ〕
ニ、弓ヲ二人立向テ射ニ、矢ヲ大指ニハサミテ射ナリ、ソノハサミタル矢ヲトモヤト云也、又一説ニ、アマタ
ノ舟ヲトモ舟ト云如ク、トモナフコ、口也。又一説ニ、弓射ニハ柄ヲカクレバ柄ト矢トハサムナリ、サレド軍
ニモ的ノミナラズ柄ヲカクレバ難用。童蒙抄ニ、モノニアタル矢ヲ云、得物矢ト書、タバサミトハ二三モ手
ニハサミヌキテ射也

丸案ニ、得物ハ万葉ノカンナ書也、トモヤハ供矢ナルベシ、弦ニ一ツハケタル矢ヲサキニス、メバ、主君ノ心
ニシテ手ニイタクツモテモアレ挿ムヲ供ニタトヘタル詞カト覺侍、コレ万葉ノ説ニ叶義也

一トフノスカコモ

陸奥ノトフノスカゴモ七フニハ君ヲシナシテミフニワレネン

顯昭云、アミ緒ヲ十シテヒロクアミタル者ノコモナリ、國ハ大ヤウ 菟蔞ニテアミタルヲイヘド、藥ニテアミ
タルヲバワラコモ、菅ニテアムヲバサガゴモト云ナリ、陸奥ニヒロキコモノ有故ナリ。童蒙抄ニ、十府ノ郡ヨ
リ出トイヘド、奥州ニ全クトフト云郡ナシ。俊綱山家風ノ哥ニ

アラシノミクエヌ太山ニシム民ハイクエカシケルトフノツカナミ

ツカナミハ藥ヲアミテ〔〇シク也〕ワラクミ・アラシキ・ネコカキトモ云モノナリ

一トツミヤトコロ

月日ノミアラタマレドモ久ニフルミムロノヤマノ磯津宮所

「ト」ハ常也、「ツ」ハ休字也、ヒサニフルハ、久住也、万葉ニ

ヨソニミシマユミノ岡モ君マセバ常都御門トヤドリスルカモ

トツミヤドコロト、常ツ御カド同事也

一友カ、ミ 付友マツ雪

クロカミト雪トノ中ノウキミレバトモカマミヲモツラシトゾ思フ 貫之

コレハ我トワガ面ノカハリ、髪ノカハルヲバシラヌニワガ同シ年比ノ人ノ、半白ニナリタルヲミテ、サテハワ
レモアノヤウニコソヲトロヘヌラント知ヲ友鏡ト云也、後選ニ雪ノ朝老ヲナゲキテ。貫之

フリソメテ友マツ雪ハムバ玉ノワガクロカミノカハルナリケリ

返シ

クロカミノイロフリカフル白雪ノマチヅル友ハウトクゾアリケル 兼輔卿

又此返シクロカミト雪トノ……貫之。返シ

年ゴトニシラカノ數ヲマス鏡ミルニゾ雪ノ友ハシラスレ
フリテキエヌ雪ノ、又フル雪ヲ待ヲ友マツ雪ト云ナリ

一トフサタテ

鳥總立アシガラヤマニフナギ、リ木ニキリカケツアタラフナギヲ

國昭云、哥ニトブサトヨムハ木ノ末也、トフレト云ハ、ホツエト云義也

我思ミヤコノ花ノトブサユヘ君モ下枝ノシツ心アラジ

此心ナリ、字ニハ 鞆ト書テ尾フサトヨム、ソレヲトブサトハ鳥ノ尾フサト云コ、ロナリ、鳥ハナカントテモ

タ、ントテモ、羽ヲモ尾ヲモツクロヒハタラカスモノナレバ、トブサタテ足カルキヤマト云歟、「ラ」ト「ル」ト

同音ノ故也、イカニモトブサタテハ足柄山ニ付タルコ、ロナルベシ

丸案ニ、梢ヲ鳥總ト云ハ、木ノ末ハ鳥ノ尾總ニ似タルユヘナレバ、木ノ末ヲ云ナリ、仙ノ木ヲ切テハ、其キリ

クチニ木ノ枝ヲタテ、山ノ神ヲ祭事アリ

一説ニ、舟木ニスル木ヲ、ソバナル木ニタオレカクレバ舟木ニ不用、子細アルニヨリ、アタラ舟木トヨメル

ト云々

一トクキノヤ

アサマシヤ千崙ノエゾノツクルナルトクキノヤコソヒマハモルナレ

奥ノ夷ハ鳥ノ羽ノ莖ニ附子ト云毒ヲヌリテ、万ノアキマヲハカリテキルトイヘリ、附子矢トハ是也

歌林樸楸第四畢

歌林樸楸 第五

【チ】

一チハノカツ野 (日本紀第十卷田天皇) 應神六年春二月天皇幸近江國至菟道野上而歌之曰

知婆能伽豆怒場(葛野也、所名也) 彌例磨(見也) 茂茂智備蓋夜(百千足也、備与登五音通、蓋与利五音

通) 珥波母彌喻(庭見也、言千鳥之在庭也) 區珥能朋母彌喻(國府見也、朋与不五音通)

古事記曰天皇越幸近淡海國之時、御立宇遲野上望葛野歌云々

凡御哥意者、於菟道野贈望百千屋座國顯(○府カ)遮眼之由也

丸云、此モ、チタルハ、百千ノ屋庭足滿タルト云、一説ハ國ノ府モミニヨクツマキ侍ル、又庭ニ千鳥ノアルト云説ハ、少ニツカヌヤウニキコユ、サレトモ此行幸春二月、近州ヘノ道、ウヂ野ヨリチバノカツ野ヲ御ランシヤリテノ眺望ナレバ、百千鳥モ轉リ、人家ノ庭ノ木立モミエ、ソレヨリ國ノ府中マデモウチツマキテミエルト云心ニヤ、但庭ニ千鳥ノアルトハチイサシ、然者古今ノ百千鳥モ非爲、只百千ノ春鳥ヲサス賊、此御哥ヲ鳥ニミズ、家ノ百千足トミテハ、宇治野ヨリ葛野ヲ御ランジテノ景氣不似相繼

一チハヤヒト 大鷦鷯天皇(仁德也)

大山守皇子ツネニ先帝ノワレニ代ヲユヅリタマハヌコトヲウラミ、太子ヲ菟道稚(菟道稚)コロサント謀タマフヲ、大サ、

キノ尊開テ、太子ニ告タマフ、太子兵ヲ伏シテマチタマフヲシラズ、大山守皇子百兵士ヲ領ヒ夜半ニ行、會明ニ菟道川ヲワタルニ、太子布袍ヲ服シ度子ニ接テ櫓槽トリ、河中ニテ舟ヲフミ傾テ大山守ノ皇子ヲ墮ス、大山守ノ浮流テ歌曰

チハヤヒト(師説強力武猛人也、言強最崎嶇也云々、神代下卷曰 殘賊強暴橫惡之神) ウチノワタ

リニ(宇治渡也) サホトリテ(竿取也、謂舟櫓槽ナリ) ハヤケンヒトシ(早人也) ワカモコニコン(吾是

來ナリ)

凡歌意者欲來于此之意畢

太子早覺悟給分厘之由也

丸云、太子ノ早サトリ給ト云註如何、コレハ水ニオホル、ホドニ、宇治ノ船頭ノ上手ノ名ヲトリタル人、ハヤク今我コ、へ來テクレヨトヨビタル歌ナリ

伏兵 多起テ岸ニツクコトヲエズ、遂ニ沉テ死ス、其屍ヲ考羅濟ニ泛タリ、時太子ソノ屍ヲミテ歌曰

チハヤヒト ウヂノワタリニ ワタリシニ タテル(立ナリ) アツサユミ(梓弓也) マユミ(櫓弓也、

言以ニ兩弓ニ喻ニ伏兵ニ也) イキラント(射斬也) コ、ロハ(意ナリ) モヘド(思ナリ) イトラント

(射取也) コ、ロハモヘド(意思也) モトヘハ(元ナリ) (丸云、元ヲ思ヘバ賊、又ヘハ去賊) キミゾ

(君也) オモヒテ(思ナリ) スヘモハ(居也、思居ナリ) (丸云、始ニ元トアレバ末賊) イモヲ(妹

也、皇子者太子之兄也、姉妹兄弟皆同称也) オモヒテ(思也) イラケナク(無_ニ遠乱_ニ也)(丸云、遠乱ハ和語ニアラズ、ソレハモノ、アラアラシキコトヲバイラト云詞ナリ、イラ、ケテナド云如ク、根元ヲ思ヘバ君ナリ、兄弟ナレバ弓矢ニテコロシ奉ランハ、其ヲソレアリトテ、舟ヨリヲトシ奉ルトナリ、武器ニテ害セヌコトヲ云賊、アラ_レシケナクナリ) ソコニ(底ナリ、沉狀也) オモヒ(思也) カナシケク(悲也) コ、ニ(於是也) オモヒイキラスゾ(不射斬也) クル(來ナリ) アツサユミマユ

御歌意者、設ニ伏兵ニ雖_レ欲ニ合戰_ニ皇子_ヲ没_ス死之間、不_レ及_ニ放_レ矢_ヲ拔_レ劍單兵_ヲ空_ニ持_テ飯弓箭_ヲ之由也

丸案ニ、此註不_レ叶 只丸ガ先ニシルスガ如クワザト弓矢ニテコロサズ道ヲ思テ水ニ入奉ト云御哥ノ心也

裏書云、千磐破神 万葉第二 千磐破人乎 同卷ニ 千早人氏川洞乎清可毛旅去人之立難爲 同七 無速舊于遲乃渡

丸云、カヤウニサマ_レカキヲカレタレドモ、ツキニコトキラズ、後生迷ベシ、チハヤブルト此チハヤ人トハ別也、チハヤブルト云モ色々ニカケドモ神曹ノ殘賊強暴正義也、ソサノヲノホリ立シ千々ノ刃ヲヤスルト云事也、又此チハヤ人ハ千々ノ隼人ナリ、早人ト同身輕ク早ワザヲスルタケキ男ノコトナリ、サルニヨリテソレハ氏性アル侍ナレバ宇治ノ枕詞ニ用也

一柱 琵琶ニアル也、此字ヲ琴ニテハコトゾトヨム

一チリツカ

一着袴 ハカマギ也

一チギノカタソギ 社ノ上ニヲク木也

宗祇ノ説ニ、惣而板屋ノ上ニハ木ヲヲク也、然ドモ住吉バカリニヨム云云

一チハコノ玉

繼ワビテ落ル泪ノ玉ナラバ千箱ノカズニ過ヤシナマシ

基俊判云、常ハシノ田ノクズノ千枝、錦木ノ千ヅカナドノミゾロヅケテ侍ル、千ハコ未知、毛詩ニ千箱トアルハ車也、文選ニモ千箱ト作テ侍、箱ト箱トハ文字カハレドモ隱ヲイタハリ(○カタドリ)テ書トゾ、コレヨリ外シリ侍ラズ。顯昭云、日本紀。宣化天皇元年詔云、黄金万貫不_レ可_レ療_レ飢、白玉千箱何能救_レ冷。是ハ顯輔卿歌合雅親哥也

一チトセホク

青柳ノホヅエヨゾトリカヅラクハ君ガヤドニモチトセホグトゾ

顯昭云、千年祝ト云心ナリ、ホカフト云モ同事也、コトホギナドモ云リ、万葉長歌ニモ、チトセホギヨメリ、ホギトハ禰トカク、ホヅエヨゾトリハ梢ニノボリトルナリ、カヅラクハ、カヅラニスト云也

一チリヒチ

チリヒチノ數ニモアラヌ我故ニ思ワブラン妹ガ悲シサ

顯昭云、應泥ト書ナリトチリト「ヒチ」ト「二」ノ物ナリ、泥ヲバヒチリコト云ヲ、畧シテヒチトモ云、長哥ニモ、ヒチノ土オチテナキツレ云々、ツキヒチト云、ヒチヲ築ト云也、是ノ常ニ應ヲチリヒチト云ト人シレリ、古今序ニ高キ山モ麓ノチリヒチヨリナリテ云々。居易座右銘、千里始足下ハ高山起微塵云々、此文ニテ書也。字書ニモ應埃ト書テハチリトヨミテ、チリヒチトハヨマズ、其説アラマシカバサコソ訓セマシ

丸案ニ、此ヨミヤウ口傳トテチリインチト云ヘリ、經路ト云テ、水邊ニタヨリテ泥ト云コトヲカクシテコイヂトヨメバ、「ヒチ」ヲ「イチ」トキ、ヨキヤウニヨムト云ヘリ、サレド「チ」ノ字ヲ經路ニハ濁ベシ、チリヒチノ時ハ濁ベキ故ナシ、タ、チリヒチトヨミテ「イチ」トヨムハ無理ナリ、チリヒチトニツモノニヨムベシト師説也
一チフリノ神

行ケフモカヘラントキモ玉ホコノチフリノ神ヲイノレトゾ思フ

顯昭云、チフリノ神トハミチフリノ神ト云ニヤ、海路ニモヨメリ

水底(○ワタツミ神)ノチフリノ神ニ手向スルサノヲヒ風ヤマズフカナン

右二首トモニ貫之詠ナリ、隱岐國ニコソ知夫利峯ト云トコロニワタスノ宮ト云神ハオハスレ、舟出ステテハ其神ニ奉幣シテワタリヲ祈トゾ申ス、其本跡ニテ海ヲモ陸ヲモ道ヲイノル神ヲバチフリノ神ト名付ニヤ、又其神ヲ思テ彼所ニモツケタルニヤ

【リ】

一リウジノマツリ 臨時ノ祭也

一離宮

一リウタウ 元眞集 龍膽花

思ヒキヤ萩ノ下葉ノ露バカリウタウマヒキニウツロハントハ

【ヌ】

一ヌテユラウ 顯宗仁賢ハ御兄弟也、其父ハ允恭ノ御子市邊押磐ノ皇子ト申セシガ、雄畧ノ爲ニコロサレ給フ、ソノトキ皆御身ヲカクサレ流軍アリシガ、清寧ニ御子ナカリシニヨリ、此皇子達ヲムカヘ取テ御位ヲユヅラル 互ニ御辭退アリテ先御弟ノ顯宗ヲ立ラル、其後兄ノ仁賢ニナル、其顯宗ノ御トキ、御父ノ御死骸ヲ埋シ所ヲタヅネタマヘドモ老人ドモシラザリシニ、置目トイヘル老嫗ガシリテ、近州來田綿蚊屋野へ道シルベシテ行幸アリ、御兄弟ナガラ掘出シタル御遺骨ヲ御ランジ、ナキカナシミ給、其置目ヲアハレミメグマセ給フ、内裏ニヲカセラル、老護タルニヨリ、カレガ出仕ノ屋ニ細ヲハリ、鐙鈴ヲカク、其ナルトキハ此置目ガ參ルト

シロシメスベキ爲也、天皇其心ヲ歌曰

アサチハラ(淺茅原也、欲讀ニ未明ニ之渡語也) ヲソネヲスキ(過ニ遲疑ニ也、言夜半之後未明之裏也) モ
、ツタフ(百傳也、私記曰、百傳之義也、如今驛傳之鈴、鈴即鐙也) ヌテユラクモヨ(鐙動ラキ也) ヲ
キメクラシモ(置目來ナリ)

凡御哥意者、朝動ニ鐙、老驅來之由也

丸云、津茅原ハ小野トイハンタメ歟、ヲソネノ「ネ」ノ字ハ野ト同意也、ヲソネハ遲疑ニハアルベカラズ、アサ
ネヲ捨歟、「ア」ト「ヲ」ト同音、「ソ」ト「サ」ト同音ナリ、モ、ツタフトハ、驛路ニ出ル旅人ノ事也、アサヲキシ
テ驛路ノ鈴ノ音ガスル、ソレハ朝トクノコト、是ハ老女ノ出仕ノ時ヲ定メズアルヲ、奏者ナシニ鈴ノナルニテ
シロシメスト云心歟、ユラグハ玲瓏ト書也、コ、ニテハユラメク心モアリ

歌林樸楸第五畢

歌林樸楸 第六

【ヲ】

一ヲミノコ

大泊勳幼武天皇(雄略ハ允恭第五御子也) 御兄ノ穴穗天皇(安康也) 山ノ宮ニ出御遊ノ時、

皇后ニカタリ給ヤウ、(此皇后ハ腹中ノ皇女也、仁德ノ皇子、大草香皇子ノ妻タリシヲ、臣ノ讒ニヨリ安康忽
大草香ヲコロシタマヒ、皇女ヲ入テ皇后トシタマフ、眉輪王ハ大草香ノ御子也) 汝ノウミタマヘドモ眉輪王ヲ
バ我オソルトノタマフヲ、眉輪王幼年樓(下ニ遊居テ悉ニ聞テ、穴穗天皇・皇后ノ睦ヲ枕トシテ酔テ晝眠セ
ラレシヲ刺殺ツ、時ニ雄略聞召驚テ、兄等ヲ猜給テ、八釣白彦ノ皇子ヲ斬、坂合ノ黑彦ノ皇子ヲモイカリ、
眉輪王ヲコロサントスルニ、眉輪王ノ曰、臣天位ヲバ不レ求、タマ父ノ仇ヲ報ノミ、坂合黑彦皇子深恐テ眉輪
王ヲカタラヒ圖(大臣宅ニ逃入、雄略使ヲツカハシ乞レ之、大臣報曰、蓋聞人臣有事トキハ邊ニ入王望、未見君
王ノ臣ガ舍ニカクルト云コトヲ、今此兩君、臣ヲ深顧來ルヲ、イカニシテ送マツランヤト、由是雄略マス、
圓大臣ガ宅ヲ兵ヲ以テカコム、大臣庭ニ立出テ案脚帶、時ニ大臣ノ妻脚帶ヲ持來カナシミテ 歌曰

ヲミノコハ(女子ナリ) タヘノハカマヲ(妙袴也) ナ、ヘヲシ(七重齋也) ニハニタ、シテ(立庭也)
アユヒ(脚帶也) ナダスモ(度也、奈與和同音也、言與脚帶於大臣也)

大臣裝束已畢テ進ニ軍門ニ跪拜曰、ツミセラル、トモ御命ヲウケタマハルコトナケン、古人ノ云、匹夫之志難レ可

レ奪、方ニ屬^{アツク}于^カ臣^カハ、伏願^カハ大王ニ臣ガ女^カ輒^カ緩ト葛城ノ宅^カ七區ヲ奉テ贖^カレ罪ヲト、天皇ユルシ給ハズヤキコロシタマフ

一ヲハヤシ 皇極ノ御宇ニ觀池ニ一ノ塞ニ二ノ^{ハヤシ}葭アル蓮アリ、豐浦大臣妄推曰、是蘇我ノ臣榮ント云ル瑞相也、即金曇ヲ以テ書テ大法興寺丈六ノ佛ニ獻ズ、是月國內ノ巫覡等枝葉ヲ折取、木綿ヲカケ大臣度^レ禰之時ヲ伺ヒ、争テ神語入^カ嚴^カ〇^カ微^カカ^カ之說ヲ申之、其巫甚多、不可具^カ體、老人等曰、移風之兆也、于時有^カ三首^カ其一曰

ハル^カニ^カ通^カタナリ^カ コトゾキコユル^カ事^カ體^カ也^カ シマノ^カ寫^カ也^カ ヤブハラ^カ巖^カ原^カ也^カ
其二曰

ウチカタノ^カ謂^カ隔^カ江^カ河^カ等^カ所^カ也^カ アハノ^カ所^カ名^カ也^カ キヤシ^カ雉^カナリ^カ トヨモサズ^カ扇^カ也^カ 神代上卷曰、扇天扇國、言動乎^カ ワレハネシカド^カ寢^カナリ^カ ヒトゾトヨモス^カ人^カ扇^カ也^カ

其三曰

ヲバヤシニ^カ小林^カ也^カ ワレヲヒキレテ^カ引^カ入^カ吾^カ也^カ セシヒトノ^カ殺^カ人^カ也^カ オモテモシラズ^カ面^カ不^カ知^カ也^カ
イエモシラズモ^カ家^カ不^カ知^カ也^カ

或人説^カ第一^カ謠^カ曰^カ、此即宮殿接^カ起^カ於^カ爲^カ大臣^カ家^カ而^カ中大^カ兄^カ与^カ中^カ臣^カ鎌^カ足^カ連^カ密^カ圖^カニ^カ大^カ殺^カニ^カ謀^カニ^カ入^カ鹿^カ之^カ兆^カ也^カ、説^カ第二^カ謠^カ曰^カ、此即上宮王等性^カ順^カ都^カ無^カ有^カ罪^カ而^カ爲^カ入^カ鹿^カ見^カ害^カ、雖^カ不^カ自^カ報^カ天^カ使^カ人^カ誅^カ之^カ兆^カ也^カ、第三^カ謠^カ曰^カ、

此入鹿臣忽^カ於^カ宮^カ中^カ爲^カ佐^カ伯^カ連^カ子^カ隊^カ呂^カ・推^カ大^カ養^カ連^カ網^カ田^カ所^カ斬^カ之^カ兆^カ也^カ

一ヲウラス 心ヲアトニナス也、ヲクラサヌハ、コ、ロヲ先立ナリ

クルト明ト人ニコ、ロヲ、クラサデ雪ニモナリヌ白河ノ鬧

人ヲ心ニワスレヌナリ

一ヲシテルヤ 雜波 此五文字古來種々ノ説アリ。宗祇説ニ、ナニハ、遠淺ナレバ、舟ヲ、シ出ス故云

丸案ニ、不可^レ然、サアラバ^カテ^カル^カノ^カテ^カノ^カ字^カ出^カナ^カレ^カバ^カ濁^カベ^カキ^カニ、シナテル^カヲ^カシ^カテル^カ万^カ葉^カニ^カ照^カ字^カ也^カ、只^カ一^カヲ^カシ^カハ^カウ^カシ^カ也^カ、ウシホテルナリ、シホ海ノ枕詞ナリ、ニホテルハ湖海ノ枕詞ナリ、袖中抄ノ説ミナ未嘗、喜撰・能因説ヲ顯昭雜ズトイヘ、其難カヘリテアヤマリ也

一女郎花ノ一時ヲクネル 此時ハ四季ノ中、秋一時ナリ、「クネル」ハ女ノナマメク跡也

一ヲニノシコクサ

萱草ワガ下紐ニツケタレド鬼ノ志許草コトニシアリケレ

顯昭云、鬼トハワルキト云事、「シコ」モ凶ノ字ナリ、別ニ草アラズ、萱草ヲ云ナリ、ワスレント萱草ヲ下紐ニ付タレバ猶ワスレネバワルキ草ナリト云心也

マストラオヤカタ戀セントナゲ、ドモ鬼ノマストラオ納戀ニケリ

此哥モ、マスラオノタケキ身ニテ、何ニカタ懸セントナゲ、ドモ、ワルキマスラオニテ、納懸ヲスルト云ナリ
丸案ニ、右説ヨシ、俊頼頼國ノ鬼ノ腰草、又紫苑ヲ云ト云説、不レ可レ然ト思侍レドモ

忘草カキモシミ、ニウヘタレバ鬼ノシコグサ猶懸ニケリ

俊頼ノ哥

マクマノニ雨ソボフリテ木隠ノツマヤニフケル鬼ノシコグサ

カヤウニ別ニアルヤウニ名匠ノヨミヲキタレバ、紫苑ヲ云ニ定テラクベシ、親ノ墓ニ兄ハ葦草ヲウヘワスレタ
キト思フ、弟ハワスレマジキトテ紫苑ヲウエ、紫苑ハモノワスレセヌ草ナリ、イヅレモ孝心トテ亡魂アラハ
レ、汝ラガ日ノ中ニアルコトヲバ夢ニシラセントチカヒキ云々、此義ニテ始ノ哥ヲミレバ事ニシアリケリハ
「異」ノ字又殊ナリ、別ニ又アルト云心ナリ

一ヲカサハラ、ミツノミマキ

小笠原ミヅノミマキニアル、駒トレバゾナヅク此我袖トレ

顯昭云、是ハ忠峯十麻ノ内古歌麻ノ哥ナリ、ヲガサハラハ、甲斐也、ミヅノミマキハ山城ナリ、證本ニハヘミ
ノ御牧トアリ、能因哥枕ニモヘミノ御牧トハ、蛇ニ似タル麻ノ生ル故ニ云ナリ云々。堀河院百首ニ、前兵衛佐
顯仲春駒ノ歌ニ、ヲカサハラミヅノ御牧トヨメリ、奥義抄ニモ此定ニヒケリ、アヤマリ也、尤以遺恨ナリ
丸云、古人トテモ事ヒロキ道ナレバアヤマリナカルベキニアラズ、カヤウニ證處分明ナルヲバミヅノミマキヲ

トアヤマリニシテ、ヘミノ御牧ヲ正トシ、顯昭ノ説ヲ可用也、末代ニハ小笠原ミヅノ御牧トハヨムベカラザ
ルコト也

一ヲフルマノニシキ

小車ノ錦ノ紐ヲトキタレテ(○ド補)アマタネモセズ君ヒトリナリ

顯昭云、車ヲチカヘ丸ニ文ニヲレル錦ナリ、太神宮ノ御衣ニハ此錦ヲ用云云。綺語抄ニハ、男ノ乗車ヲヲグル
マト云トアリ、不レ可用、タシカナル無レ證云々

小車ノマヒテ匂ノタヘセズハニシキノヒモヲトカントゾ思フ

ヲクルマノニシキノヒモノトケン時君モワスルナワレモタノマン

唐ニハ、男ニアフトキハ錦ノ袴ヲキル也、其袴ニヨツ緒ト云モノ、付タル帶ヲヒモトハ云ナリ。綺語抄云、袴
ノ下紐ナリ

忍ベシムスビモアヘズ小車ノヨヒノゴトニトクル下ヒモ

小車ノワヅカニ床ハミツレドモニシキノヒモハトカデカヘリヌ

顯昭云、錦ノ紐ノ文小車ナルベキニ非ズ。又風俗ニ、小車哥ニ

ヲグルマイレテキノヒモトカノヨヒヲシノハ(○は補アリ)キヨナワレシノハキヨワレシノハキヨマサイホテ

ケウ(ラ補)シ 任本

若キノヒモトカンヨシトアル錦ノ文字落敷

丸案ニ、錦ノヒモヲトキタレテノ歌ハ衣通姫ノサ、ガニノ哥ノ返シナリ、允恭天皇ノ御製也、太神宮ノ御紋ノ錦ノ説ハコ、ニ無説コトナリ、天子ナレバ伊勢ノ御紋ヲ用給カトスレバ、天子ナラズ人ノ哥ニモ小車ノ錦多シ、コレハ唐ニシキノハカマノ古事可然歟、但ソレハ男ニアフトキトアレバ、女ニカギルヤウナルヲ、右ノ哥ドモハ男ノ着タルヤウナリ、通用シテヨムニヤ、又錦ノ紐ノ紋車ニテハアルベカラザルト顯昭ノカ、レシハ、ヒモハセバキモノナレバ車ノ紋ハアリガタシト云コト歟、カラノニシキニハイカヤウニ小キ車モナドカナカラザラン

一ヲフノ浦

ヲフノウラニ片枝サシオホヒナル梨ノナリモナラズモネテカタラハン

顯昭云、コレハ古今ノ東哥ノ中ニ伊勢歌ナリ、ヲフノ浦ハイセノ國ニアリ、齋宮御庄獻ニ梨所ナリ、又梨トイハデモ、ナリモナラズトヨム、万葉ノ東歌ニ

小山田ノ池ノ堤ニサス柳ナリモナラズモナトフタリハモ

コレモ、妻男ニ成ナラズトモト云心トミエタリ

一ヲハステ山

我心ナグサメカネツサラシナヤヲバステヤマニテル月ヲミデ

信濃ニアリ、母ノヤウニヤシナヒタテタルヲバヲ、妻ノ云付テ、ヲイノ男、月ノアカ、リケル夜タラシテ、オヒテサラシナヤマニ捨シヨリ、ヲバステ山ト云也、心悲覺テナガメケルヨリナグサメガタキ月トハヨメリ、又行ムカヘ返シテキニケリ、ソレヨリヲバステ山ト云ケル、コレハ大和物語ノ分也、又無名抄ニハ、此哥ヲ、バノ詠ルトアリ、其サキハ冠ノ山トゾカケル、冠ノコジニ似タルトカヤ、大和物語ハオイノ男ステ、無名抄ハメイナリ、物語ハムカヘテカヘリ、是ハステ、ヤミニケリ、猶物語ノ説ニ付ベキ歟、此ヲバステタルヨリ後、此山ヲババステヤマト云ベシ、オイニテモ、メイニテモ、ステタランヨ、ヲバステ山ニテル月ヲミテトハ不可レ詠歟、坂東ニ第一高國ハ信濃ナリ、甲斐ヨリモ美濃ヨリモ、越後ヨリモノボル也、其國中ニヲバステ山高ケレバ、月マコトニアカ、リシトゾ、顯注密勘ニモ、物語ノ如當座ニオイノヨム哥ノ説ヨシトテ、カラノ當坐ニツケタル山ノ名ノ證例等アレドモ、サリトテハ此哥後人ノヨミタル歌ナルベシ、オイカヨミタル哥トハキコエズト門弟衆ヘモ披露セシニ、其夜ノ夢ニ、定家卿、丸ニ物語、説ニ付ベシ、後ノ人ノヨミタル哥トミルハアシ、ト明ニヲシヘタマヒシマ、又門弟衆ヘ此由告シラセ侍ル

一ヲソノタハレ

世ヲ中ニヲソノタハレノタユミナクツ、マレテノミスミワタルカナ

顯昭云、類ハタハフレテクヒアフホドニ、ハテニハクヒコロスト云リ、サレバタハブレテ、ハテニハ腹立ナドスル人ヲ云也、丸云、ツ、マレテハ、ツ、シマレテナリ、又万葉ニタハレテト云コトアリ。石川ノ女郎

タハレヲト我ハキケルヲヤドカサズワレヲカヘセリヲソノタハレヲ返シ 大伴田主

タハレヲニワレハアレドモヤドカサズカヘセル我ゾタハレヲニハアル

丸、万葉ノ心ヲカンナニ申ベシ、コレハ大伴ノ田主トテ無双ノ美男アリテ、ミル人コ、ロヲナヤマス、石川ノヲトメ其トナリニキテ、モトメケレドモカクト云ヨランタヨリナシ、アル夜タクミ出シ、鳩子ヲ手ニサゲ、貧女ノマネヲシテ火ヲモラヒニ行、クラキ夜ナレバ、ソノ心ハシラズ、火ヲトラセテモドシケレバ、翌日此歌ヲヨンデ送リケルナリ

奥義抄云、タハレヲハ好色ト云心也、ヲソトハキタナシト云ナリ、今モ田舎人ハ申詞ナリ。顯昭云、或人云、東國者ハソラ事ヲバヲソゴト、云ナリ、サレバソラ色ゴノミトヨメルニコソト申メリ、万葉ニ

トコヨベニアラマシモノヲツルギ太刀ワガコ、ロカラヲソヤ此君

丸案ニ、此歌ハヲソキト云賦、トコ世ベハ常賦、常ニソフヤウニスベキモノヲ、心カラ別々ニ居テマテワブルト云義賦、又奥義ノキタナシト云説ハ今モワルキ道具ナドヲバヲソキモノト俗ニイヘリ、ヲソロシキト云心トミエタリ、ソノ字ヲ濁ルハアヤマリナレドモサヤウニ云付タリ、サレドモ此哥ノヲソヤハ心不_レ叶一ヲフチノ駒

ミチノクノヲフチノ駒モノカフニハアレコソマサレナヅクモノカハ

ヲフチハ小班也。後拾遺ニモ

相坂ノ關ノ杉村引ホドハヲフチニミユル望月ノ駒

奥義抄ニハ、「ヲフチ」ハミチノクノ所ノ名ナリ。曾丹ガ哥ニ

マダラナルヲフチノ眞弓ミルトキゾイモガテカセバイトド戀シキ

此哥ニモヲフチトハ所ノ名トミユ、アダチノマユミト云ガ如シ。顯昭云、奥州ニヲフチト云所未_レ聞、只馬ハイヅレノ國ニモアレドミチノクニ馬トテイミジキモノニスレバ、ミチノクノヲフチノ駒ト詠也

ミチノクノアダチノ駒ハナヅメドモケフ相坂ノ關マデハキヌ

是ハアダチト云所ノアレバ、駒トモ、眞弓トモヨム也、ソレモ陸奥ノイミジキニヨリテ名高キコユルナリ、但曾丹ガ哥ハヲフチノマユカキト云タル本アリ、ソレハイハレタリ、肩作ノ落チリタランヲミテ、イモガテカゼ思出ラルベキコト也、弓ヲミテ妹ガ手風ハ思出ソコトイハレナシ

丸云、モト古キ開書ニ此歌アリ、ソレハ始ノ五文字マダラトハナクテ枕ナルトアリ、ソレナレバ女ノネタル枕ノ上ニアリシ小班ノ弓ヲミテ、手マクラカハセシ夜ノ手カセヲオモヒ出テシタフ心トキコユ、夫婦ネタル枕ニハ弓太刀ヲクコトモアル故ナリ、ヲフチノ肩カキトハ僻事ナルベシ、此歌ノ義ヲエキカヌモノ、ヲシアテ、書カヘタルナルベシ、ソレカ落チリタルナド、云義モ手風ニアハセンタメニ了簡シテ顯昭ノ書タレドモ心ヨク不_レ叶、枕ナルヲ班ナルト書アヤマリタルナルベシ、只駿ノ馬ヲ、フチノ駒トヨミ、マダラナル弓ヲ、フチ

ノマユミト心得ベシ、顯昭ノ博覽ニテ東州ニハヲフチト云トコロナシトイヘレバ、所ノ名ニテハアルベカラズ、殊ニ關ノ杉ムラノ哥ノヲフチニミユルモチ月ノ駒トヨミタルニテ、名所ニアラザルノ義ヨクキコエ侍

【ワ】

一ワカセコ

日本紀第十三、雄朝津間稚子宿禰天皇トハ允恭ノ御事也、八年ノ春二月藤原ニ幸シ密ニ衣通

姫ノ消息

コノ夕天皇ノ臨

コトヲ姫シロシメサズ、天皇ヲ戀テ歌曰

ワガセコガ(我夫也)

クベキヨヒナリ(可來夜也)

サ、ガニノ(佐々鹽、謂蜘蛛也、私記曰、山名也)

クモノヲコナヒ(蜘蛛之行也、下擔ナリ)

コヨヒシルシモ(今夜險也)

天皇聆キコシ是歌ヲ則有ラハシ感情シ而歌

サ、ラガタ(佐々良形也、言小形之文也)

ニシキノヒモヲ(錦紐也)

トキサケテ(解下也) アマタハネ

スミ〔〇ニカ〕(多不寢也)

タ一夜ノミ〔只一夜也、恐皇后之感不重夜也〕

明日天皇見ニ井ノ傍ノ櫻ノ華ヲ而歌

ハナグハシ(花香也、具与レ加五音通)

サクランノ(櫻也)

メデ(謂目出也、略詞也)

コトメデハ(他目出也)

ハヤクハメデズ(早不ニ目出也) ワガメヅルコラ(我目出子、謂衣通也)

皇后聞之且大恨也

丸、此歌ノ註ニテモ心ユカズ、櫻ノ目トハ木ノ目ニハアラジ、天皇ノ御目也、コトメデハ、コトナル花ヲメテナバ歟、ハヤクハメデズハ、イマ、デハコトモノニカヤウノウツクシキコトヲミズ、タ一ワガメヅル衣通姫ニヒトシト云義歟、ハヤクハメ今ヨリ先ト云詞ナリ

一ワクコ 繼體天皇二十四年冬、毛野臣任那ヨリ飯ル到對馬疾テ死、海路ヨリ死骸ヲ入ニ近江、其妻歌曰。日本紀ニ尋レ河而入ニ近江トアリ

ヒラカタユ(平形ナリ、在近江之所名ナリ)(丸云、日本紀ニ河ヨリトアル淀川歟、平方ハ大坂ノ道ノ名所歟) フエフキノボル(笛吹上也) アフミノヤ(近江ナリ) ケ那ノ、(毛野也、那與能同音) ワクコ(吾子也、謂夫也) イフヘフキノボル(伊助語也、笛吹ナリ)

凡哥黨者、毛野臣於ニ西海ニ雖死、爲レ歟ニ屍於故鄉、自ニ海路ニ迄ニ近江也、笛吹者毛野臣久住ニ韓國ニ之間、依ニ漢家之例ニ葬禮ニ設レ笛歟、且又本朝上古者有レ發ニ哥笛於葬禮ニ之事也

丸云、葬禮ニ笛ヲ吹ト云コトモアルベカラズ、コレハ毛野ガ存生ニテノボルヤウノ休ヲヨミタル哥也、毛野笛吹シ人トミエタリ、ソレニテ猶アハレニ覺侍

一ワラテタム ワラヲクミ恒ニモシキノニスルヲ云、俊成抄ニハ「ミクミ」トモ云。又私云、ミクサミトテ、小舟ノハタニワラヲクミテ、浪ヲフセグヲ云也。(此私ハ今川了俊也)

一ワタツミト書テモ ワタツウミトヨム習ナリ

一ワレカラト云虫ハ コエビノヤウ也

一ワカクサノツマ 喜撰式云、婦ヲバ若草ト云。男ヲモ妻ト云コト、後拾遺問答云、霜ノイト白クヲキケルツトメテ、和泉式部ガ人ノモトヘツカハシケル

ケサハシモ思ハン人ハトヒテマシツマナキヤドノ上ハイカニト

一ワスレ草 シノブ草

忘草ナニヲカタネト尋レバツレナキ人ノコ、ロナリケリ

住ヨシトアマハイフトモ長居スナ人忘草生トイフナリ

コレラ萱草也

忘草生ル野ベトハミルラメドコハ忍ナリノチモタノマン


此伊勢物語ノ哥ヲ以、忘草・忍草、一草二名ト云説ヲコレリ

丸存ニ、此歌ニ別而コトナル草ト云ワケタリ、シカレドモ軒ノシノブニワスレ草ト云名ノアルニヤ、其心ミニル哥

我ヤドノ軒ノ忍ニコトヨセテヤガテモシゲルワスレ草カナ

俊頼

忘草シゲレル宿ヲキテミレバ思ヒノキヨリ生ナリケリ

忘草ニ忍草ト云名ハナシ、シノブ草ノ内ニワスレ草ト云名アリ、今川了俊ヨリ相傳ニ、葉ノコマカニミダレタルハ忍草、其中ニ葉厚ク  少黄色ナルヲバワスレ草ト云ナリ、萱草ハ憂ヲ忘ル薬性ニヨリ、本草等ニ儲

ニミエテ無紛ワスレ草也、サレドモ軒ノツマニ生ベキモノニアラズ、軒ノツマニ生ル三草ハサモコソ侍ラメ

丸思フニ、ワスレ草ハ萱草・忍草ハ垣衣、各別ナレドモ、伊勢物語ニ局ノマヘヲ業平ノトヲルヲミカケテ、忘

草ヲイダサレタルヲ、業平ノ奇妙ナル心バヘニテ、コハ忍草ナリ後モタノマン、トヨメルヨリイヅレヲカ忍ト

云、ワスレ草ト云、但一草二名カナド云ウタガヒヲコレリ。万葉ニ

吾宿ノ軒ノ下草生レドモ戀ワスレグサミレバマダオヒズ

此哥伊勢物語ヨリ以前ノ哥ナレド、上句ノ軒ノシタ草ハシノブ草、下句ハ萱草トヨビワケタリ、只哥人ノ戀ニ

ヨセテ、人ヲ忍ト云トコトアルヨリ、トリヨセテヨミケルゾ、末代ニナリテ不明ナル、歌人ウタガハシク註

セラレシヲ、ソレモ又今ノ爲ニハ上代ノ人ノ書タル書ナレバ、心アルモノハヨクシレ共、サスガニ用捨シテイ

ヒヤブラザルニヨリ、カヤウニセンナキセンサク出来也、公任卿ノ問答抄ニ、伊勢物語ノコハ忍ノ哥ニ付テ、

忘草ノ一名ヲ忍草ト云コトアラハ也云々、是正説ナリ、業平名匠ナルニヨリ、根本ハ別々ノ草ナレドモ、此哥

ヨリ忘草ヲ忍草トモ云ト云釋也、コレヲ思ヘバ冷泉家ノ了俊傳説モ皆ムサトシタル事也、童蒙抄・奥義抄・袖

中抄其外サマノ名モシレヌ古人ノ聞書ニ色々書タレドモ、更明ニハ不沙汰、只今此根元ヲシリテ後ニハ、

ワスル、モ忍ブモ同草ナドトヨミタル哥、百千万アリトモ、只歌人ノ口ノタハブレトコ、ロエテマドヒタマフベカラズ、萱草ヲワスレ草ト云ハ、本草ニ此草ヲクヘバウレヘヲワスル、トアルヨリ、日本ニテ付タル名ナリ、垣衣ヲ忍ブト云ハ、古キ家ノ軒ニムサトシタル草ノ生ルヲミテ、昔ノシノバシクナルニヨリテ、何草ナリトモ正味ヲイハズ、哥ニヨミソメシ也、ソレヲタマサントテカラノ書ヲミルニ、軒垣ナドニ生タル者ヲ垣衣・一名鳥垂・垣竈・天垂・風垂ト本草ニ出シタル草ニアテ、垣衣ナルベシト後人ノ推量也、垣衣ノ異名ハ垂ノ字多シ、コレヲ思ヘバ爲秀ノ、了俊ヘノ御相傳ノ草ノヤウニ、一葉ニ似タル草、古キ軒ニアルナリ、葉ノナリハイカヤウニアリトモ、ヲシコメテ軒ニ生スルヲバ、忍草ト心エ給フベシ、忍ト云詞ニ對シテ、ワスル、ト云戀ノ詞アレバ、忘草ヲヨミ合タルバカリナリ、軒ニ萱草生ヘカラズ、忍草ノ内ニ、制ニワスレ草ト云草アルベカラズ、一草二名ニアラズト備ニ思フベシ

一若水

ウチナビキケフタツ春ノ若水ハタガ板井ニカムスビソムラン

顯昭云、立春日モトリノツカサノオホヤケニ奉ル水也、正月元日奉由僻事ナリ、カモノヤシロナドニコソ朔日奉ヲ若水ト申ナル、ソレハ立春ニナズラヘテ申コトナリ。堀河院御時、立春ノ朝ニ、御前ニテケフノ心ヨメト宜旨アリケレバ。俊頼

君ガタメミタラシ河ヲ若水ニムスブヤ千代ノハジメナルラン

一ワカナケラオキノ風

オホノヤマ霧タチワタリ我ナゲクオキノカゼニ霧立ワタル

顯昭云、息ヲバ「オキ」トヨムナリ、ナゲキノ息ノカゼト云ナリ、「イ」ト「ヲ」ト同ヒマキナリ、「ソ」ハ助字也、海ノ沖ニハ非也

丸云、鳩鳥ノ沖中川ト云時ハ沖ト息トヲ兼タリ、鳩ハ息ノ長キモノナレバ、イキノナガキト云秀句ニテ、沖中川トツマケタル由、丸ガ源氏モノガタリヲウケタマハリシ東光院殿被仰侍、九條禪閣ノ御所ナリ、支旨法印、モ此御所ヨリ源氏物語ノ三ヶ大事ヲ御相承アリ

歌林檎第六畢

歌林樸楸 第七

【カ】

一カムカセ 雄略十二年十月、天皇命木工開鷄御田始起樓閣、於是御田登樓、疾走四面、有若飛行、一時有伊勢采女、仰觀樓上、惟彼疾行、願仕於庭、覆所擊、天皇便疑御田、其采女、自念將刑、而付物部、時秦酒公侍坐、欲以琴聲、使悟於天皇、橫琴彈曰

カムカセノ(神風也) イセノイセノ(伊勢也) ヌノ(謂野津古也) サカヘヲ(榮也) イヲフル(思也) 伊與於五音通) カキテシ(懸也、根與介五音通、言覆御睛也)。(丸云、コノ覆御睛トアル註如何、コレハ伊勢采女ノ年ノサカリヲミテ、木工ガ思ヒヲカケタルト云心解) カツクルマデニ(覆也) (丸云、此註如何、カツハ且也、カク也、カクワガコ、ヘクルマデナルベシ) オホキミニ(大君ナリ) カダク(堅也) ツカヘマツラント(奉仕也) ワカイノチモ(我命ナリ) ナガクモガト(長也) イヒシ(言ナリ) タクミハヤ(工也) アタラ(惜也) タクミハヤ(工也) 於是天皇悟琴聲、而赦其罪

凡彈歌者、伊勢采女仕朝庭、成榮華之處、樓覆御睛之少事、欲及木工之死刑、堅致用意、可仕之君也、此大皇之御世、死罪連綿之間、我命危之由、諸人謠歌之、兼又惜開鷄木工之由也

丸云、此註心エラレズ、此哥ノ心ハ、イセノウネメ花ノスガタノサカンナルヲ木工ガオモヒヲカケ、アヤマチテ死刑ニアフ也、只今コ、ヘ來ルマデ君ニツカヘマツラン、イノチモナガ、レト云シモノヲ、アタラ臣下ゾト云心ナルベシ、ワガ命トハ木工ガ己トイヒシ詞ナリ、ソレヲ秦酒公ガ命モアヤキト註セリ、キ、タガヘタル

賊 カムカセ(○圖書館本ナシ衍カ)

神風ヤイセノ濱萩オリフセテタビネヤスランアラキ濱ベニ

此下句ヲ、イモコヒシラニミツル月哉トカヘテ、甚俊ノ歌トス、定家卿以前ハカヤウニ上句ヲ皆取用ラレタリ、サテ此神カゼト云ハ、ツネニ吹風ニハ非ズ、神ノ御メグミノアマネキコトヲ云也、論語ニ君子之德ハ風也ト云義ニ同ジ、日本紀垂仁二十五年三月朔ニ豐姫命ニ離テ倭姫命ニツケ給、倭姫命大神ヲシヅメマサン所ヲ求ム、兎田ノ篠幡ニ詣、サラニカヘリ、近江國ニ入、東美濃ヲ廻テ伊勢ニ至ルトキ、大神・倭姫命ニラシエテ曰、此神風伊勢國スナハチ常世ノ浪ノ重波ノヨスル國ナリ、傍ノ國ノ可憐國也、此國ニキント、コレニヨツテ齋宮ヲ五十鈴川ノ上ニ興ス、コレヲイソノ宮ト云、則大神始テ天クダル所也。又万葉長歌ニ

神カゼニ イフキマヨヒテ アマダモヲ 日ノメシミセズ トコヤミニ オホセタマヒテ云ミ
コレハ イセトツマケネド イフキトモ云リ、「イ」ハ助字ナリ、サレバ風ニモコトヨレリ、五十鈴ヲバ、イヲ鈴・イソ鈴・イスミトモヨメリ、此五十鈴川ヲ、ミモスソ川ト申ナリ、太神宮ノ御前ニアリ、濱萩ハ芦ヲ云

也、通宗朝臣、筑紫ノ安樂寺ニテ神風トヨミテ人笑ケリ、神風ヲ神ガ瀬ト云説ハ不可用、又サ、波ハ「ナガラ」トノミツマケズ、近江ノ名所ニハイヅレニモヨム、神風ハ万葉ニ「イセ」トバカリヨメルヲ、經信卿ノ、ミモスソトツマケタマヘバ、神宮チカキ所ニハヨムベキ歟、イカニイセノ國ナリトモ、ムサトハラカレズ、五文字ナリ、ヨク「可」斟酌、又ハマ萩ハ濱ニ生タル萩ヲモ申ト云説ハ不用、伊勢ノ風俗ニテ昔ヲ云ナリ、後拾遺ノ作者、侍從命婦ハ輔親ガ勸子ナル故ニ、ハマオギノ侍從ト云ケリ。伊勢國風土記曰、夫伊勢國者、神武天皇勅詔天日別命曰、國(○有)天津之方宜乎其國印賜標刀天日別命奉勅東入數百里、其邑有神、名曰伊勢津彦、天日別命問曰汝國獻於天孫、哉、答曰、吾覓此國居住久、不聞命矣、天日別命發兵欲戮其神、于時伏畏、伏啓曰、吾國悉獻於天孫、吾不敢居矣、天日別命令問云、汝之去時、何以爲驗、啓云、吾云吾以今夜起入風吹海水、乘波浪將東入、此州(○則)吾之却由也、天日別命令整兵窺之、比及中夜大風四起、扇舉波瀾、光曜如日、陸國海共朗、遂乘波而東焉、古語云神風伊勢國、當世浪寄國者蓋此謂之也、詔云、國宜取國神之名號伊勢。

丸云、此風土記久斷絶シテ今ニミタルモノナキユヘ、神風ト云ヲ、吹風ニハアラズト云、又神ガ瀬ト云説ヲコレリ、此記ノ文ヲミレバ吹風ナリ、イセノ國ノ枕詞也、イセノクニ、今吹風ニハアラズ、サルホドニ他ノ國、他ノ神ニ用事ハワルシト云傳タルモ、委ク其理キコエ侍

一カブツ、イシツ、 神武イセノ國見ノ岳、八十鼻師ヲコロシ、獨其餘黨ヲ遣臣命ニタバカリテコロセ

ト勅シタマヘバ、道臣命大來目部ヲ帥ヒ大室ヲ忍坂邑ニ作り、宴饗ヲマウケ處ヲ醉シメ、今來テウテト兵トモノウタヒテキカスル歌

於佐箇酒(忍坂也) 於朋務露夜(大室屋也) 比苦塔破而人多也 異離島利苦毛(入居ナリ) 遊(○瀬か)都遊(○瀬か)都志(滿々也、言充滿ナリ) 俱海能固避餓(來目子等也) 勾駕都々伊(頭隨々也、刃名、其頭曲) 異志都々伊(石榭也、刃名、其頭似石) 毛智(持也) 于知豆之(擊也) 夜弄務

コノ哥ヲキ、頭稚ヲ拔テミナコロシ皇軍大ニ悅、仰天テ咲、因テ哥之曰
 伊弄波豫(今者也) 伊弄波豫阿々(咲也) 時夜場(乎加志也) 伊弄儀而毛(今ダニモ也) 阿誤豫(小兒) 伊弄儀而毛阿誤豫

今來目部ガ哥而後ニ大ニ晒フ、是其緣也。又哥曰

變遊(○瀬カ)詩夷也 烏毘例利(置也) 毛々那比苦比苦(百ノ人々也) 破易陪酒毛(雖侍也) 多牟伽毘毛勢備(不手對也)

一カミナガヒメ 應神天皇。日向ノ國諸縣 君牛諸井之女 髮長媛、美人之由帝キコシメシ、專使ヲ以テ召テ、桑津ノ邑ニヲカシムルヲ、大鷦鷯尊見給、戀情アルトシロシメシ、配セント思召シ、後宮ニ宴シ、始テ髮長媛ヲ宴ノ席ニ上シメ、魯ヲ搥歌テ曰
 イサ(去ナリ) アギノニ安齋野也、所名也) ヒルツミニヒルツミニ(誦摘々々也、先稱ニ鼻氣物ニ者、欲

稱_レ芳々_ニ芳物_ノ之_レ發語也) ワカユクミチニ(我行道也) カクハシ(芳也) ハナタチバナ(盧橘也) シヅエ
ヲバ(下枝等也) 人ミナトリホツ(取落ナリ、保與_レ於同響) エハトリシカラシ(枝取枯ナリ) ミツクリ
ノ(三粟也) ナカツエノ(中枝也、言伊加栗之實多者有_レ三也) フホゴモリ(謂_レ籠也、未_レ開之良) アカ
レル(謂_レ稚也、又謂_レ明也)(丸云、上レル歟、赤ク色ツクヲ云歟) ヲトメ(髮長媛也) イサ、カバ(榮ナ
リ、言以_レ髮長媛_ニ配_ニ大鷦鷯_尊而可_レ榮也) (ナ(私記曰、現ハ謂_レ去也云々、言天皇之可_レ嫁_ニ奉_レ避_ニ大鷦
鷯_尊也)

丸云、伊弉作伽婆現那日本紀ハアルヲ、私記ニ現ハ謂_レ去ト釋シタレバ「ハ」ハイニシ「サ」ト云類歟、就其
テ、「ムカシヘ」ト云詞モ「ヘ」ノ字濁來ハアヤマリナルベシ、内々イニシヘト云ト、ムカシヘト云ト一ナルベシ
トオモヒシカドモ、儲ナル證ナカリシニ、今コ、ニ侍リ、數年ノ不審ヲハラシ侍ル

几御哥ノ意者、以_レ髮長媛_ニ賜_ニ鷦鷯_尊之由也、以_レ皇后妃等_ニ喻_ニ花兮榮彩雖_レ甚、人皆如_レ折取折枯_ニ、天皇已令_レ
交接_ニ給畢、於_レ髮長媛_者、如_レ未_レ開_ニ三粟_{之中實}、若_レ(○稚殊勝之義也。脱カ) 大鷦鷯_尊大_ニ悅_テ報_レ歌曰

ミツタマル(水積ナリ) ヨサミノイケニ(夜佐見池ナリ) ヌナハ(尊也) クリハヘケク(縁緝也、尊自_レ
水_ノ下_ニ波比保止_已留、言御(○心脱カ) 平密_ニ髮長媛_{波部多利}) シラニ(下知也) イグキツク(并杭着也、言
尊祖_ニ付于并杭_{ナリ}) カハマタエノ(河段江也) ヒシガラノ(麥柄也) サシケク(謂_レ差也、麥有_レ角天人乎
左須) シラニ(不知也) アカコ、ロ(吾心也) イヤヲコニシテ(旅尾箆也)

几御哥者、天皇歌_レ竟_之、髮長媛_ニ如_レ池尊之_類歸于并杭、如_レ江麥之_類指_ニ人手_ハ、密懸_レ意_之條嗚呼_之由也

丸云、コノユナハクリハヘテクハ、人シレズ_尊ノ心_ノ尊ニカ、ルナリ、シラニハ人シレズ也、而_レ帝ノ御手ノ
カ、ルト釋シタルハ如何、イクキツク、川マタノサシケクハ、思ヘドモヨリツカレヌ難堪ナル懸路ノコ、ロナ
リ、シラニハ、哥ノヂウジ也、又人シレズ心_ノウチヲ云ナリ、アガ心イヤヲコニシテハ、カヤウニ存ズルヲ、
シロシメテ、今ユルシ下サル、トアレバ、彌オコガマシキト仰ラル、哥ナルベシ、ヲコハ 爰ニテハハツカシ
キ由也

大鷦鷯_尊髮長媛_ニ對_レ歌之曰

ミチノシリ(道後也) コハ(來也、言_レ髮長媛_之歷_ニ原野江海_來自_ニ日向_也) タヲトメヲ(貴乙女也) カ
ミノコトキ(如_レ神也) コヘシカト(雖_レ(○戀脱カ)ナリ) アヒマクラ(逢枕也) マタ(纏綿之意也)
又歌之曰

ミチノシリ(道後也) コハ(來也) タヲトメ(貴乙女也) アラソハズ(不_レ諍也) ネシクヲシゾ(寢來境
也、之與_レ利同音ナリ、共寢來之意ナリ) ウルハシミモフ(塵_カ思_カ也)

丸云、此ネシクヲシゾト云詞、下ノ註ニテモ彌コ、ロエラレズ、愚案アラソハズネシトツマケテヨシデ、「ク
ヲシゾ」ト句ヲ切ベキ歟、其心ハ、帝ノユルシ給シハ、アラソフ事ナク、汝トスルナリ、クラシゾトハ縁フカ
クテ日向ヨリ來ルコトヲオモヘバ、ウルハシミオモハル、ト云心ナルベシ、初ニミチノシリコハトアレバ、ク

ハヤフサハ アメニノボリ(言可昇天位也) トビカケリ(飛翔也) イツキガ(謂森也、高樹於保久生毛利也) ウヘノ(上也) ハサキ(葉前也) トラサネ(取也)

今案、我朝開始出來、仁德四十三年也、其以前不可讀鷹才學。

丸云、鷹ハワタラス以前ニモ知マジキ(○以上補)ニアラズ、今モ未見、師子・麒麟・鳳凰ノコトヲモ、諺ニハモテアツカヒ侍ル

凡哥意者、如隼之高翔、皇子登天位、可知初物之由也、以高樹葉喻初物也。

天皇コノ哥ヲキコシメシ、勃然大怒テ曰、朕私ノウラミヲ以テ親族ヲウシナハントハシタマハヌヲ、カ、ル私ゴトヲ以社稷ニ及ボス、クセゴト、ノタマフヲ聞、皇子嶋島皇女ヲ卒ヒ、伊勢神宮ニ欲納而馳去ヲ追而殺タマフ、至菟田、迫於素珥山、時隱草中、僅得免、急走而越山、於是皇子歌

ハシタテノ(橋立也、言山嶮如立橋也) サカシキヤマモ(嶮山也) ワギモコト(吾妻也) フタリコユレバ(二人越也) ヤスムシロカモ(安席也)

古事記ニイモトコユレバ、サカシクモアラズ也

一カナトカケ 允恭第二皇子穴穗天皇トモ安康天皇トモ申、輕太子行暴虐淫于婦女、國人ソシ

リ群臣シタガハズ、悉穴穗皇子ニツキヌ、太子密ニ設兵皇子ヲコロサントス、皇子亦與兵、太子諸人ノワレニソムクト知テ、物部大前宿禰家ニカクル、皇子國之大前宿禰出門而迎之、穴穗皇子歌曰

オホマヘ(大前也) ヲマヘ(小前也) スクネカ(宿禰也) カナトカケ(金戸蔭也、私記曰、古以金鏤天門戸平久左礼利、故曰詞那社加藏門戸之陰也) カクタチヨラニ(如此立寄也) アメタチャメン(兩立止也)

古事記曰、穴穗皇子與軍圍大前宿禰之家、尔到其門叱零太冰雨。大前宿禰答哥之曰

ミヤ人ノ(宮人ナリ) アユミノコス、(歩小鈴也、言足鈴也、如手玉足玉、又以鈴爲傍、謂輕太子、鈴ナリ) オチニキト(落也) ミヤビト、ヨム(宮人勅括也、呼也) サトヒトモ(里人ナリ) ユメ(言也、畧布也、又努力也、憤之義也)

裏書云、万葉第二シラナミトヨム白浪散動、第三浪立莫動、

乃啓皇子曰、爾勿害太子、臣將譏、由是太子自死于大前宿禰之家、一云、流伊豫國。凡御哥意者、木梨輕太子之足結鈴落之條、今日軍爲可負微之由、宮里諸哥之旨告啓也

一カナキツケ 孝德天皇、皇太子之皇祖母尊間人皇后并皇弟等ヲ卒テ、飛鳥河邊ノ行宮ニ遷ラル、天皇ウラム國位ヲ捨ントオホシ、山崎宮ヲツクラシム、乃送歌於間人皇后曰

カナキツケ(形木付也、謂着金燒也) アガ、フコマハ(我飼駒也) ヒキデヨス(卒出也) アガ、フコマヲ(我飼也) ヒトミツランカ(人見也)

凡御哥意者、間人皇后者、天皇之妻后也、以皇后被寄馬也、皇太子卒被皇后向倭者、人定奉見良在之

第七 カナ
由也

丸云、カナキツケハ馬ノ印也、カナヤキノ事

歌林樸楸第七畢

歌林樸楸 第八

【カ】

一カタハライタキ 片腹痛ナレド「ハラ」トハヨマズ、「ワラ」トヨムナリ

一カモト云詞 カト云義也、「モ」ハ助字也

一カケロフノ石 岩トツマクルハ、蜻蛉ノ居トツマクル也

一風シブクハ シキリニ吹ヲ云、又カゼノ涼ヲ云、宗祇説

丸案ニ、涼心ニハ雜用、タマ風ノサラ／＼トフカズ、シフクル心アリ、シフクルハ、シキリナル心ニ少叶ベシ、アマリニ兼々ナレバ人モ詞ノシフクルヤウノ心アリ

一柏 ミツハ一・三角一・三圓一以上三名也、此外水柏ト云モ一説也、水ノ柏ニコト、ヘバ、シヅムニウクハナミダナリケリト云歌ヨリ云歟、コレモ俊頼ノ占逢事戀ニテ

神風ヤミツノ柏ニコト、ヒテ立ヲマソデニツ、ミデソクル 是三角柏也

村一・朝一・只朝ノ柏也。ホカシハトハ切タル根ヨリ出タル柏也。ナラノハガシハ、ナラ柏ナリ。イ

ハト一 是ハ非樹也、岩ノカドノ白ヲ云

吉野川イハト柏ヲコス浪ノトキハカキハニ我君ノタメ 定家

第八 カターカシ

朝柏ヌルヤ河邊ノシノ、メニ人モアヒミヌ君ニマサラジ
ヌル、ト云説不用、寝也、草木モ夜ハヌルナリ

一番ゴメ 匂ヲコムル也

一カヒヤ 俊成説 カヒヤ 顯昭

一カナシキニ 三色アリ。ワビシキ 面白キ 笑止

思ヤル者ノ下ダニカナシキニフカクモ雪ノ猶ウヅムカナ

陸奥ノイヅクハアレド塩ガマノウラコダ舟ノツナデカナシキ

袖ノ波ムネノケブリハタレモミヨ君ガウキ名ノ立ゾカナシキ

一カヒヤカ下 十代集ノ外口傳也

足現ノヤマ田ノ庵ニラクカビノ下コガレツ、我コフラクハ

朝露カヒヤガシタニ鳴蛙シノビツ、アリトツゲンコモガモ

鹿火屋ト書、又魚トラントテ作タルト清輔ハイヘリ、水ニカケツクリニスルソレハ

ヨハニタクカヒヤノケブリ立ソヒテアサギリフカシ小山田ノ原

他説不用、タマ田ニ鹿ヲヨセジトテ草木ヲタクナリ、田守人サムサニ燒火也

一風マツリ 須磨ニテ、花ノ爲ニ源氏ノ祭給也、春ナリ

一カフシカタチ

一カマザクラ 一重櫻也

一良ノ事 カコチ良 ウラミカホ ニクヒケシタリ、ヌル、ガホ シラズガホヨシ。玉葉第一ノ哥
オリノハ思フ心モミニベキヲウタテヤ人ノシラズガホスル

一カ、イノ祭ハ 筑波山ノ神事ニ男女不殘我人ノ女不云夜逢也、万葉ニアリ

一良鳥 ウツクシキ鳥ヲ云、カホヨドリハフクロフノヲサナキ時ノ名ナリ、又世俗ニ、ソナト云鳥ナリ。

或説ニ、ソナ鳥ハ、水ニ我カゲヲウツセバ魚ヲソレテウカビ出ルヲトル也

一鷹ハ 八月柳ノ末ニ風吹時始來也。鷹來花ト書テ「カマツカノハナ」ト枕草子ニアリ、此花ノサクトキ鷹

ハ來ナリ、葉モエンドウニ似テ、藤ニ花ハ似タリ、カヅラノ有也

一カラストフ大ヲソ鳥ノマサテニモキマサヌ人ヲコロクトゾナク

「トフ」ハトイフ也、「テフ」ト同シ、非飛、鵲ハ吉事ヲ告ルモノ也

一河邊ニモ雪ハフレ、シ宮ノウチニ千鳥ナクナリケン所ナミ 家顔

「フレ、シ」ハ「フルラシ」ナリ

一河内女 河内國ノ女ナリ、昔伊駒ヤマノ麓ニ貧女アリ、糸ヲソメテ世ヲ渡リシ也

一カケテト云詞ハ 春ノ始・秋ノ始ニ云ベシ、春ノ末秋ノ末ニハヨムベカラズト定家卿千五百番ノ判ニ書

レタリ、カケテハ兼テノ心也。或人不審シテ云、秋カケテ云シナガラモナド云モ、夏ノ末ニヨミタル哥ト云リ丸云、ソレコソ秋ノ始ナレ、木葉フリシク時分ハ秋ノ末ノコトナリ、ヨク／＼可レ有吟味

一カタチノ小野 アキツノ小野也、カケロフノ小野モ同所也

ミヨシノ、蜻かたノ小野ニカルカヤノオモヒ乱テヌルヨシゾ多キ

顯昭云、アキツトヨムベシ、カタチハ非ナリ云ミ 俊賴

ミヨシノ、カタチノヲノ、女郎花タハレテ露ニ心ヲカルナ

コレモ「カタチ」ト点タル本ニ付テアヤマルナリ。催馬樂ニ

フチフ野ノカタチガ原ヲシメハヤシイツキイハヒシトキニアヘルカモ是ハ別所也

一カツマタノ池 能因哥枕ニハ、下總ニモ、美作ニモ入タリ

カツマタノイケニ鳥キシ昔ヨリ世ハウキモノト思シリニキ

或説ニ、奈良西京薬師寺路也

カツマダノ池ハ我シル運ナシシカイフ君ガヒゲナキガ如シ

天武第七皇子、新田部親王、此池ヲミタマヒテ感心ノアマリニ飯テ語タマヘバ、婦人此哥ヲタハブレテヨミタマフトイヘリ、此池ニ運ナキニアラズ、此親王ニヒゲナキニアラズ、皆アルヲナシトタハブレタリ、右哥ヲ池

ニ水ナシ、運ナシト、人ノ云ハ不可レ然、我シル正義ナリ、薬師寺ハ天武皇后病ニヨリ、白鳳九年ニ造ラル、シカレバ此寺以前ヨメル哥歟、一説寺ノ邊ニアル池トイヘリ、良玉集云、モノヘ參ケル道ニ、昔ノカツマダノ池トイキノ跡バカリミエケルニ 道濟

クチタテルイキナカリセバカツマダノ昔ノ池トタレカシラマシ

顯昭云、此哥モ大和トオボユ、美作ニテハ道ト云ガタシ

丸案ニ、能因ヒガゴトアルベカラズ、美作ニモ大和ニモ同名有トシルベシ

一カラ人ノ舟ヲウカヘテアソフ 三月三日曲水ニ浮舟古事文集ニアリ、万葉十七ニモアリ、又舍衛國説

〔伽神ア〕河ニ、三月三日河邊ニテ逍遙スレバ諸罪ヲ滅云々。家持作

唐人ノ舟ヲウカヘテアソフテフケフゾワガセコ花カツラセル〔○ナ〕

一神ヨリ板

カミナビノ神ヨリ板ニスル杉ノ思ヒモスキズ戀ノシゲキニ

神ヨリ板トテ神ノヨリタマフ板有

一河ヤシロ

カハヤシロシノニヨリハヘホス衣イカニホセバカ七日ヒザラン

顯昭云、神樂譜ニ夏神樂ト云コトアリ、河ノ上ニ神ヲ立棚ヲカキテスル。貫之哥ニ

ユクミヅノ上ニイハヘル河ヤシロ河ナミタカクアソブナルカナ
又多忠節ガ哥ニ

ユフシデハ浪ニマカセヌ河ヤシロサカ木ゾ神ノシルシナリケル

江都督 六月盡哥ニ

カハヤシロ秋ハアズト思ヘバヤ浪ノシメユフ風ノスマシサ

陪從入道重義歌ニ

河社サ、ナミヲレバ六月ノアラブル神モコ、ロユクラン

壬生忠峯ガ御屏風ニ、六月河邊ニ神樂スル所ニヨメル

ミナカミノ心ナガレテユク水ニイトマナゴシノ神樂面白

奥義抄ニ、河社ノ事サマ、ニ申メレド、皆ヒガゴトナリ、是ハ夏ノ神樂ノ事也、神樂ハ冬スルコトヲ、夏ナドスルトキハ、清キ川ノ邊ニテスルナリ、河瀬ニウヘ木四本ヲタテ、ソレヲ柱ニテシノ竹ヲ棚ニカキソレニ神供ヲ備フ、コレヲ川社ト云ナリ、サテ庭火ニハ此河ヤシロシノニヨリハヘノ歌ヲウタフナリ、コレ神樂謂ニミエタリ、江中納言集ニ云シ水ノ御馬ノ陣トカキテ

ホサハヤノシノヲ折ハヘホス衣シ水ノミヤノナガレタヘセデ

シミヅノ宮ハ八幡ナルベシ。玄旨法師ノ御相傳ニハ、社ノ字ハ示篇ニ土ナリ、神ヲアガメ申ニハ、土ヲタカク

ツキアゲ、ソコニ祠ヲ立祝申御ク、水ノフカミニオチアヒ、集タルトコロノ浪ノ音ノ、鼓ノ如クナル所ヲ川社ト云、ソレニ波ノ白絹ノヤウニツネニ白クカ、ルヲ、七日ヒザラント云ナリ、七日トハタマヒサシキコトナリ、コレ定家卿ノ説歟

丸案ルニ、此師傳ノ説ハ、シノニヨリハヘホス衣ノ歌ノ義ニハヨクカナヘリ、サレドモ奥義ノ説モ神樂ノ譜ニアレバ、無實ナドオヒタル所ニ、マコトノ布ヲモホスニヤ、古哥共ニ夏神樂ヲスル證明白ナリ、可用之、但此上ニテ今一重タカキ口傳アリ

一カヘシモノ

アヅマゴト春ノシラベヲカリシカバカヘシモノトハ思ハザリケリ

コレハ中書王、琴ヲカリテツカハス、伊勢返シ

返テモアカヌ心ヲソヘツレバツネヨリコエノマサルナルラシ

カヘシモノトハ古今神アソビノ哥ノ中ニ、アヲヤギヲ片手〔○絲カ〕ニ、マカネフクキビノ中山、ミマサカヤクメノサラ山

アサクラヤ木ノ丸ドノニワガオレバ名ノリヲシツ、ユクヤタレゾモ

此歌御所ノカヘシ哥タリ、アサクラカヘス、或ハ吹返或播返糸竹イヘリ、或催馬樂拍子ト云、古今ノ返シモノ、哥ハ、催馬樂呂律ノ哥ナリ、サレバカヘストハ催馬樂拍子ニ吹ナシ、引ナシテ、アサクラヲウタフナルベ

シ

一カツミ 綺語抄ノ芦花ヲ云ト申説不用、カツミハ鷹也、花ヲバ花カツミト云也、伊勢ニテ芦ヲハマ萩ト云ヤウニ、奥州デコモヲ「カツミ」ト云ナリ、五月五日ニモカツミフキトテ、アヤマヲバフカデコモヲフク也。童蒙抄云、橋爲仲任ニコモヲフクヲ腹立テ、在廳ノ者ヲ召セバ、老人出來テ、イカデ年ノミヨリテカ、ルコトハセサスルゾ、トイマシメケレバ、實方中將アヤメナクバ、カツミヲフクベキ由侍ケレバ、其例ト申、爲仲取テ引入云々、以上万葉ニハコモトヨムハ多シ、カツミトハスクナシ

女郎花サク澤ニ生ル花カツミカツミモシラヌスモスルカナ

散木集云、花カツミト云ヲ、シラヌ人ノシリガホニヨミケルヲ

鶴ノキル玉江ニ生ル花カツミカツヨミナガラシラヌナリケリ

一カゴト 一ニカコツ、一ニスコシ、一ニチカヒ、袖中抄ニハカタノゴトクト云義ヲシルサル如何、イツ

レモ其哥ニヨリテ叶ヤウニ用ヒカユベキナリ

アヅマヂノ道ノハテナルヒタチ帯ノカゴトバカリモアヒミテシガナ

コレハ帯ニハカゴト云モノアレバ序哥トヨムナリ。左傳曰、桓公之鈎ト有、帶ニ付タル物也

シルシナキ思トゾキクフシイネモカゴトバカリノチカヒナルラン

山田サヘ今ハカヘスヲチル花ノカゴトバカゼニ仰ザラナン 貫之

春日ヤマフモトノ小野ニ子日シテカゴトヲ神ニマカセテゾミル 俊嗣

一カゾイロ

カゾイロハイカニアハレトオモフランミトセニナリヌアシタ、ズシテ

民部大輔文章博士勅勅ノコトヲ日本紀竟宴ノ題ヲ給テヨムナリ、無名抄云、伊弉册尊ヒルゴヲウム、其形人ニ似タレドモ、フクサノキヌイトノヤウニテ、足モダ、ズ、オキモアカラネバ、棹ナドニウチカケテ三年マデゾアリケル、朝綱卿公ノカシコマリニ、ミトセアレバ是ニタトヘテヨムナリ、父ハカゾ、母ハイロト、日本紀ニカヘ云リ、万葉ニハカゾイロ、又イロカ命、又イロカゾト逆ニモヨメリ。俊嗣歌ニ

郭公ナガ、ゾイロノ鷺ニマレニナクテフコトナ、ラヒソ

一カ、フカ、ヒ

ワシノスム、ツクハノ山ノ、モハキツノ、ソノツマヒトニ、ヒキキキテ、乙女オトコノユキアツメ、加賀布フカ織哥ニ、コトヅマニ、ワレモカヨハン、ワガツマニ、人モコトマヘ、コノヤマヲ、ウシハク神ノ、ムカシヨリ、イサメヌコトヲ、ケフノミハ、目串モミルナ、コトモトガムナ

關昭云、万葉云織哥者東俗語曰、加賀比云々、今云、カマヒトハ、男ニステラレタル女ヲ云、コレハ登ノボリ三筑波フナ嶺ノボ爲シ織哥會ノ日作歌云々

丸案ニ、「カ」トハ家室ヲ云、家室トハワガツマナリ、今世間ニ、家アルジノ女ヲ「カ」と云モ家室ナリ、此ツ

クハノ神ノチカヒニテ、一年一度男女カノ山ニノボリ、自他ノ夫婦、メンノ入交リ、ネタムコ、ロナク、其夜逢ナリ、シカレバ家室ヲカヘテヌルユヘニ、カマヒト云歟、男ニステラレタル女ヲ云トアルモ、コレヨリヲコリテ云ナルベシ、其夜ハ別夫トチギリヌレバ、ステタルト同ケレバ、其心ヲトリテ云ナルベシ、童蒙抄云、越前守仲實歌ニ

人コフルカマヒモワヲバイトヒケリワシノケ、ナクシラネコユレド

丸案ニ、此歌ノカマヒ、男ニステラレタルヨメリ、ワハ我也、ケ、ナクハ、カクナク歟、同音。万葉常陸防人哥云

ツクハネニカ、ナクワシノネノマヲカナキワタリナンアフ事ハナシニ

丸案ニ、コレハカマヒノ哥ニアラズ、仲實歌ノ本哥歟

一カヒノケ衣 サラス手作

カヒガネノ白キハ雪カイナオサノカヒノケゴロモサラス手作

顯昭云、コレハ風俗ノ哥ナリ、鶴ノ毛衣ハ、毛ノ白キヲ云

又万葉ニ、ワカケヨソヒノソラトヨムハ、襲ノ衣也。イナオサトハ万葉ニ

ツクハネニ雪カモフフルイナテカモカナシキコロガニヌヲサルトモ

是ハ常陸防人哥ナリ、似風俗哥。ツクハネトアルハ、カヒガネ(○ニト取カ)ヲケルニ似タリ、雪カモフルハ、

白キハ雪カニ似タリ、イナテカモハ、イナオサニ似タリ、カナシキ比ハ、カヒノケ衣ニ似タリ、ニヌヲサルカモハ、サラス手作ニ似タリ、シカレバイナオサハ人ノナト聞ルニ、此常陸ノ哥ニ、イナテカモトヨミタルハ、イナトカモト云心ハ、雪ノフルカ、又サモアラヌカト云心也、サラバ、イナハイナント云詞歟、オサハ長也、何コトニモオサト云コトアレバ、衣サラス人ニテアルベシ、万葉、武蔵防人

玉川ニサラス手作サラノ、ニ何ゾココロコ、ダカナシキ

此下句、六帖ニハ昔ノイマニ戀シキヤナゾトアリ、武蔵ニ兒玉郷ト云所ヨリナガレイヅル河ヲ玉川ト云、此所

ニ布ヲサラスナリ、ヨキ布也、白縮布ト書、俗ニ手作布ト云ゾ、カナシキコロハ、イトヲシキ子ト云也、ロハ

助字ナリ、ホサルハ、ホセルナリ、「サ」ト「セ」ト同音也、又六帖云

遠方ニ白キハナニゾイナヲソカシカヒノクサノサラス手作

是ハ風俗哥ヲ云ナス歟、又僻事歟、シカヒノ草ト云句カヒノケコロモト大ニ違ヘリ、イナヲソハオサト同シ

丸云、初ノ風俗ノ哥ヲ先ヨクハ註セズシテ、其次ニ常陸防人が哥ヲ出セリ、寫本書チガヘアル歟、サラニワケ

キコエズ、イナオサハ稻長ト書歟、田長ノ頭ナルベシ、人ノ名歟、所ノ名歟、未知、カヒノケゴロモハ、甲

斐ノ毛衣ナルベシ、鳥獸ノ毛ニテアルモアルトイヘバ、昔ハカヒノ毛衣ト云アリシト思ベシ、又常陸防人が

哥ノ、雪カモフ、ルハ降フルカ也、イナテカモハ、顯昭ノ註ニテモ心ユカズ、カナシキコロハ能キコエタリ、

結句ノニヌヲサルカモ、一切エシラズ、又註モナシ

丸、今万葉ノ本、手前ニナキ故ニ見ザルニ委不レ記
一カツシカハセ

ニホトリノカツシカハ(〇ワ)セヲニヘストモ其カナシキヲトニタテメヤモ

顯昭云、下總カツシカト云所アリ、其ワセ也、ワセハ早苗ノ稻ナリ、中田^{ウラジ}ハナカテ、晚田ハヲクテト云、ニホ
ハ新取ナリ、「ホ」ト「ヒ」ト同音也、ニヘストハ、田舎ニ初テワセヲカリテ飯ニシテ、里隣ノ者アツマリクフヲ
バニヘスト云ナリ、贊ハクヒモノニ付タル名ナリ、公ニ奉ルモノヲモ御贊ト云、又私ニクヒモノスル所ヲモ贊
殿ト云、但ニヘハ多ハ魚ニコトヨル名ナリ、魚入タル桶ヲバニヘ桶ト云、贊殿ト云モ、汁菜ナドスルトコロナ
リ、飯スルトコロハオホイドノトコソ申メレ、其ニヘノトキニ來ル人ヲバ内ヘイレネバ、サルトキナリトモ君
ガ使ヲバイレントヨムナリ。無名抄云、ニヘストモトハ、春田作ラントスル時、万ニ物ヨキ人ノ、サハリナキ
ヲ、イクタリトモ數ヲ不定シテ、ヨビアツメテ饗應シテ、年木ト云物ヲキラセテ、家後園ニ立ルナリ、其木ハ
ホソ長ナル木ノ枝モナキヲ切テ、サヤ(〇キ)ニテイサキカメニ水ヲ入テ、ヲトロト云モノヲクシテサキニ
ヒ付テ、家ノシリヘニ立テ、其ノ秋ツクリタル田ヲ、初テ刈テ、春切シ贊ノ人々ヲヨビアツメテ、門ヲサシ
テ、サハリ出來ヌサキニクヒノ、シル也、サアランヲリナリトモ、君ガ使ヲバカヘサデヨビ入ント、コ、ロザ
シアルサマニヨメルナリ。私云、年木ハ賀茂ノ小屋トモニゾ家毎ニ立侍ル、松ノ木ノホソクテ、二丈バカリア
ルガ、枝ヲモ切テ、末計ニ葉付タルニテゾ侍。私云、俊賴薩源ガモトヘモノ申サントテ友々マカリケレドモ、

イタハル事アリトテ、アハザリケレバ指隨子ニ書付タリケル、俊賴

コリハテズニヘノハツカリ朝ニスル家ニモアラデ人カヘシケリ

返シ 薩源

ハツカリノニヘノヒルケノツカナリト總カケゾスベキイカマカヘサン

ヒルケハ晝ノクヒモノ也、朝夕ノクヒモノヲバ、アサケ・ユフケト云ナリ、ツカナリト、ハ、時ナリト也、
「ト」ト「ツ」ト「カ」ト「キ」ト同音也、ホカケトハ總ヲクミ合テ具シテ、門ニモ倉ノ戸ニモ神ニヨセテ總カケシテ
ト云ル也、カ、ル事ヲモシラズシテハ贈答ハ興ナカルベシ

丸、顯昭ノ註并無名抄ノ説ヲミルニ、其カナシキヲ戸ニタテメヤモトアルヲ、君ノ使トアリ、何ヲ以使トハ被
レ註タルゾ、顯昭ハ定テ無名抄ノ如クカ、レタルベシ、コレハ我大切ニ思フ君ヲ、カナシキト云賦、若戀ノ哥
ナラバソレナルベシ、但是ハ食物ノ事ヲヨメバ、此カナシキハ賁人ナルベシ、乞食ナドノアハレゲナルヲミ
テ、慈悲ノ念ヲ、コシテヨメルナルベシ、カナシキヲ使ト云ベキコト心ユカズ

一カタミ

マスカマミカケテシノベトマツリサスカタミノモノヲ人ニシメスナ

詞云、時有所幸娘子^ニ寵薄之後、還^ニ賜寄物^一俗云ニ可多美^一

又タガイヲカタミト云詞アリ、契キナカタミニ袖ヲシボリツ、ナドヨメル類ナリ、又寵ヲカタミト云、花ガタ

ミナドハ花籠ノ事也、此マスカマミノ哥ノ「カタミ」ハ遺物ナドノ事ナリ、マツリサスハ奉ト云詞也、マダスト云詞ト同ジ

一カサ、キノユキアヒノ間

夜ヤサムキ衣ヤウスキカサ、ギノ行アヒマヨリ霜ヤクラン

顯昭云、此ユキアヒノマト云ニ付テ二義アリ、一ニハ鶴ノ橋ナリ、一ニカタソギナリ。問答抄云、號哥鶴ハ

アヤマリナリ、カタソギト云ベキ也、カタソギトハ神ノホグラノツマニ、刀ノヤウニテタテル木也、又ノ名ヲ

バチギト云、然ニ此歌或人云、住吉明神アマ下給ル時ニ作タル神殿ノ、久ナリテアハレタル故ヲ、公ニシラレ

奉ラントテ、帝ノ御夢ニミセタマヒシ哥也。奥義抄云、哥論義ニ鶴ハ誤也トアリ、先達ノ事ヲ疑ハ心エヌコト

ナレドモ、コレハ鶴ナリ、書ニミエタルコトナリ、鶴ノハネヲチカヘテ、双ツラナリテ、橋トナルコトノアル

也、カサ、ギノヨリハノ橋トモ云ヘリ、詩ニ鳥籠橋邊浪往來スト作レリ。忠峯

カサ、ギノワタセルハシノ霜ノウヘヲヨハニフミワケコトサラニコソ

又曾丹哥ニモ

カサ、ギノチカフルハシノマドヲニテヘダツル中ニ霜ヤクラン

又鶴ナラヌ鳥ニモ、万葉ニ

空ニトブ鴈ノ翅ノオホヒ羽ノイツコモリテカ霜ノフルラン

夜ヤフクル衣ヤウスキ鶴ノユキアヒノハシニ霜ヤフリヲケル

今更ニ如此、ワレ或ハ鶴ト云説ニ付歟、六帖哥ニモ

鶴ノハネニ霜フリ寒夜ヲヒトリヤワガネン君マチカネテ

中空ニ君ハナリケン鶴ノ行アヒノハシニアカラメナセソ

此後哥ハ、七夕ノ心ナリ、又カサ、ギノ橋ハ鳥鶴ト書、ソレヲ近代ハカラスト、カサ、ギトクテバシヲクヒテ

カヘタルヤウニテト書リ。又或物ニハ鶴ノユキアヒノ間トハ、鶴ノ名ナリト云リ、イハレズ

丸案ニ、顯昭モ兩義ヲイダサレタレドモ、鶴ノ説ニハ古歌古詩殊ニ菅家ノ御作ノ孫姬式等ノ證多ケレバ、奥義

抄ノ説ニ傾タマヘルトミユ

丸云、歌論義モ公任卿ノ作ナレバウタガフベカラズ、能々是ヲ思フニ、孫姬式ニアル上ハ鶴ノ橋ノ哥コトハ

シタ古キ哥也、此哥ヲ御夢想ニカタソギトヨミカヘ給シ也、トモニ古キ代ノ事ナレバ人ノ疑出來テ、一ツハア

ヤマリナルベシトオモヘリ、歌論義ニ或人ノ云トアリテ證文ナケレバ、イツノ帝トシラレヌ事ホイナキ事ナレ

ド、公任卿日本一ノ博學者ナレバ、即此御筆跡ヲ證トスベシ、但鶴ヲアヤマリトノタマフコソ不審ニ侍レ、ア

此歌論義、コレノミナラズアヤマリ多カル文也、私云、哥論義ノカタソギ、奥義ノ鶴トモニイハレナキニアラズ、但七夕ノ牡〔○秋カ〕ニワタス鶴ノ橋ニ霜イカマト聞ユレド戀ノ哥ニヨメルニヤ、又孫姬式云、銀漢鳥鶴之會橋、在夜遊而降風霜

ヤマリナラバ孫姫式ニアルベカラズ。菅家又ウタガヒ難シ、鶴トアル哥書ヲ御覽ジテ、漢家本朝ノ古事シリノ公任、ソレハアヤマリ、カタソギノ説ヨシト定タマフホドノ事ナレバ、夢想ノ説モオボロゲノ事ニハ侍ラジ、兎角古事別々ニテ、哥モ別々ノ歌ト思ベシ、形鳴ノ羽カキ、榎ノ端カキト兩説有ガ如シ、イツレヲモ捨ベカラズ

一カウテフサズ

ヒク嵩ノアミノウケブネ浪マヨリカウテフサズトユフシデ、カク

顯昭云、綱引ニハカウテ・シモテトテ有リ、綱ノ大綱ヲヒクニ、左ノ大綱ヲバ「カミテ」ト云、右ノ手ノ綱ヲ「シモテ」ト云、綱ノウケ舟トハ、沖ニテ綱ニ付タル舟ナリ、カウテフサズトハ、ツヨクヒクニハ、アコドモタフレ伏タルヤウニナリ引ナリ、スグニ立テヨハクヒケバカミ手モ、シモ手モ綱ユルビテワルケレバ、木ノサキニシテヲツケテヒケバカクナリ、タトヘバ上テモ・下テモカ、ソコトハ同事ナリ、此歌ハカウテヲヨメリ、シデナラネド、アヤキ笠ヲ木ノサキニカケテモカクナリ、隠カヨハヌホドニ沖ニ出タレバカクスルナリ。引嵩ハ、備後ニ在

丸云、カヤウノムツカシキ事マデ尋求メ、委シルシヲキ、今ノワレラニシラセ給、顯昭ノ御心タマ菩薩ニテコソ侍レ

歌林樸楸第八畢

歌林樸楸 第九

【ヨ】

一ヨシノ、クス 應神十九年十月朔、吉野宮ニ幸スル時、國樸人來朝シ、醴酒ヲ獻テ歌之曰

カシノフニ(所名) ヨコスヲ(楸曰也、略字) ツクリ(造也) ヨコスニ カメル(醴也) オホミキ ウマ

ラニ(甘也) キコシモチ(開持也、謂開食) ヲセ(飲也) マロカチ(丸父)

今案、表ニ父姓也。ウタヒ訖テ打ノ口ヲ仰笑、今クスビト土毛ヲ獻、哥訖テ口ヲウチ仰咲ハ此例也。古事記曰、

吉野國主等云ミ、又於吉野之白檮上ニ作楸曰ニ而於其楸曰ニテ酒ヲ作也

一賀哥

一ヨクタチハ 夜降ト書テ夜ノ更ル事也、クタチハ、モノ、末ヘナルコト也、末ヘナレバ下ル故ナリ

夜クダチニネザメテヨレバ河乙女心モシノニナクチドリカナ

一蕪カ袖トハ ヨモギハ大木ノヤウニ後ニハソダツモノ也

霜ガル、蓬ガ袖ノカレマヨリ雪ゲニ似タル冬ノ若草

一ヨシエヤシ

ヨシエヤシキマサヌ君ヲイカマセンイトハヌワレハ戀ツ、ヲラン

夢ノゴトオモホユルカモヨシエヤシ君ガ使ノマナクカヨヘバ

アラガエバ神モニクシトヨシエヤシヨソフル君ガニクカラナクニ

天原フリサケミレバヨハフケニケルヨシエヤシヒトリヌルヨハアケバ明ヌトモ

綺語抄ニ、ヲシエヤシハ男ヲ云、奥義抄ニ、ヨシエヤシハ男也、顯昭云、ソハナド云心歟、アラバアレット云心也

丸案ニ、ヨシエヤシト云詞ノヒマキヲ吟味スルニ、ヨシヤ・アシヤト云コト也、善惡ニカタツカネバ、サラバサテアレット云ヤフノ心歟。又、「ヨシエヤ」トモヨメリ、「シエヤ」トモ。「ヲシエヤシ」トモ、イヅレモ「ヨシエヤシ」ニ同ジ

一ヨリヘノ水 源氏ニ「ヨルベノ水」モ同事歟

サモコソハヨリベノ水ニ影タエメカケシ葵ヲワスルベシヤハ

奥義抄ニ、是ハ神社ニ瓶ヲ置テ、ソレニ水ヲ入、無實ヲヒタルモノハ、神水ノトテノム也、糺ノ神ナド、今モアリ。源氏ノ歌

神カケテ君ハアラガフ誰カサハヨルベニタマル水ト云ケン

古今ニ

神サビテフル江ニタマルアマ水ノミクサキルマデイモヲミヌカナ

此哥ニ付、フルヘノ水ト云人モアリ

丸案ニ、是ハ別ノ事歟

一寄占ト書テ ヨツクトヨム。神ノヨリ給占ニコソ

一ヨコホリフセル

カヒガネヲサヤニモミシカケ、レナクヨコホリフセルサヨノ中山

サヤノ中山ハ遠州ニ在、師仲卿・俊成ハサヨノ中ヤマ、顯昭ハ遠州サヤノ郡ナレバ「サヨ」トハ云ベカラズ云云、頼政ハサヤノ長山ト云リ、俊惠ハ石上フルノ長道トヨミシヲ、中々ニトツマケタル歌ハイカニトイハレテ閉口シキ、サヨノ長山モコノ例也、教長・頼政ハサヤノ長山、師仲卿・俊成ハサヨノ中山トイハレキ

丸案ニ、古今ニサヤトアレバサヤノ部ノ説懐ナリ、サレドモ夜字ヲ「ヨ」トモヨミ、土民モ「サヨ」ト云モアレバ、「サヨ」モアヤマリニハアラズ、其上俊成ノヨミ給ヘレバイヅレニテモクルシカラズ、但ヨルノ用ニ立ルトキハ「サヨ」可然、常ハ「サヤ」ニテヲクベシ。四郡ノ説ハ諸抄ニ不用、土佐記ヲヒケバ横折説ヲ可用、ケ、レナクハ、心ナク也

一ヨトテノスカタ

ワギモコガヨトデノスガタミテシヨリ心ソラナリ土ハフメドモ

顯昭云、夜ル戸ヲ出ル姿ナリ、夜戸出ヲ「ヨコデ」トヨミタル類聚古集ノ書ニ付テ、清輔ヨマレキ、俊成モ百首

ヨコホリ

ニヨマレキ、如何、戸文字ノ音ハ「コ」也、上戸・下戸ナド云、訓ハ「ト」也、万葉ニ朝戸出トヨミタル歌アリ、
凡万葉ニ此「戸」文字ヲ「コ」トヨメルコトナシ。崇徳院御製ニ

タツノコガヨトデノスガタミテシヨリシエヤ命ハアフリカヘテン

丸云、タツノコハ、龍ノ御尊、タツト云女ノ名ナルベシ、又夜戸出ノコト、顯昭ノ説殊勝也、彼後撰、ミカノ
ヨノ餅飯ハクハジワツラハシキケバヨドノニ母コツムナリトヨメルモ、淀野ニヨセテ夜殿ヲヨミタリ、ヨトデ
モ夜ノ御殿ノ戸ヲ出ルコトナリ

一ヨコノウミ

ヨゴノウミニキツ、ナレケン乙女ゴガアマノ羽衣ホシツランヤゾ

顯昭云、是ハ曾丹ガ三百六十首ノ中ニ、七月上旬ノ歌ナリ、昔近江ノヨゴノ海ニ織女下テ水アミ給ニ、ソコナ
ル男又ギヲケル羽衣ヲ取ニ、エノボリ給ハデ、妻ニナリ子トモ生ツマケ、年ゴロニナレド、天上ヘノボランノ
志ウセズシテ泣タラス、此男ノ留主ニ、此子何事ニカク泣給ゾト云ニ、シカムノコト、始ヨリ云ニ、父ノ隠
シヲケル羽衣ヲトリ出ケレバ、悦テ飛上ケリ、ワレハオボロゲニテハ逢マジ、七月七日毎ニ下テ此海ノ水ヲア
ブベシトチギル、其子孫今ニ有トナン、或人ノ申、河内國アマノ川ニコソサル事アリケレ、七夕ノ子孫今ニ河
内ニ在ト申シカドモ、曾丹ガヨメルハ髓ナル事ニコソ、ウタガフベカラズ、近江ニモ河内ニモアリケル事ナル
ベシ。奥儀抄ニ

古モチギリテケリナ打ハブキ飛立ヌベシアマノ羽ゴロモ

飛立トハ此ヨゴノ海ノ事ヲヒキノセタリ

【タ】

一タマキハル 仁徳五十年三月、河内人奏曰、於^{カサ}茨田堤^{コサ}鷹産、天皇歌以問武内宿禰曰

タマキハル(玉城張也、築物之辭) ウチノアソ(内朝臣也、武内也) ナコソハ(謂名也) ヨノトヲ人(世

達人也) ナコソハ(謂名也) クニノナガ人(國長人也、仕^ニ數代聖朝能知^ニ國事也) アキツシマ(秋津

嵩) ヤマトノクニ、(日本國也) カリコムト(鷹生卵也) ナハキカルキ(名不聽也)

丸云、ナコソヲ名ト註セリ、如何、汝ナルベシ、ナハキカルキモ、汝ハカヤウノタメシヲ被^レ聞^ル也

武内宿禰答哥

ヤスミシ、(八咫知ナリ、四海八挺也、或説、昔御間城天皇遊^ニ靈於那良山^ニ時有^レ鹿、再度跪拜、天皇遊^ニ

憐^シ鹿^ヲ、遂^ニ不^レ射^ル、故欲^レ言^ニ我君之^レ恥、有^ニ此^レ發^ル語^ニ、是^レ息^ル鹿也) ワガオホキミハ(言^ニ代々帝王

也) ウベナ(宜^ク也、亦多多也) ワレ(○ヲ^レ我^カ) (我也) トハスナ(不^レ問也) アキツシマ(秋津嵩)

ヤマトノクニ、(日本也) カリコムト(鷹生卵也) ワレハキカズ(我不^レ聽ナリ)

丸云、ヤスミシ、ノ説ハ、八隅ノ説正義ナリ、或説ハ出處不_レ委、又イブカシキ事モ侍。タマキハルノ事、袖中抄ニ顯昭ノ命トツマキタル哥多イタシ、其中ニ

玉冠春内ノ大野ニ駒ナメテアサフマスランソノ草フケノ

舒明過_ニ穉_シ玉_ヲ内野_ニ之時、中皇命使間人連老_ヲ獻_ス哥、顯昭考、万葉長哥

靈冠内限者 南陽部州人壽一百廿年

此註モ委ニヨセタリ、而ニ今タマキハルウチノ大野ノ哥ハ、命ニヨセタル事モナケレバ思ガタシ、是ハ別ノ事ニヤ、十節録ニ

取_ニ雷_尤頭_ヲ秘_シ之_ヲ今_ノ秘_杖是也、漢土年始用_ニ件_ノ事國中_ニ無_ニ凶事_ニ云_ミ サレバ秘杖ヲ玉冠春ト云也、

無明抄云、是ハ魂キハマリヌルト云事ナリ、又内ノ大野トヨビ玉キハルイハカキ淵ト云歌、玉ト云コトハ万ノモノヲホムルヲソユルナリ、是モ春ヲホメントテナリ、イハカキ淵ヲホメントテ也、コレヲ案也(○アヂ)ワケテシラヌ人ハ命ヲヨムトオモヘド、サモツマカヌ哥モアレバ可_レ尋トゾ。近代ノ説、宇宙ト書トイヘド、オホゾラノ大野トツマケンモ心エラレズ

玉キハルワガヤノ上ニ立霞タチテモキテモ君ガマニ

コレモ、玉ハホムル詞ト古人ノ註アレド、只命短我トツマケタリ

マス鏡ミツトイハメヤ玉キハル石カキフチノカクレタルツマ

是モイハカキ淵ヲホムル詞ト無名抄ニアレドアシ、是ハ命ノ「イ」ノ字ヲトリテ、イハカキトツマケタリ、此外ハ万葉ノ哥ドモイヅレモ玉キハルイノチトノミアレバ爰ニ不_レ載_ス之、コノ命トツマケヌ哥ヨリ不_レ審_ヲコリテサマ_ノノ説ヲ付ラル、能々思案イタセバ、俊顯ノ無明抄ノ説モアヤマリニアラズ、其故ハ南陽部州ノ説ハ内典ノ説ナリ、仁德天皇ノ御哥ハ、佛法此國ニ未_レ渡先ノ歌也、此御哥ニタマキハル内トツマケ給ハ、玉城張トモ、玉冠春トモカケ、以_ニ珠_玉莊嚴_ヲキハメツクシタル内裏ト云詞ナルベシ、日本紀ノ中ノ哥ドモハ皆如_レ此、万葉ニ到テハ命ノ極ルト云義ニトリナシテヨミ出タルトミエタレバ、玉キハルト云詞ハヒトツニテ、ヨミヤウニヨリ兩讀アルト知ベシ、サレドモ當代ノ哥ニヨマンハ、祝言ノ所ニテハホムル心ニモヨムベカラズ、末代ハ才智ノ人ハ少ク、只命ノキハマル詞トノミオボエタレバ、人ノ耳ニ立ベシ、歌人ハサヤウノトコロノ用捨肝要トテ、伊勢物語ノ「フバカリノ哥ヲシルセリト玄旨法師ノ御講尺ニモ委宣給侍

一タキマチ 哆幡摩知、當摩ノ事也、タエマヂ也。日本記第十二履中天皇ハ仁德ノ太子去來_ニ隱_レ別_ニ天皇

也、イマダニ即位ナキ時、仁德崩ズ、羽田矢代宿祢之女黑媛ヲ妃トセント定テ、住吉仲皇子ヲ遣シテ吉日ヲ告給、トキニ太子ノ御名ヲ冒テ黑媛ヲ對シツ、是夜仲皇子手ノ鈴ヲ忘テ歸ル明夜太子室ニ入帳ヲ開テ玉床ニ居ニ、床頭ニ鈴ノ音アリ、太子異テ、何ノ鈴ゾト問タマフ、黒媛云昨夜之モタマヘル鈴ニアラズヤ、何ゾ妾ニ問給フト云ニ、太子サトリ給テ、默シテ避也、爰ニ仲皇子畏テ太子ヲ殺ント密ニ興_ニ兵_ヲ太子ノ宮ヲ圍、時ニ平群ノ木鬼宿祢・物部ノ大前宿祢・漢直祖ノ阿知ノ使主、三人太子ニ啓、太子醉テ起給ハズ、大前宿祢馬ニノセ

抱^{イキナフ}テ逃^{ニケ}タマフヲ仲皇子不知、太子ノ宮ヲヤク、通夜火不滅、太子河内國^ニ塙生ノ坂ニテ醒タリ、難波ヲカヘリミ給、火ノ光ヲミ給大ニ驚テ急キ馳テ自ニ大坂^ニ向^キ倭、飛鳥山ニ至^リ、小女ニ山口ニアヘリ、此山ニ人アリヤト問給ヘバ、兵多ニ侍ト云、ソレヨリメグリカヘリ、自ニ當摩^ニ路^ニ之、小女ノ言ヲ聆テ難^ヲ免^カタリトオボシテ歌之曰

オホサカニ(大坂也) アフヤヲトメ(○ヲ^ニ遇^フ少女也) ミチトヘバ(路間也) タマニハ(直也) ノラズ(不^レ昇也、略^レ保也) タキマデヲ(當摩路也) ノル(昇也)

丸案ニ、光源氏物語ノ浮船ヲ^ニ宮ノ齋大將ニマギレヨバヒタリシハ、此黒媛ノ古事ヲフマヘテアラヌサマニツクリ出セシナリ、誠ニ藍^ニヨリモ青侍リ、彼物語ニ混本少モナキコトハカ、ヌト云傳ヘタレド、體ニシル人ナシ、紫式部ハ日本紀ヲ能シリタルニヨリ、日本紀ノ局トイハレシ人ナリ、又此御哥ノツマキニ、自ニ龍田山^ニ之、叱有^ニ數十人執^レ兵^ヲ追來者、太子遠望^之曰、其^レ彼^レ來者ハ誰人ヤ、何^レ歩^ヲ行急ナル之、若賊人乎云々。是ヲミ侍レバ、彼伊勢物語ノ風吹バノ哥ヲ盜人ノ事ニミルハ惡ト云説ハイハレズ、其イハレヌト云説ハ、顯昭古今ノ註ヲセラレシニ、此歌ニ到リ、是ヲヌス人ノ立ト云ハアシカルベシ、其故ハ万葉ニ、水底ノ沖ツ白浪立田ヤマイツカコエツ、イモカヘリミントモヨミタレバ、只立トイハンタメノ白波ナルベシトカ、レシヲ、定家卿サモアルベシト御同心アリシユヘ也、顯昭ハ日本紀ノ此所ヲミズシテ、白浪ノ立田トツマケタルヲ万葉ノ哥ヨリ始リタリト思ヘリ、此万葉ノ歌ハ此日本紀ノ履中天皇ノ御詞ヨリヨミタルニヨリ、天下ニ盜人ノ事ト存ゼ

シヲ、世ヘダ、リ與風靡昭ノ万葉ヨリミ出シテ、此註ヲカ、レシヲ、定家モ初一念ニ尤珍ト思給ヘシトミエタリ、顯註密勘ニアリトモ混本ヲケガサバ、有常ノ娘ノ本意ヲ失ナレハ、今爰ニ書付侍ル、万葉ノ水底ノ沖ツ白浪モ、伊勢物語ノ風吹バノ歌モ、皆山賊ニヨセタル白浪ト心得タルガヨキ也、先哲ヲモドクニアラズ、タマ其哥々ノ正義ヲ糺バカリ也、先哲靈魂アリトモ、丸ヲバニクミ給ベカラズ、誤ヲタマスハ先哲ノ本意ナレバ、カヘリテホメ給ベキカトコソ

歌林樸楸 第十

【タ】

一 淡海公

一 達智門

一 タナハタヲ人トヨミタル 赤人

ヒト、セニナヌカノ夜ノミアフ人ノコヨヒモアハネバヨフケ行カモ

一 鷹馬 ソレタルタカニ付タルカラス也

一 タハヤスキ タヤスキナリ

一 タクサ 多種ト書、多手向シタルナリ

神葉ニユフシデダグサトリソヘテサユフサマデヤフシヲガムラン

一 玉ユラ 日本紀ニ玲瓏ト書、一ハシバシ、一ハ命、又玉モユラハ目出心也、宗祇説ニ〔〇ニカ〕

丸案ニ、命ヲ云トアルハ魂ノユラグ事歟、ユラグトハ延心ヲモテバ云ニヤ、命ヲ云トハミエズ、玉モユラクト云モ、別ニ心ハカハラズ、「モ」ハ休字ニテ只玉ユラナリ、玉ユラノ露モ命トヨメルモ露ニ付タル詞也、タヤ玉ノユラメク也、玲瓏ノ心バカリナリ、ソレヲシバシノコトニモ又少久心ニ用也、ユラグ玉緒ナドハ久コ、ロ

也、命ノ延義ナリ

一 タルヒハ 垂水也。タルミハ水ノヨドミニテアル所ヲ云。岩ソ、グタルミノ上ハ、水ノ音タルミテ深クアルヨト也。又此歌ハ播磨ノタルミ野也、ムサシノ明神ヨリタルミノ明神へ進ラレタル水ナリ、其水ノ上ニ野ノ炭也

立ヌル、ヤマノシツクノ音タヘテ槓ノ下葉モ垂氷シテケリ

一 タナ、シ小舟 小舟ノ棚トハ、ソバニ板ヲウチ、中ニスカキヲカク也

一 玉柏 青石ヲホメテ云、又文アル蛤ヲモ云、又眞ノ柏樹ヲ云

玉柏シゲリニケリナサミダレニハモリノ神ノ住ワブルマデ

一 玉クシケ 曉ノ異名ナリ、非箱

丸案ニ、曉ハアクルモノナレバ、玉クシゲトタトヘタルゾ、後人ヲシテ異名トスルナルベシ、曉ヲ匣ト云ベキ道理無之

一 タラチオハ父、タラチネモ同、タラチメハ母、又タラチネノオヤトツマケテハ父母トモニ無ニ差別ニオヤノ枕詞也

タラチネノオヤノイサメシウタ、ネハ物思フトキノワザニゾアリケル

ト云古哥ニ秘説ヲ明匠ヨリ傳タリトテ、世上ニシル人アルベカラズト深ク信ズル人アリシヲ、サマノ執心シ

テ、或人相傳セシヲ聞シニ、人ノ子ノナクヲネイラセント、イタハリイサメテモネイラヌモノ也、轡ニモノ思フトキハネラレヌ事、其コノ如也云々

丸是ヲ聞テ、人シレヌ泪ヲ催シ侍ル、上古ノ人ノ説ニモアヤマリハアレド、カヤウニゲニモラシクシテ、事外邪ナル説ヲ求出ス師ノ世ニ出デ、愚ナル弟子ヲマドハスコト、末ノ代ノアサマシキ義ナリ、今ヨリ後ニモカヤウノヒガミタル悪知者、名ヲ取テ正理乱ベキ事アルベシ、右ノ説天下ニ人ノ用タル連歌ノ宗匠タリシ人ノ説ナレバ、聞人無明ニ信ヲ、コシテ一生秘藏セラレシ也、コレハ寧予畫イネタリノ本文ヲ以テ、ウタ、ネヲ戒シ哥ナレバ何ノ秘事カ侍ベキ

一タチツクリ江 名所ニモアレドモ

万代ヲ君ガ守トイノリツ、太刀ツクリエノシルシト思ハン

太刀作得タルナリ、早苗ヲ 俊頼

ハツ苗ニウズノタマエヲトリソヘテイグシマツラントシツクリエニ

コレモ年作法得ン也、以上顯昭説

丸案ニ、九州ノ太刀ツクリ江ト云名所ヲ立入テ、江ヲ得ニ用タル歌ドモトキコエタリ、非ニ名所トバカリハ如何

一タルミノ上ノサワラヒ

播州播磨ノ境ノ垂水ト云名所也、明神アリ、エモイハヌ清水ノ岩ニカ、ル故

ニ、タルミト云ナリ、コレヲタルヒトアヤマリテ邪説出來也、其タルミノ上ヲバ、タルミ野ト云ナリ、ソレニ巖ハ生也、岩ソ、グノ哥ハ、天智第三皇子、志貴王久身ノシヅミ給テ後、ヨロコビノアリシトキノ御作也、追号田原天皇

一玉ノムラ菊 義忠

ウツロヒテ庭面白キ初霜ニ同ジイロナル玉ノ村菊

顯昭云、大嘗會主基方、玉村ト云所ヲヨメルヲ、玉ハホメタル詞、ムラハ村薄ノ類ニシテ、小松重盛家ノ歌合ニモ百數ノ庭ニヨセテヨマレタル人アリ、公景ガ北野會ニ殘菊題ニモ或人詠無_レ謂事也

丸案ニ、顯昭説モ一理ハアレドモ、當時ハヨミテモ不可苦、其イハレハ、此義忠ノ玉村ノ菊トハ聞ヨカラヌニヨリ「ノ」ノ字ヲ上ヘナシテ、面ハ非ニ名所ニヤウニ始テ玉ノ村菊ニ詞ヲコシラヘ給トミヘタリ、其故ニ常ニ咲タルヤウニ庭面白トハヨメリ、此詞ヲ賞メ世繼第十二卷ノ名トセル上ハ、名所ニナラズシテ菊ノ名ト成ト思フベキ歟

一タツカ弓

手_{ツカ}東弓手ニトリモチテアサ狩ニキマスタチイヌ多奈久良ノ野ニ

紀州雄山ノ關守ガ持弓也、弓ノトツカヲ大ニスル也、トツカ弓ナリ、「タ」ト同音也。万ニハ手東ト書、十束弓ト云心歟

キノ國ノ昔弓雄ノナルヤモテシカトリナビクサカノ上ニゾアル
ナル矢ハ、カブラヲ云。又万ニ

南淵ノ細川山ニ立櫃弓東マクマデ人ニシラスナ

ユヅカハ、トヅカ也

一タマチハフ

玉チバフ神ヲバ我ハウチステ、シエヤ命ノオシケクモナシ

顯昭云、タマハ靈也、チハフハ、給ナリ。タマシキヲ給フ神也、「チ」ト「タ」ト五音也、又長哥ニ

オトコ神モ、ユルシタマヘバ、ランナ神モ、千羽日タマヒテ、時トナク、雲井雨フリ云々

チハヒハ、チカフル歟、又神ニハ「チハヤ」ト云コトアレバ、神ノメグミヲ云歟

丸案ニ、右ノ推量モ未決、一ニハタマフ、一ニハチカフ、一ニハメグミ也、コレハ祝フ心歟、イキシチニノ五

音ナリ、天ヨリウケタル玉シキヲ、ヒサシカレト守リ祝給神ナルベシ、長歌ノチハヒ給フモ祝ニテ可レ然

一タノムノカリ

鴈ト狩ト二説ナリ、基俊ハタノモシノカリトテ互ニヨリアヒ、狩ヲシテ、其日トリタル
鹿ヲ、ムネトヲコナヒタル人ニトラスルナリ、顯輔・顯昭ハ此義ニツク、鳴ト云詞ハ狩ヲ鴈ト取ナス也云々、

俊頼ハ万葉ニ

サカコエテアベノタノムニキルタヅノトモシキ君ハアスサヘモガモ

万ノ田面ヲタノムト書テ此類也ト云リ

丸案ニ、根本タノモシ狩ト云コトアルヲ以テ、又田面ノ鴈ハウヘヲバヨミナシタルモノ也、サヤウニ厚キ作ア
ル物也、二義アル哥ト心得レバ論ハナキ也、委伊勢物語講尺ノ時スマス事也

一タカセフネ

和名ニ艇トカケリ、川舟也、河瀬ヲワタリコス舟ナリ、日本紀(〇三代實錄ナリ)光孝元年

一タノシキヲツメ

新シキ年ノ始ニカクシコソツカヘマツラメヨロツ代マデニ

日本紀ニハ、下句カハレリ。顯昭云、古今オホナホ日ノ歌トテアリ、日本紀(〇續日本紀ナリ)天平十四年正月
十六日天皇御ニ大安殿ニ宴ニ群臣ヲ酒酣奏ニ五節田舞ヒ、畢更令ニ小(〇年アリ)童女踏哥又賜ニ宴ヲ天下有位人并諸
司史生ニ於是六位以下人等鼓ヲ琴云々

新シキ年ノ始ニカクシコソツカヘマツラメヨロツ代マデニ

シカレバ踏哥ノ心也。教長卿云、神今食・新嘗會ナドモ、又諸社ノ祭ニモ庭火トテ左右衛門衛士新ヲモテマイ
リテツム、コレヲ祝ニヨセテタノシ木ヲツメトハヨム也云々。私云、公事次第ハ難レ知、但新ニヨセテ樂ヲツ
メトイハン事如何、隨而續日本紀ニハツカマヘツラメ万代マデニトコソ侍レ

丸案ニ、教長卿説可レ然、日本紀ノ哥ヲ下句ヲ改テ、新ヲツメバタノシキヲツメト、後ニハウタフニヨリテ、

古今ニ入タルベシ、ツムト云詞、木ニコトヨラズハ何ユヘラクベキゾ

一タマモカリシク

ウメルヲ、ヲミノ大君アマナレヤイラゴノシマノ玉藻刈食ウリシク

顯昭云、タマモカリシ也、數ニアラズ、食ニアラズ、タマクモジヲソヘタリ

住ヨシノナゴノ濱ベニ馬タテ、玉ヒロヒシクツネニワスラレズ

ハルヤマノサキノヲスグロニワカナツムイモガシラヒモシクトモシモ

皆「ク」モジヲソヘタルバカリナリ

一タマクシ 付ミカクル

トヘカシナ玉クシノハニミガクテモズノクサグキ眼路ナラズトモ

日本紀公望註云、眞坂樹八十玉鏡、問云、玉鏡者は何物乎、答是坂樹也。俊賴齊宮内侍ニ相具シテイセニ侍ケル時、六條修理太夫ノ許ヘ送哥也、ミカクルハ、身隠也。堀河百首ニ、顯仲哥ニ、水ナクテヨメルコトアレドモソレヲバ不可用。良道歌ニ

水隠テスダク蛙ノモロ聲ニサハギゾワタル池○井手（給）ノ藻

又太神宮ニ神串ニサス事アレバ「玉グシ」ト云ニテコソアレ、ヲシナベテ神ヲ「玉グシ」トイハンハ如何

丸案ニ、公望、是坂樹也ト書タレバ、神ヲ「玉グシ」トイハンモ難ナカルベシ、又身ガクレトモ俊頼ノ哥ヲ讀歌

トシテ今ヨマンニ難ナカルベシ

一タラシヒメ

タラシヒメミフネハテケン松浦ノ海イモガ待ベキ月ハヘニトモ

万葉、新羅使肥前ニテ作也、息長足姫ハ神功皇后也、舟ハテケンハ、出ケント云詞也、イツルヲ「ハツル」トヨメリ、但皆ノ哥ノ詞舟ヲヨスルトミエタリ

丸案ニ、舟ハツルハ出ルノ義、心エラレズ、ヨスル心ナルベシ、カヤウノ詞古哥ニアリトテモ、歌學ナキ大名ナドノ出船ニ「ハテ、」トハヨムベカラズ、當世ハカリソメニモイマハシキ詞ハ人ノ嫌ト知ベシ、俊頼

偽ノチカヒナラネバ君ガ代ヲ大タラシヒメニ任テゾミル

一タフセ

カナハスハ田廬ノモトニ我セコハニフマニエミテタチマセルミエ

タマナラスイホシロヲ田ヲカリミダリ田廬ヲミレバ都コヒラル

タフセトヨムベシ、ニフ、ハ、ニコラニエム也、曠然又堯字トモ書リ。顯昭云、フセヤト云ハ此義歟

一タマキヌノサイクシツム

玉ギヌノサイクシツムイヘノイモニモノイハズキテ思カネツモ

玉ハホムル詞「サイク」ハ「サヤク」ト新編ノナル音ナリ、「シツム」ハ閑ニ居タリシ妹也

アリギヌノサヘシヅミヤドノイモニモノイハズキテオモニクルシモ
アリギヌハヨリ衣也、「ア」ト「ヲ」ト同音也、サヘシヅミヤドノイモニモノイハズキテオモニクルシモ

命ヲモマタクシアラバアリギヌノアリテ後ニモアハザラメカニ

或説ニ、珠衿ハ棺ノ名ナリ、珠衣ト同、ホメタル詞ニアラズ、禁忌スベシ。顯昭云、アマリノコト也、万葉ノ
哥ニ其心ミエズ

一タケクマ松

ウヘシトキチキリヤシケン武隈ノ松ヲ二度アヒミツルカナ

顯昭云、陸奥武隈ト云所ニ二木アル松也、此哥ハ宮内卿藤原元良ガ陸奥ノ初位ニウヘテ、後任ニヨムナリ、其
松野火ニ燦ケリ、其後浦正ガ任ニウユ、其後孝義ガ切テ橋ニ作ル、其後失終云ミ。能因ミチノクヘ二度ワタレ
リケルニ、後ノ度ハタケクマノ松モナカリケレバヨミケル

タケクマノ松ハ此度跡モナシトセヲヘテヤワレハキツラン

橘季通朝臣ミチノクヨリ上リテヨメル

武隈ノ松ハ二木ヲ都人イカニト、ハマミキトコタヘン

藤原元良館ノ前ニ始テウヘシ松也、ミチノクノ館ハ武隈ト云所ニアリ、タケクマノハナハノ松トヨメリ。重之
タケクマノハナハニタテル松ダニモワガゴトヒトリアリトヤハキク

武隈ノハナハトテ山ノサシ出タル所ノアル也、宮城野ニタケクマノ松モ侍ケレド今ハミエス、宮城野・武隈ノ
ハナハ、館ハ一所ナリ、元良ヨリ先ニハナカリシ松ナリ

丸案ニ、伊勢物語ニ宮内卿モチヨシトアル、モシ此人ニヤ、「ト」ト「チ」ト同音ナレバ、モチヨシト元ノ字ヲ云
ケルニヤ、時代可勘

一玉カツマ

玉勝間アハントイフハタレナルカアヘルトキサヘオモカクレスル

顯昭云、ツマヲホメテ玉勝間ト云リ、玉之妻ト書ベケレド、譬ノ根ヲモ石金トカクナラヒニテ、万葉ノナラハ
シナルベシ

玉勝間安倍崋山ノ夕露ニタビネシカネツナガキノヨヲ

玉勝間嶋能山ノ夕暮ニヒトリカ君ガヤマヂコユラン

此兩首トモニ崋ニカケタリ、イカマツイケタルニカ、又「ユフベ」ニカケタリ、下句ニタビネシカネツトモ云、
又ヒトリカ君ガヤマヂコユラントイヘル、是ハ妻ノ事トモキコエズ、縦妻ノコトナルニテモ、初ノ句トコトハ
ナレタリ、花カツミナドヨミヲクヤウニ、花カツマト云モノ、名號、清輔モ妻ヲホメテ玉之妻ト云ニヤトバカ
リハ申テ、此哥トモノ叶ハヌ由ヲ不ニ沙汰ニ侍リ

丸案ニ、玉ハホメタル詞尤也、髮ヲホメテ玉カツラト云リ、サレバ玉鬘ハ、頭ノ髮ノコトナレドモ、女ノ異名

ニモナリテ「玉カヅラ」トイヘバ女ノコト、ナルガ如ク、玉勝間モ玉之妻ト云説ニアラズシテ、タマ女ノ異名ニナルベシ、其故ハ、カツマタノ池ト云ハ、昔女ノカウガイヲ落セシ池ナレバ「カツマタ」ト名ヅクト云リ、カウガイヲ「カツマ」ト申ト侍ル、シカラバカツマダノ「タ」ノ字ハ、隨ノ字「オツル」ト云コト歟、女ハ頭ノカザリヲ第一トスレバ、カツマトイヘバ女ノコトニナル也、又寫ト云枕詞ニシタルハ、海上ノ嶋ヲ女ノヒヅラユヒタルニタトヘテ、ワタツミノカザシニサセル白妙ノナミモテユヘル淡路嶋山トヨメル哥ニテ思合ベシ、カラノ西湖ノ中ニ、鷹山ト云ヤマノミコトナルヲバ、西施ガ破瓜ノ年同ジト詩ニツクレリ、破瓜トハ瓜ノ字ヲ二ツニワレバ十八ニ成ル也、サレバ西施ガ十八ノ時ノカホニ似タリト云事ナリ、貴妃ノ方士ニアタヘラレシモカンザシ也、其トキ一ツニサキ分ツトアレバ、カシラツノ、ヤウニアルモノカ、シカレバカツマダト云モ隨ノ字ニ不_レ及、カウガイノ名歟、「カツマ」ハ「カツマダ」ノ下略ナルベシ、顯昭ノ嶋ノ字タノ字ニ心ヲ付ラレシモ面白シ、自然ニ辨ノ義ニ相叶歟、カンザシトハ髪ニサスモノナレバ「カミサシ」ト云コトナリ、サニテハアルマシケレド、万葉ノ哥二首嶋ト云字タノ字イヅレニテモアレハモシ髪ノウハサニ結ト云縁ニヲテタルニヤ

一玉カツラ

チハヤブルカモノ祭ノタマカヅラタエズ思ヘハア^ヒフヒナリケリ

顯昭云、玉カツラハ玉楓也、玉葛・玉露ニマギレヌベケレバ、メヅラシサニ註シ侍ル

丸案ニ、此楓ノ字ハ如何、桂ナルベシ、四月申日山王祭アリテ、翌日西日賀茂ノ祭アリ、山王祭ノ桂ト、カモ

ノ祭ノ葵ノ二種ヲ内裏ヘ奉ルト云ヘリ、山王祭ノナキ年、カモノ祭バカリアルヲバ片祭ト云ト云ミ。シカレバ桂ナルベシ、但此哥ノ玉カツラハ葵蕪ナリ、又女ノコト也、其子細ハタヘズト云詞、蕪ニカ、リタル詞也、又逢日ナリケリトアルニテ戀ノ哥也、サレバ上ノ玉カツラハ女ヲ云ナリ、惣別女ヲ玉カツラト云也、女ハ髪ヲ本トシテ長カモヅヲ入ル故ナリ、又葵ノ字ヲアフヒト名付事、カラノ古事ヨリヲコルナリ、葵ハ日ノ影ニツレテ廻ルモノ也、サルニヨリ合日ト云ナリ、ソレヲアヲイト云ツケタリ、合日ト云ガ本也、葵ニハ衆類多シ、此祭ノ葵ハ蕪葛也、日蔭草也、モロカヅラトモ云、又蜀葵・冬葵ナド云テ花ノサク葵アリ、ソレモ歌ニヨメリト承ル

一玉ハ、キ

初春ノハツネノケフノ玉ハ、キ手ニトルカラニユラグ玉ノ緒

顯昭云、万葉第廿卷云、正月三日召侍從堅子王臣等令侍於内裏之東屋垣而即賜玉帶肆宴、于時内相藤原朝臣奉勅宣、諸王卿等、隨堪任意作哥并賦詩、仍應詔旨各陳心緒諸人哥未得。私云、此歌ハ家持也、玉帶給テ詩哥ヲ作トハアレド、何物ヲ玉帶ト云トハミエズ、シカレドモ哥ノ趣ハ著歟、又万葉群物哥中ニ、詠ニ玉掃・鎌丸・天木香鬘哥

玉ハ、キカリコカマ、ロムロノ木トナツメガモト、カキハカンタメ

常ノズイナウ「○鬘」ニハ玉ハ、キトハ著也、井中ニハケフ草「○底本」メド歟の傍書ありヲ小松ニトリ加テ、正月初子ノ日、コガヒスルヤヲハケバ、ホメテ玉帶トハ云、此万葉ノ哥モ其心カナヘリ、禁中マデモ賞タ

マヘルニコソ、正月三日ノ宴トアレバ、初子ノ日ニテ在モヤシケン、才ノ哥ハ、カリコカマ、ロナドヲヨミダレバ、正月初子ノ日トハキコエズ、玉バ、キカリコカママロトイヘバ、著ト云草ト覺エタリ、イツニテモ人ノモトニ此物ドモノアルヲ詠イルベン

丸云、此顯昭ノ注、更ニキコエズ、カリコハ物ヲニナフカルコト云物也、非草、カマ、ルモ草ヲ薙鎌也、非草、サレバ玉帯ハ只ツネノハ、木也、草ノ類ニテアラザルベシ、無名抄云、玉帯トハ著ト申草ニ、子日ノ松ヲ引具シテ帯ニ作テ、正月ノ初子ノ日、コカフヤヲコヤトゾ申ナル、其屋ヲ子午ノ年生レタル女ノ、コガヒスルモノヨキヲ、カヒメト付テ、ソレシテハキノメサセテ、祝詞ニ云哥ナリトゾ云傳タル、又昔京極御息所ト申ハ、時平大臣ノ御娘ナリ、志賀寺トテ禱者シタマヒケル所ヘ來リ給ケル道ニ、老法師御車ノモノミヲアゲテ、湖ナドヲ見タマヒケルニ、目ヲミアハセ奉リケリ、次ノ日杖ニスガリテ參、此由ヲ申上ケレバ、サル事アルラシトテ、南面ノ日カクシノ前ヘメサレケリ、御簾ヲ少アゲテミエ給ケレバ、一時バカリ守テ、後ニ御手給ラントテニギリテ後、スデニ本意トゲ侍リヌ、淨土ヘマイラバ必迎奉ラン、我年九十二及侍ナンズルニ、七十年ハヒトヘニ後世菩提ノ營ナリ、皆君ニ廻向シ奉ベシト云テ、ヨメル哥ナリ、御返事

ヨシサラバマコトノ道ノシルベシテワレヲイザナヘユラグ玉ノ緒

トゾ被仰ケル、コレヲ聞テ悦ナガラ泣々飯ニケリ、能因故師大納言ニ語申ケル、此哥ハ万葉二十卷ニアレバ事外ノソラゴトニテゾ、ヒトヘニ物語ノヒガ事ト思ベキ(○ニ辨アリ)、此哥アル万葉集モアリ、無本モアリ、此歌

ノミナラズ、今五十余首ナ(○ケ辨アリ)レバオボツカナシ、ユラグ玉ノ緒トハ命ト云事ナリ、サレバコノ御手ヲトリタルニヨリテ、シバシノイノチノビヌルニトヨメルナリ。顯昭云、是ハ家持哥也、上人詠ニ古歌ニ賦、但万葉ニ此哥ナキ本アルニヨリテ、ウタガハシキヨシ了簡由緒甚深也。童蒙抄云、田舎ノコガヒスル所ニ、玉ノヤウニ丸ナル實ナリタル松ヲ、帯ニツクリテ、正月初子ニハク也。奥義抄云、玉帯ヲバ祝ノモノニシテ、年初ニハ人モ先トルモノナレバ、命ノブルトヨメリ。綺語抄云、玉バ、キトハ、初子ノ日ノ松ヲ云ト云。今案ニ、サスガニ松トハ不覺、著ヲ松ニ取加ナレバ共ニ云ベキ歟、就中童蒙ノ丸ナル實ナル松ナレバ、玉バ、キトイヘル、如何トキコユ

丸案ニ、万葉ニナキ本アリトモ家持哥ナルベシ、スデニ此歌アル本ニ、委序書アル上ハ疑ナシ、其万葉ノ序ニ、天子ヨリ臣ニ下サル、玉帯ヲ、著ト云説アシカルベシ、或ハ年輪ヲヘキトイハヒテ卯杖ヲ給、卯月ノ旬ニハ扇ヲ給ヤウニ、年災ヲハラヘト云心ニテ、ウツクシキ帯ヲ背信タリシ事アリトミエタリ、其哥ヲ又童蒙ノ著、コガヒノコヤヲハキノムル唱ツケタルベシ、志賀寺ノ上人ノ事モ、能因ガ經信卿ニカタレル事ニヒガ事ハアラジ、殊ニミヤス所ノ返歌モアル上ハ不疑、シカリトテ上人ノ詠トミルハ誤ナリ、万葉ノ古哥ヲヨミカケシナルベシ、此外玉帯ト松ヲ云ナド、云説、連歌書ナドニ多カキタレドモ、何ノ無證事也。丸ガ爰ニ云如ク、ラチヲアケ可給

歌林樸椹第十畢

歌林樸楸 第十一

【ソ】

一ツ、ノカシ

一ツカ菊 生スガヒニアルヲ云、又承和ノ帝黃ヲコノマセ給故、黃菊ヲ云、又十日菊也、用ニ此說ハ、シガミサエダハ、汝ガ下枝也

一ツロキ 不調不揃也

丸案ニ、キハ同ジヤウニ生イヅルモノナレバ、ソロフト云事ヨリ名付タルベシ、古説難用

道ノヘニソロキカリホス筈ウチヲノレカツ、シタカトゾミル

一ツマロ 不意也、スマロ同詞也、辛ノ字ヲモ云、俊成ノ哥ニ

ナニハ人アシ火タクヤニ宿カリテスマロニソデノシホタル、哉

コレハ、スマト云草、芦ニタヨリアレバカクヨメリ、ツネニソマロトヨムベシ、スマロトハ無用ト定家ノ説在之

一ツマロク コレモ「ソマロ」ト同ケレドモ、少カハル也、ウゴク意也

三日月ノホノメク空ニ秋ヲミセテソマロギワタル山ノ端ノ月

一ソヨヤハ サレバコソ 「ソ、ヤ」ハ「スハヤ」ノ心アル也

一ソマ 万葉ニ、追馬・吠犬ト云、又馬犬トバカリモ云

一ツカ菊 顯昭云、黃菊也、ソガトハ承和ヲ云ナスナリ、此帝黃色ヲコノミタマヒケレバ、黃色ハ承和色ト云、サレバ黃菊ヲ「ソハキク」ト云ル本モアリ、深草帝黃菊ヲ賞甄シ給フニテモ、又惣ジテ黃色ヲ好給ニテモ、承和色ハ無疑候、季經(○綱)往來ニ非_レ辨非_二歎冬_一可_レ云ニ承和色ニ云ミ。俊頼云、承和帝一本菊ヲ好給、高ク大ニヒロコリタル菊ヲマイラセン人ヲ賞セン、ト宣旨アリケレバ、世ノ人イドミテ家毎ニ一本菊ヲウヘテ、名ヲ承和菊ト云ナリ、シガミサエダハ下枝也、コレハ美作(○邊)國ノ詞トゾウケタマハル、ソガ菊ハ黃菊ト云人アレド、サテハ「ミサエ」トイハン何如トキコユ、一本菊ハ木ノヤウニ高ケレバ、シカミサエダナドカナカラン、村菊ノシカミサ枝ハ心エズ、ソレモ下枝ハアレド、上ノ枝ハ埋テミエジ、又土ニ付テ上ニアラン枝ニハヲトリナンモノヲ、猶黃菊トイハハ黃ナル一モト菊トゾ云ベキヲ、サハエイハザンメリ、奥義抄ニミサエノ詞ニ付テ、一本菊ト云ベキニ非ズ、色ノテコラサハ照コキサマ也、シカミサエダハシヤガ下枝ト云ナリ。私云、黃菊・一本菊ハモトヨリ兩義也、サレド承和色ト云コトアレバ、黃菊ヲスグレタリトス

丸案ニ、俊成定家等モ承和色ノ黃菊トノミ心得給タリ、トミユレバ、今更義理ヲツクベキニアラズ、サレドモセウワヲ「ソガ」ト云ベキ五音ニモ不_レ叶、イブカシキ處ニ、近代ノ書ニ、十日菊ト註タルヲミ侍、詩ニモ十日菊ト云題アレバコレ正説カト思侍ル、カラノ文ニモ古註ヲ新註ニテスツル例アリ、必古ヲ貴ビ今ノイヤシムベ

キニアラズ、古註ト云モ皆作者以後ノ推量ナレバ、其哥ノ義ニ不叶ヲバ不可用、マレニカヤウノヨキ新註アリトテ、後人古人ノ智恵ニマサルニハアラズ、古人ノ先一義付タルヲミテ、其ニテ工夫シ出ルコトナレバ、新註ノヨキモ、只古人ノ力トオモフベシ、自慢ヲシテ古賢ヲ愚ニミオトスコトナカレ、十日菊ナレバ「カ」文字清テヨムベシ、十日ノ菊ノ詩ニ風光ハ必一夜ニヲトロフベシトアルニテ、此哥ノ下句ノコ、ロモヨクキコエタリ、シカモサエダノイロノテリコキトヨミタルモ、彼詩ノ折殘枝ヲメグルトアル詞ニカナヘリ、不可疑

一ツハカ

感アリテ人ノマウヅルクラマ山オコナフ障ハソハカナリケリ

ソバカハ眞言ノ詞也、婆娑詞是成就云々。孫姬式云、致感三昧左供結之區可知發願四月北方恭之切爰勅 如本

一ツトモ

ワガヤドノ外面ニタテルナラノ葉ノシゲミニスマム夏ハキニケリ

顯昭云、ソトモトハウシロト云事也、考日本紀公理註「陽、南、影面、陰、北(○背アリ)面、案之南ハ日ノ影ノ面、北ハソムケル面ト云歟。又日本紀ニ山陰道ヲバ、ソトモノ道トヨメリ、シリヘヲ云、綺語抄ニハ、ホカト云コトナリ。古物云、下スノ家ニハ、シリヘノ門ヲバ「セド」ト云「ソ」ト「セ」ト同音也、又只「ソト」、モ云、四條大納言哥枕ニハ兩義アリ、一ニハ我家ノ門ヨリ外ヲ云、一ニハ我家ノセトナドヲ云、能因歌枕、家ノウシロ

ノ庭ヲ云、或物ニハ、山里ノ門ヲ云。古哥云

山カツノソトモガクレニコリツメル冬モミエズ雪フリニケリ

古物云、是ハ門ガクレニ切タタルトキコエタリ、又ナラノハノ哥ハ、門モシハセドナドキコエタリ。本院侍從哥

ワガヤドノソトモニ何カ思フベキイハデコソミメタヅネケリヤト

追注、此哥アラズ、ソトモノ證歌ニ、「○上のアラズはこゝにうつすべきか」書アヤマルノ本歟

吾宿ノソコトモナニカヲシフベキ 下句同

贈答露摩哥也、以書失辭事由見也

丸案ニ、顯昭ハ日本紀等ヲ引出テ、北ウシロヲ云ト思定給ヘリ、山陰道ヲソトモノ道ト云ニ付テ、尤ナガラ、ソレハ偏ニナレリ、先山陽道ヲ面ニスレバ、ソレニ對シテ山陰道ヲソトモトハ云ヘリ、公任卿ノ兩説、能因ガウシロノ一説モ皆ヲシコメテ相タガハヌ心得ヤウ侍、イツクニテモアレ、東西南北ニカ、ハラズ、我居タル所ノ外ヲ云ト思ヘバ何ノ疑ナキ也

一ツツヒコマユミ 田上ニテ、サラノダケニ上リテ遊ケルニ、マユミノ紅葉ヲミテヨメル 俊頼

モ、ッテノイソシノサ、フ時雨シテソツヒコマユミモミヂシニケリ

万葉云、百傳ノヤソノシマリ、モ、ツテノイハレノ池、又山ノヘノイソシノミ井、此等ヲトリアツメテ、百傳

ノ五十ツノササフト讀

葛木ノ其津彦眞弓荒木ニモタノメヤ君ガワガナツゲ、ン

トヨメリ。顯昭云、ソツヒコマユミハ、若所名歟、「コツヒコ」トモヨメリ、タトヒ眞弓ノ名ニテモ、葛木ニヨメリ、田上ニテ五十ツノササフトヨミ、ソツヒコマ弓ト詠。頗以任意歟、可思之

丸云、俊頼ノ歌ヲ心ニマカセテヨマレタリトソシリタル文歟也、而ニ「ソツヒコ」ハ「サツヒコ」ト云コトナルベシ、所スルヤウナル男ヲ、薩勇ト云類ナリ、「サ」ト「ソ」ト五音ナリ、ソノサツオノ持タル眞弓ナルベシ、又「コツヒコ」トモ云ト侍リ、ソレハ其津彦ト万葉ニ書タルヲ「其」字ヲ「コ」ト變ニカンナヲ付アマリタルヲ、後人糺明スルホドノ者ナク。古人トナレバイヅレモ物ヲシリタル人トヲヂヲソレテ云ツゲタルナルベシ、ソツヒコ名所ニテアルベカラズ、又葛木ニ限ルベカラズ、只薩彦トテサツオノ類ト心エテヲクベシ、然ハソツヒコト「ヒ」ノ字ヲ濁ト顯昭シルサレタレドモ、「ソツヒコ」ノ正説未決人ノ清濁ナレハ難ク用、惣別シラヌ事ヲモ清テヨムハアヤマリニアラズ、シラヌコトヲ濁ハアヤマリナレバ、コレモ儘ナル證説未出之間ハ、ソツヒコノ「ヒ」ノ字スミテヨムベシ、カヤウニ書内ニ猶一義ヲ分別スルニ、ソツヒコトハ昔アリシ人ノ名歟、但「ヒコ」ハ引歟、モノヲヒキシロフト云トキハ、ヒコシロフト云也、「キ」ト「コ」ト同音ナリ、然ハサツオノ引眞弓ナルベシ、コレデ哥ノ心ヨクキコユルカト存候

【ツ】

一ツ、トマリハ 在口傳。大方「ツ」ノ詞ハ万葉ニ「乍」ト云字ヲ書テ程ヲフル心アリ、其心ナキハアキ筒トテ連歌師モキラフ也

思ツ、アケ行ヨハノ多ノ月ヤドルヤセバキ袖ノ氷ニ

此思ツ、・歎ツ、ノ類ハイヅレモ宵ヨリ鶯マデ也、一年ヲクラス如クホドフル心アルナリ

一ツノサフル

角障經名村山ニ白妙ノカ、レル雲ハ星(○晴)ニケル

顯昭云、角ノ字ニ付テ、スミサフルトヨメルハ僻事ニヤ、石見國ニ「ツ」ト云所アリトミエタリ、サレバツノト云所ヲタチサヘテミセヌ石トヨメルナリ

石見ノ海角ノ浦廻ヲウラナシト人コソミラメ、ツノ、里ミムナビケコノ山云々

石見ノヤ高角山ノ木ノ間ヨリワガフル袖ヲイモミツランカ

角障經石村モ過ズ泊瀬山イツカモコエン夜ハフケニツ、

丸案ニ、右ノ説ゲニモナガラ、日本紀ヲミレバ。仁德天皇ノ御哥ニツノサハフ イハノヒメカ オホロケニ

私記曰、師説昔孝靈天皇御代有連牛、欲以角破堤、ヤノ中忽有磐石、觸角相防、仍遂不能破、故言三殿石ヲ、先引此語乎。ツノサハフハ角障也、万葉ノ人丸ノ歌モ、皆仁德ノ御哥ヨリヨミ出給トミエタリ、顯昭モ日本紀ヲバ委未江見トミエタリ、ミ給タラバ此御哥ヲモ袖中抄ニ出サルベキニ、曾以無其沙汰、但コノ尺日本紀モ丸イマダ作者ヲシラズ、ソレニ引タル私記ト云書ヲモ未レ知、孝靈ノ御代ノ説ノ出書シレヌ事也、孝靈ハ神武ヨリ七代目ノ天皇ナリ、日本紀ニハ連牛ノ事無レ之、サレドモ角サハフノ詞ノ意ニハサモアリツベシ、角ノ里ニサハルト云義、石見國ニカギルコトノヤウナリ、仁德ノ御哥ニ、石見ノ國ノ心ハナシ、山城ノ筒城ニテヨミタマヒシ御哥也、ソレヲ本哥ニシテ、人丸ノ時代ニ石村山等ニヨミタルトミエタルヲ、顯昭彼國ノ角ト云所ニ思ヨリテ了簡セラレシナリ、其内ニ角ノ浦ハ無ニ子細、タテツノ山ハ高津ノ山ト書タルガ正字ナルベシ、高角ト云ハイカマオモハレ侍、船風土記ヲ尋ベシ

一ツラ／＼ツバキ

河上ノツラ／＼ツバキツラ／＼ニミレドモアカヌコセノ春野ハ

顯昭云、列々椿ト云、ツラナル義歟、又本草ニ女貞ト云テ「タヅノキ」トヨミ、又「ツラツバキ」トヨメリ、コレヲ、シカヘシテ、ツラ／＼ツバキトヨム歟

コセヤマニ「〇ノ椿」ツラ／＼椿ツラ／＼ニ思フナワガセコ、セノ春野ヲ

丸案ニ、女貞ハヤブ椿ト云物也、椿ニ似タリ、但椿ト同木歟、順ガ和名ニ龍眼木ヲサカキトヨム、賢樹ノ實ホ

ツ長クテ、蛇ノ目ニ似タル故歟、近年カラヨリマコトノ龍眼肉ノワタルヲミレバ、イカニモ圓テ龍ノ目ニ似タリ、昔ハ日本ヘワタラヌ故カト存ナリ、サテ女貞ヲ「タヅノキ」トヨムハ、龍眼ノミノナルユヘニヨマサル歟、コレヲ「ツラツバキ」ト云モ、椿ノ類ニツラナル義歟、葉ノ形小ケレドモ椿ニ似タリ、サレド此コセノ椿ハ、マコトノ椿ノ花ヲヨノリトキコユ、花カ木カノイクツモ見事ニツラナリタルヲ云ナルベシ

百年ニ一トセタラヌツクモガミワレヲコフラシ佛ニタツ「〇ミユ椿」

袖中抄云、江浦草ト書海藻也、古池ナドニ生テ蒲ニ似タルナリ、ソレヲモ「ツクモ」トイヘド、ソレハワルキタトヘナリ、奥義抄ニ、古物語ニウミカキノ「アリケルヲ、物ドモアラソヒテ、年タカ、ランモノクハント云ケルニ、九十九モト云テ蜘蛛ノクラヘル事アリ、ソレヲ思ヘバ、クモトイハントテ、百トセニ一トセタラヌトハイヘリ、クモト云ニ付テ、ツクモカミトヨセタリ、古哥ノナラヒナリ、又此ツクモガミハ、ツクマノ神ニ侍リ、或チクマトモ云、同物語ニ云

近江ナルチクマノ祭ハヤセナンツレナキ人ノナヘノ數ミン

其祭ニハ、神ノ誓トシテ、カノ國ノ女、男シタル數ニ、土鍋ヲ作奉也、今云、九十九モノ物語ニテ、此事ヲ纏センハ無下ノ事也、件事ハ、三十鷲・四十鳴・八十鳩・九十蜘蛛ト云ハ、始ノ文字ヲ取也、又髪ノワルキ佛ニ立ト云ナリ、ツクマノ神ニヨセタルトハミエズ

丸案ニ、海藻ニ「ツクモ」ト云アリテ、江浦草ト云、ソレニ似タルカミト云ル説、尤可レ然、猶了簡スルニ、海

ニシラ藻ナド云白髪ニ、タル藻アリ、其藻ヲツグネタルヤウノ髪ヲ昔ハ「ツクモガミ」ト世上ニ云シトコ、ロエテヲクベシ、九十九モノ目錄モ、百年ニハ少タヨリアル事ナガラ、此物語伊勢物語ヨリサキノモノトタシカニシレヌコトナレバ、業平ノコレヲトリテ、ヨマセ給タルト云難シ、モトノ註共モ皆其昔ヲシラネバ推量シテ尺シタルコトナレバ、タシカナラザル義ヲバ皆不可ニ信用也、千歳過テツクル義ナリトモ、其理ニ徹セバソレヲ取用テ、心ヲナグサムベキ道ナリ、古人ニモ思チガヘノアヤマリハアルコトナレバ、必名匠ノ尺トテヒラ信ジニ信ゼンコトハ、愚ナルコトナルベシ

一ツ、リサセテフ蓋

秋風ニホコロビヌラシ關ツマリサセテフキリムスナク

顯昭云、ツマリサセ、カ、ハヒロハン、ト鳴ト世俗ニ云ナリ、「カ、」トハ絹布ノヤレタル也

丸云、地ヨハクキレテ、モノニカ、ハラヌエハ賑

ソレヲ「○ラ糖」ハ鞋ニ作ヲ、カ、ハワラツト云、又足ナドフミ切タルニハ、其サイドノハシヲ纏ニナヒテ、火ヲ付、其旗ノクチヲアタ、ムルヲバ「カ、ハ火打」ト云也、古體纏ニ、葦ノ名ハサセト云、ソレニツマリサセソトソヘタル也、ツマリサセト鳴ニハアラズ、後拾遺ノ序ニ、秋ノ虫ノサセルフシナクカケリ、此兩義 イヅレニツクベシトモ定メガタシ。私案云、葦ヲ「サセ」ト云フモナシ、コノ古今ノ哥ニテ云ニモヤアラシ、只其故モナク、葦ヲサセト云ベキニアラズ、今ノ古今ノ哥ニツマリサセトヨメル兩義ナリ、前ノ義ニテハ

葦ノツマリサセト鳴ト云詞ヲヨメリ、次義ニテハ「サセ」ト名ヲ人ニイハル、葦ト云也、ソレヲツマリサセトハソヘタルナリ

丸案ニ、ツマリサセ、カ、ハヒロハン、トナクヤウナレバ「サセ」ト云ニテヨク叶ヘリ、家持集ニ

蚤ツマリサセトハナキヲレドムラギヌモタル我ハキ、イレズ

ムラギヌハ、一端ハ「ムラ」ニ端ハ「ニムラ」トキヌヲバ云ナリ、此哥モナク盛ナリ、何ノ不審アルベカラズ

一ツム／＼ト引

相坂ノ關路ニケフヤ秋ノ田ノホサカノ駒ヲツム／＼トヒク

顯昭云、「メ」ト「ム」ト同音也、ツメ／＼トハ、ノドカナル心也、是堀河院百首、公實駒駒迎哥也、或本ニ、ツメ／＼ト引トアリ、引ツレタルニヨセテ、ソレモノドカナル心ナリ

丸案ニ、ツメ／＼トハ長閑ナル心トアリ、更心エラレズ、今ツメ／＼トモノヲ云ナド云ハ、人ノ云詞ヲ理ヲタダシク云ヲ云ツムルヤウノコ、ロモチニテ云ナリ、ノドカナル心ト云コト如何、只是ハツブナルベシ、秋ノ田ノ穂ニモ米ノ一粒ニ粒ノ便アリ、必ツブラシキモノナラネド、アラリト一ツ／＼ミユルモノヲバ、粒々ト云説アリ、又ツメ／＼モノドカナル心トアリ、コレモ心ユカズ、サビシキコトヲツレ／＼ト云ヲ、モシ長閑トイヘルニヤ、引ツレタルニヨセテ、ノドカナル心也トハ如何、引ツレタルヲツレ／＼ト云義不レ叶、トカクツレ／＼ト引ノ本ハ異説タルベシ、ツム／＼ヲツブ／＼ト心エテヲクベシ

【ネ】

一ネスミツレ ススミツレノ心也、忍々通フ心ナリ、但カヨハズトモ

トシヲヘテ君ヲノミコソネスミツレコトハラニヤハコヲバウムベキ

此哥ハ鼠ヲコメタリ、惣別鼠ト名ヅクルハ、人ノ寢スンデ後出ル故也、禮記ニ證文アリ云ミ、君ヲノミコソネズミツレハ、君バカリト寢住ツレ也、サレバ別腹ニコハウムベカラズト也

一ネシロタカ、ヤ

川上ノネシロタカマヤアヤナ^{ニイ}サネ^{ニイ}テコソコトニデニシガ

根白高貴賦、アヤニ^ハ、アヤナ賦、「ナ」ト「ニ」ト五音ナリ

ヲカニヨセワガ、ルカヤノサネガヤノマコトヲ^{○ナ}ヲ^{○ナ}コヤハネロトヘナカ君^{○カ}ヲ^{○カ}

サネカヤハ、マコトノ貴賦、サテコソサネ^ハトハ詠賦

一ネヤハラコスケ

ウナハラノ根ヤハラコスケアマタアレバ君ハワスラレ^{○レズ}我ワスラ^{○ル}レヤ

顯昭云、ネヤハラコスケハ所ノ名ニヤト申人アレド、根ト云文字ヲ書タレバ、根ヤハラカナル小菅ナルベシ、海ニ生タル菅ハ、其根シホニタマヨヒテ和ナルベシ

〔この處落丁ありと見ゆれど圖書館本は全く異本にて此條無ければ袖中抄に據りて補ふ〕

一ナラノワキハ

タルヒメノウラヲコグフネカヂマニモナラノワキヘヲワスレテオモヘヤ

顯昭云、「ナラノワキヘ」トハ奈良ノワイヘト云也、タシカニイハマ「ワガイヘ」トイフベシ、ソレヲ「カ」ヲ略シテワイヘトイフ、「ワガ」ヲ「ワ」トイフツネノ事也、ソレヲ「ワキヘ」ト云ナシタルナリ、催馬樂ニ吾家トイフ歌ヲ「ワイヘン」トイフ、其歌云

ワガイヘハトバリ帳^{○ヲ}モタレタルヲオホキミキマセムコニセムミサカナフ^{○イ}本、ニナニヨケンア
ワヒサタヲカカセヨケムアリ

コノ「ワガイヘ」ヲバ秘事ニテ「ワイヘム」トイフ、歌ヲウタハントキコソサイハメ、ウタニモヨミ連歌ニモセンニハ「ワガイヘ」トコソハ申サメテ申アハセシ^{○以上}補フ^{○以上}カバ資方卿モ、尤トゾ申サレシ、或人ワイヘント、連歌ニシテトガメラレシコソ口惜カリシ、己上袖中抄

一ナリタツ

ナリタツニフナノリセント月マテハシホト^{○モ}カナヒネ^今ハコキコナ

顯昭云、雙田津ト書、但日本紀雙田津^ト吐云你^ト根^ト拖^ト田、シカレバ万葉ニテモ「ニギタマ」トヨムベキ賦、ナリタツハ伊與ノ名所也、コギコナハ許藝乞菜ト書、又柔田津ト書、又雙田津ヲ「ムマタツ」トモヨム同事也、

丸案ニ、雙ノ字ノ心ナリト云時ハ、菓ナドノヨクイロニナル義、柔字ノコ、ロモ、ヤハラギ、ニコヤカニナル心ナレバ、モノ、熟シテウメバ、ヤハラカニナル義ナリ、又熟ノ字ヲ「ムマタヅ」ト云モ、味ノムマクナル義ナリ、サレバ日本紀ノ「ニギタヅ」ト云ヨミ、混本ナルヲ、又所ノモノナド、ヲノヅカツ「ナリタヅ」ト云ツケタルニヨリ、万葉ノ作者、其名目ニテ「ナリタヅ」トヨメル賦、但後ノ点者日本紀ヲ不レ勘シテ所ノモノ、云ニ任テカンナヲ「ナリタヅ」トツケタル賦

一ナツカリノタマエノアシ

ナツガリノ玉江ノ芦ヲフミシダキムレキル鳥ノタツ空ゾナキ

顯昭云、夏苺也、源重之ガ百首ノ内ノ哥也、同之

ナツガリノ萩ノルフエモカレニケリムレキシ鳥ノ空ニヤアルラン

芦ノ哥ハ夏ニヨメリ、萩ノ歌ハ秋ニ詠リ、鴈ハ胡國へ歸ルトイへバ越中越後ナドニ留テ、夏ハ羽落ナドシテ葦萩ノ中ニアル心ヲ、此二首ニヨムトミエタリ、玉江ハ越前ニアレバナリ、但万葉ニ

三萬江ノ玉エノコモヲシメシヨリヲノガトゾ思フイマダカラネド

此哥ニテ思へバ、玉江ハホメテ云賦、小野モ名所ナレドヨロヅノ野ニ付テアキツノヲノ、カリバノ小野ナド云ナリ、八十萬モ別ノ所ナレド、ヤソシマカケテ、八十萬メグリトヨム也。無名抄ニ、玉江ハ枝也、非レ江、夏ガリハ鴈也、又鹿狩等ノ説皆僻事トアリ。童蒙抄云、越前ノ玉江ハ、湖邊夕干澗ニテ有ニ、芦生ナリ、鹿ヲ狩オ

ロシテ、狩人ノフミシダクニヨリテ、ムレキル鳥立乱ト云、續語抄云、夏狩也、玉江ハ越前ナリ、其國ニテ狩

シテ、玉江ノ邊ニオリキテ、酒ナドタフベテソノトキニ詠タリケルニヤ、ムレキル鳥ノ立ソラゾナキハ、其心ノワカル、ヲバ村鳥ト云ハ、其心也トゾ有ケル、此哥等ノ鹿狩イハレズ、無名抄ニ難シタル如シ、此重之百首ハ、冷泉院東宮ノ御時、重之帶刀ノ長ニテ侍ナルガ、百日ノ暇ヲ給リ、奥州へ下向シテ、毎日一首ヅ、詠テ、率百首ナレバ、北國ニテ玉江ノ狩アルベカラズ、又初句ハ夏苺也、夏鴈ノアル事コ、ヨニダ

一ナカトミノフトノリゴト

中臣ノフトノリゴト、イヒハラヘアガフイノチモタガタメニナレ

顯昭云、フトノリゴト、ハ中臣祓賦、ア、フ命ハ祈心也、「フト」ハユタカナル心「ノリ」ハ慮也、法也、ウルハシキ事也、万葉ニ家持造酒歌ナリ

一ナツケモ

シカノアマノ碓ニカリホス名告藻ノ名ハツゲテシヲナゾ相ガタキ

顯昭云、部類名乘藻ノ中ニ此「ナツケモ」ヲ入タリ

アサリスト碓ニ我ミシ莫告藻ヲイヅレノ萬ノアマカミ(○カ神)ルラン

コレヲ 莫告藻トカキナガラ「ナノリソ」トヨメリ。漢語抄云、神馬草「ナノリソ」莫鳴藻ヲバ「ナ、ノリソ」ト讀ト云々、サレバ莫告モ、ナノリソ同義也、又「ノ」ト「サ」ト「サト衍カ」ナト五音也、此名ツケモノ哥ハ、名ハ

告テシヲトイヘバ「ナツケモノ」トヨムハ、イハレタレド、コレモ「ナノリソ」ノ歌ニ入タレバ「ナノリソ」トヨムベキ義アリ、名ヲ告ル、名ノル同変ナリ、又

住ヨシノシキツノ浦ノナノリソノ名ハツゲテシヲアハヌモアヤシ

是モ、ナノリソト云テ、名ハ告テシヲトヨメリ、ナツケモノトハヨマズシテ「ナノリソ」トヨムベキニヤ

ミサコキル碓ベ○アライソニ生ル勿謂藻ノヨキ名ハツケズヤハシルトモ

シカレバ莫鳴・莫謂・莫告是等皆「ナノリソ」トヨムベキ歟

丸、日本紀ヲミルニ、允恭天皇ソトヲリ姫ニ、ヒソカニアヒタマヒシ時、衣通姫ノ哥ニ

トコシヘニ君モアヘヤモキサナトリウミノハマモノヨルトキノ

時ニ、天皇ノ曰、コレ人ニキカセタマフナ、御アネ皇后ノウラミフカシ、トノタマヒシヨリ、時ノ人海藻ヲ告能利曾毛ト号トアレバ、「ナツケモノ」ト云モ、人ニナツゲソト云義ナレバ、名ノリソト制シタルコ、ロヒトシキユヘ、一草二名ナリ、顯昭法師日本紀ヲ見オトサレタリトミエ侍

歌林樸楸第十一畢

歌林樸楸

【ム】

一ムマヒト

馬人也、上古百濟ヨリ馬ヲワタス、貴人ナラデハ不乗ニヨリ、ムマ人トハヨキ人ヲ云ナリ。

又日本紀ニ、ウマ人ト云事有。仁德天皇、皇后ニ八田皇女ヲ納メシテ妃トナサント乞給ニ、ユルシ給ハネバ、天皇歌曰

ウマヒトノ(今人也、私記曰、于ウマヒト言今也) タツルコタテ(言立也、言諸人並ニ兩妻ニ爲ニ世謠ニ之由也)

ウサユツル(儲強也、異説、惡謬也) タエマツカンニ(絶間續也) ナラヘテモカモ(並也)

御哥意者、並ニ兩妻ニ寄ニ于儲強ニ也、仍欲相ニ並妃ニ之由也、

丸云、三句目ノ「ウサユツル」ト云詞ノ下ノ註ニ、儲強也トアリ、何トモ愚意ニエシラヌ事也、カヤウノ註モ番々後ノ人推テシタルコトナレバ、必信用スベカラズ、ヲサヘツルト云詞歟、其故ハ、八田ノ皇后ヲ納テ妃トナサントアリシニ、皇后ノ御無用トヲサヘツルニヨリテ、召入ネドモ、今世ノ人ノ立ル詞ニ、妻ヲ並持ト申聽ヲタテ、ヲサヘラレシ、斷絶ヲ又ツ、クリテ、又召入テ、ナラベソヒタキトワビゴトシ給哥歟、「ウ」ト「ヲ」ト「エ」ト同音也、皇后答歌曰

コロモコソ(衣ナリ) フタヘモヨキ(二重吉也) サヨトコヲ(佐夜床也) ナラベンキミハ(並君也) カシ

コキロカモ(賢也、呂ハ助語也)

御哥意者、並ニ兩妻之床者、非ニ賢君之由也。天皇又歌曰

ヲシテル(推シ出ス也、私記曰、難波之崎如ニ推出ニ也、欲シ讀ニ難波之發語也、万葉集 於志豆流奈仁波)(丸云、万葉ニ抑光・抑照・忍照・臨照、カヤウニサマノ書タレドモ、出ノ字未見、モシ推出ナラバ「テ」文字濁ベシ、此註ノミナラズ、ナニハノ堀江ハセバキ故、ワレサキニト舟ヲシ出ニヨリテ、ヲシテルト云ナリ、サルニヨリテ、他ノ浦ニヨミテ、歌合ニモ難ゼラレシヨリ、難波ニカギル五文字也、ト顯昭ナドモ長々トカケル、堀江ヲホラレシハ、皇極天皇ノ御宇ナレバ、遙々後ノ事也、今仁德ノ御哥ニミエタレバ、堀江ノ説ハ先不叶、ナニハト云名ノヲコリハ、神武天皇御東征ノ始、彼浦ニツキ給フニ、浪ノ花早シトノタマヒシヨリ、歌テ今ハ「ナニハ」ト云ナレバ、此ヲシハ潮ナルベシ、テルハ照光ナルベシ、サレバイヅクヨリモ潮ノテリヒカリ、浪早ヨル所ナレバ、ヲシテルナニハト此御歌ヨミ給ヒシトミエタリ、万葉ノ哥モ此御歌ヨリ出タリト知ベシ、「ヲ」ト「ウ」ト同音) ナニハノサキ「〇」ノ「カ」(難波崎也) ナラビハマ(並濱也、名所也) ナラベントコゾ(並床也) ソノコハアリテ「〇」ケ「メ」(其子在也)

御哥意者、古賢王聖主、如ニ難波・並濱・並ニ納后妃之間、其皇子多々之由也。皇后答哥曰

ナツムシノ(夏虫也) ヒムシノコロモ(火虫衣、謂ニ火取虫也) フタヘキテ(二重濟也、言火取虫自多飛入于火、喻ニ重衣也) カク(如此也) ミヤ(宮也) タリハヤ(〇紀ナシノ邊也、略阿也) アニ(豈也)

ヨクモアラ儒(非也)

御哥意者、召ニ納兩妻之宮邊者、如ニ夏虫之入。火非能之由也

丸云、カク宮ノアタリハアニヨクモアラズト云ハテニヲハワルキ歟、アニヨクモアラン、ト有テコソ能モアラント云心ニナレ、阿羅羅ト日本紀ニアレバ、「ス」トヨマンハ不叶事也、サルニヨリテアラメ・アラヌナド、カンナヲ付タリ、コレハ宮邊ニハアラジ、身當ナルベシ、衣ナレバ身ニ當ルト云テ、皇后ニ御アタリハ豈ヨキ歟、ヨクモアラズト云心歟、ミヤタリハ御アタリノ同ヒマキナリ、ミヤタリヤノ後ノ「ヤ」ハ「者」ノ字ノ心ナリ

天皇又哥曰

アサツマノ(朝妻也、私記曰、在ニ難波之地名也) サ(〇避)カノ(所名ナリ) ヲサカヲ(小坂也) カタナキニ(片荷之新也) ミチユクモノモ(路行者也) タグヒテゾヨキ(比吉也)

御哥意者、不並ニ后妃者、如ニ片荷新之片方約、路行之一人者如ニ冷然、可思之由也、名所之中指(朝妻)以妻寄ニ來于后妃之義也

皇后送(謂)不叶、故(歎)之亦不答言

丸云、路行之一人ノ一ノ字不叶

一馬ノヤツ毛 雄略十三年三月、狹穗彦ノ支孫齒田根命、竊ニ采女山ノ邊小嵩子ヲ天皇聞、以ニ齒田根

命^{ミコト}收^{ウケ}付^ケ於^ニ物部^{モノベ}目^メ大連^{オホノミヤ}而使^シ使^シ主^{ヌシ}實^{ホトシ}讀^ミ齒田根命^{ハシメノミコト}、以^テ馬^{ウマ}八疋^{ヤツ}太刀^{ヤツ}八^{ヤツ}口^{クハ}秘^ヒ除^ヘ罪^{ツミ}過^ト、既^ニ而^{シテ}歌^カ曰^ク

ヤマノヘノ(山邊也)

コシマコ(小島子也、以上采女之名ナリ)

ユヘニ(故也) ヒトテラハ(人照也、言

讀^ミ罪^{ツミ}也^{ナリ}テラフ(丸云、人テルトハ身ノクモルヲハラス心^{ココロ}歟、又アガナフハ、テラトモイヘバ、テラウコ

ト共ナルベシ) ムマノ(馬也) ヤツケハ(八毛也、言八疋也) ヲシケクモナシ(不^レ惜也)

一ムカサクル (繼体天皇二十四年) 武烈天皇御時、目頼子初到^{マシ}任那^ニ時、在^リ彼^ノ家^ニ等^ト賜^ハ歌^カ曰^ク

丸云、此彼ハ任那ヲサス、郷家ハ目頼子ガ古郷^{コキョウ}歟、日本人ナルベシ、任那ノ者、和哥^{ワカ}如何、王仁^{オノノ}ハ日本ニ久ア

リシ故也、日本人ナラデハ此昔來^{コノミヤコ}ノ詞^{コト}心得^{ココロ}ガタシ、昔日本ヨリ我等ガ任那ヘ來シ也

カラクニヲ(饗國也、謂^フ任那也) イカニフコトカ(如何言事也、伊略也、一説^ハ歷^ル事也) メヅラ

コ(目頼子也) キタル(來也) ムカサクル(○ヲ起^スアリ) 昔來也、左與^{サマ}志^シ五^{イヒ}管^ツ通^ス) イキノワタリ(壹^ヒ枝^エ渡^ワ也)

メヅラコキタル(目頼子來ナリ)

凡哥意者、目頼子過^ス古道^{コミチ}貴^カ(分^カ)到^リ任那^ニ依^テ何事^ニ哉^カ之由、在^リ彼^ノ人^ノ贈^ル示^ス之也

一ムカツオ 皇極三年六月癸卯朔乙巳日志紀上郡言^{コト}有^リ人^ノ於^ニ三輪山^ニ見^ル猿^ノ昼^ニ睡^ル竊^ニ執^ス其^ノ臂^ヲ不^レ覺^ス

其身^ヲ、猿^ノ猶^シ合^シ眼^ヲ歌^フ

ムカツオニ(向峯也) タテル(立也) セラカ ニコネコソ(能^ル寢也) (丸云、セラガハ背等ガ不^レ來^ル歟、コ

、ヘ未^レ來^ルムカヒノ山ノ尾ニ立^テ居^ルワガセナラコソ、ト云^フ詞^ヲタルベシ) ワガテヲ(我手也) トラメ(取

也) タガ サキテ(誰前來ナリ) キサテソモヤ(不來也) (丸云、タカサキテハ、セナト我中ヲ、タレカ

遠去テ也、キサテツモハ、セナヲバ來ラセズシテ也、但タカサキテハ誰ガ先ニ來ル歟) ワガテ(我手也)

トラスモヤ(取也)

其人^ノ驚^ル惟^ニ猿^ノ歌^ヲ放^テ捨^テ而^{シテ}去^リ、此是^レ經^ル曆^ル數^年上^ニ宮^王等^ノ爲^シ蘇^我鞍^作圍^於於^於駒^山之^ニ兆^也

裏書云、万葉第七、向峯^{ムカフネ}爾^ニ立^テ有^リ桃^樹・向^{ムカフネ}岳^ノ之^ニ若^ク楓^木

一ムハタマノヨル 雄略十三年九月、木工^ノ籍^名部^ノ眞^根、以^テ石^ヲ爲^シ質^ヲ、揮^テ斧^ヲ斷^リ材^ヲ、終^ニ日^ノ斲^ト之^ヲ不^レ

誤^レ傷^ム、双^ニ、天皇^ノ遊^ヒ詣^リ其所^ニ而^{シテ}問^フ曰^ク、恒^ニ不^レ誤^ル中^ニ石^ヲ耶^カ、眞^根答^テ曰^ク、意^ハ不^レ誤^ル矣^{ナリ}、乃^チ喚^ビ集^メ采^女使^シ之^ヲ、

脫^キ衣^ヲ裙^ヲ而^{シテ}滑^リ鼻^ヲ、露^ヲ所^ニ相^シ撲^ル、於是^ニ眞^根頓^シ停^ム、仰^テ視^テ而^{シテ}斷^ル、不^レ覺^シ手^ノ誤^リ傷^ム双^ニ、天皇^ノ因^テ嘆^シ讀^ミ曰^ク、何^レ處^ニ

奴^レ不^レ畏^ル朕^ヲ、用^ヒ不^レ貞^ニ心^ヲ、妄^ニ輒^ニ答^フ、仍^{シテ}付^テ物^部使^シ刑^ヲ於^ニ野^ニ爰^ニ有^リ同^レ伴^ノ巧^者、歎^シ惜^ム眞^根而^{シテ}作^シ哥^ヲ曰^ク

アタラシキ(惜也) イナメノタクミ(諸名部工ナリ) カケシ(離也) スミナハ(愚^シ也) シカナケバ(無^シ

某也、言無^シ眞^根也) タレカ、ケンヨ(誰^レ也) アタラスミナハ(惜^ム眞^根也)

凡哥意者、眞^根依^テ爲^シ上^ニ手^ノ傍^ニ斲^ル惜^ム申^ス之^也、天皇^ノ聞^キ是^レ哥^ヲ、反^シ生^シ悔^ム、惜^ム、喟^シ然^シ歎^シ曰^ク、幾^ク失^レ人^ノ哉^カ、乃^チ以^テ

數^ニ使^シ乘^リ於^ニ甲^斐黑^駒、馳^リ詣^リ刑^所、止^シ而^{シテ}赦^ス之^ヲ、用^ヒ解^シ機^ヲ、復^シ作^シ哥^ヲ曰^ク

ヌハタマノ(私記曰、師說、烏^ノ屬^ノ之^ニ實^也、其色^ハ黑^ニ、人^ノ喰^フ之^ヲ、或^ハ說^フ鶉^ノ羽^也、或^ハ說^フ夜^ノ之^ニ異^名也、或^ハ說^フ髮^ノ之^ニ異^名也、言^ハ只^ニ欲^シ讀^ミ眞^根之^ニ發^語也) カヒノクロコマ(甲斐黑駒也) クラキセハ(鞍^ノ滑^也、言^ハ置^ル鞍^也) イノ

チシナマシ(命死也) カヒノクロコマ(甲斐黑駒也)

凡哥意者、黒駒置_レ鞍者、運意(○号カ)置根早被_レ誅之由也、

裏書。烏玉之夜渡月・野干玉乃夜渡・烏珠之其夜・烏玉之夜乃・夜干玉之黒馬之來夜者・黒玉之夜：已上万葉

ムハ玉ノ夜ノ夢ダニマサシクハワガ思コトヲ人ニミセバヤ

顯昭云、コレハ天德哥合ニ中務歌ナリ、判云、ヨルト云トキハ、ヌバ玉ト云、カキアヤマルトテマケズ 考

喜撰式ニ夜ヲバ「ヌハ玉」髪ヲ「ムバ玉」ト云、判詞此義ニ付賦、万葉ニハ、或ヌバタマノヨルトモ、カミトモ、

或ウバタマノヨルトモ、カミトモアリ、又夜ニモアラズ、髪ニモアラデ只玉ニヨセテヨメル哥

烏玉ノヒマヲ分ツ、ヌキシヲノ結ビテシヨリ後アフモノカ

万葉ニ、或 烏珠・或 黒玉、又鶴モクロキモノナレバ鶴羽ト云事賦、又野干玉・野玉・夜干玉・干玉(○ト

書_有)テモウハ玉、ヨム、順和名ニ烏鬪ヲ射干ト云、實ハマロク黒モノナレバカク書賦。又万葉ニ

川ノセノ石迹ワタリノ野干玉ノ黒馬ノクルヨハツネニアラヌカモ

黒馬ト云ハ、夜モ、髪モクロキヲハウハ玉トツヅクル賦。童蒙抄云、天德哥合ノ判ヲ引テ、是可_レ尋事也、夜

ナランカラニ、ヌバ玉ノ心叶ベシトモオボヘネト、村上聖主ノ御前ニテ、小野宮殿被申ケル事アダナランヤ。

顯昭云、此詞如何トキコユ、被歌合ノ判ノ詞ハ、偏ニ喜撰ガ義ニ付テ、未_レ考ニ万葉歌トキコエタリ

丸案ニ、天德ノ哥合ノ判ハ、小野宮實頼公也、然_レヲ万葉ヲカウガヘ給ハズ、只喜撰式ノ義ニ付、ト顯昭ノカ、

レシハ、恐ラクハ了簡ノタラザル也、天德ノ比ノ衆ノ、万葉ニウトキコトアルベケンヤ、又喜撰法師ガ万葉ヲ

シラズシテ、猥ニ式ヲ作ベキ賦、尤_レヲロカナル賦、コレハ人ノネイリテミルモノナレバ、夢ニハヌバ玉、又髪

ナドハクロキモノナレバ、ウバ玉トヲクガヨシト云事也、ウ・ク・ス・ツ・ヌ・フ・ム・ユ・ルヲ、イヅレモ

同音ナレバカハラヌニヨリ、万葉ニサマム自由ニヨミカヨハセドモ、式ト定テモノヲ書カラハ、カ、ル事マ

デモ糺明シテ書分テ、末代ニノコセシ也、万葉ニハ混雜シテアルヲ、喜撰ガタ_シテ書シ心ヲシロシメシテ、

常ハキラハネドモ、歌合ノ始ナレバ、コレヲアヤマリト判ジタマフヲ、天子モ其心ヲシロシメシテ、アヤマリ

アラバ負ベシトノタマヒシ事ナリ、サレバ喜撰モ、小野宮殿モ、万葉ヲヨクシリタル上ニテノ御センサクカ、

ト丸ハ推量申候

一ムラサキノネスリノ衣

コヒシクバ下ニヲ思ヘムラサキノネズリノ衣イロニイヅナユメ

顯昭云、昔紫ノ衣ヲキテ人トネタリケルニ、汗ニイロノカヘリテ、コロモニウツリタリケルガ、スリギヌニ似

タルヨリ、人ニ逢ヌヲバ、紫ノネズリノ衣ト云、又紫ノ根ノ色ノヨケレバ根ニテスルト云ナリ、柿ノ根スリト

云モ同事也。童蒙抄、奥義抄等此兩義ナリ。綺語抄ニハ、紅・紫トモニ色カヘルベキモノニアラズ。私云、紅

紫トモニ色カヘリテ物ニ移也、サタニ不_レ及。又案ニ云、此物語ノ義ニアラズトモ戀ヲ忍ベキ由ニテ色ニイヅ

ナトハ云ナリ。後拾遺ニ、小式部内侍ノ許ニ、一条前大政大臣始テマカリヌト聞テ。堀河右大臣

人シラデネササモネタシムラサキノネズリノ衣ウハギニヤセン
返シ 和泉式部

ヌレギヌト人ニハイハン紫ノネズリノコロモウハギナリトモ

是等ヲ案ニ、タトヘバ本歌ハ古今ノネズリノ衣ハ色ニ出ナト云心バカリ也、ソレヲ物語ノ説ノヤウニヨマレタル也、事ノオコリハタシカナル證ナケレ共、和哥ノ事ドモハ皆々カタノミ侍也

丸云、飛鳥井蓮心院殿ヨリ、源尙長、云人傳受ノ古今ノ註ニ、根ズリヲ用、寢テスルハ不用トアル本アルニ付テ、根ヲ前ジテ染ルヲ「スル」トハイヒガタシ、忍ズリモ紋ニ忍ヲスリタルヲ云、秋萩ノ花ズリ衣モ、萩ノ花ヲ分入スリゴロモトナルヲ云、紫ノ根ヲバクダキテコソモノヲソムルニ、根ズリハ心エヌ詞ナリ、サレドモ染ヲモスルト云コトアリテ、タマ紫ノ根ニテフカク染タル色ノ如ク、下ニ深ク思ヘト云哥ニモヤアルラン、サアラバ古今集ニ此歌忍戀ノ哥ノツマキニアルベシトミルニ、古今戀ノ第三ニ、此哥ノ次ニ、名取河セマノ埋木アラハレハイカニセントカアヒミソメケント 云歌アリ、シカレバ疑所ナク物語ノ寢テスリタル説正義ト存、根ノ字ハヲノヅカラ寢ノ縁語ナリト覺エ侍、顯昭ノ柿ノ根ズリト同事トイヘル事、歌ニアルコトニヤ、未知事也シフゾメナドヲ其比世俗ニ申ケル歟、ソレニテモ根ノ字不審、ヨシ／＼ソレハトマレカクマレ、紫ノネズリノ事ハ寢テスル説ヲ可ニ信用一

一ムロノヤシマ

イカデカハ思アリトモシラスベキ室ノ八嶋ノ煙ナラデハ

是實方ノ哥也、此返歌

下野ヤムロノヤシマニタツケブリ思アリトモ今コソハシレ

中將ヨミテヲクリケル、夜女ヤガテアヒニケリ、ト六帖ニアリ、下野國ノ野中ニ嶋有、俗ニハムロノヤシマトゾ云、ムロハ所ノ名歟、其野中ニ清水ノ出ル氣ノ立ガ烟ニ似タルナリ、能因ガ坤元儀ニミエタリ。又法性寺殿内大臣時哥合

タエズタクムロノヤシマノケブリニモナヲ立マサルコヒモスルカナ

攝津

判者基俊云、タエズタクムロノヤシマノ煙ニモトヨメル如何、室ノ八嶋ニ不絶絶火タクトハ何ニミエ侍ニカ、室八嶋云事ニアリ、一ニハ下野ニアリ、今一ニハ人ノ家ニアルカナヘニ室ヌリタルヲヨメリトゾ、或人ノ文ニミエタルハ、イヅレニヨリタルニカ侍ラン、タトヒイヅレニテモ不絶絶火タクト云事、未見、然バニヤ惟成歌ニモ

カゼフケバ室ノヤシマノ夕煙コ、ロノウチニ立ニケルカナ

トヨメルモ不絶絶タキタル火トキコエズ、アサマノタケ、フジノ山ナドヲコソ烟タエヌタメシニハヨミフルシテ侍レ、此不絶絶タクヲ大ムネニテ此歌ニハヨマレテ侍ヌレバ、カク尋申也、ミタル所少テ、サヤウノコトヲマダミ侍ラヌニヤ、申ヤル方ナク。俊賴判云、左哥不絶絶タクト云ヘル事 僻事トモヤ申ベカラン、此ムロノヤ

シマハ、實ノ火ヲタクニハアラズ、野中ニシミヅアルイキノ立ガ燵トミユル也、ソレヲタクトイハン事如何、但實ノ燵トノミヨミタレバナドカサモイハザラン、哥ガラハアシクモミエズ

サラヒスルムロノヤシマノコトコヒニ身ノナリハテンホドヲシル哉

コレハ歳暮ヲ俊頼ノ哥也、體ヲヨメリ、シハスノ晦日ノ夜田舎ノゲスノ燵ノ灰ヲサラヘテヲキテ、ソレガ消キエスサマニテ、次ノ年アランズル事ヲシルト云コト侍ニヤ

一ムヤノノ關 ウヤムヤノトモ。奥州ト出羽トノ中ニアリ、木茂テ行ニクキユヘニシヨリシテ行也

武士ノイヅサイルサニシヨリスルトヤノムヤノノ關

イヅサ入サハ、出サマ入サマ也、シヨリハ木ノ枝ヲ折アケテ通ルシルベトスル也、トヤノトリハ名所カ、又鳥屋ニ鳥ノ晩方ニ入テサハクヤウノタトヘ賦、又ムヤノノ關ノ、入テ出ガタキヲ、鳥ヤノ鳥ニタトヘタル賦

一ムトナミ

何事ニコノムトナミハアヤカリタイトフ泪ノシノニチルラン

俊頼歌也、「ムトナミ」ハ妻ヲ云

歌林樸楸第十二畢

歌林樸楸 第十三

【ウ】

一ウダノチハラ 日本紀第三卷、神武御事、神日本磐余彥天皇、神武御事、兄弟猶ハ菟田縣ノ魁師也、兄猶メスニ

不來、弟猶ハ至ル、軍門ヲ拜シ告曰、臣兄兵ヲ伏シ作ニ新宮ヲ施シ機變タテマツラントス、天皇道臣命ヲ

遣シ其狀ヲ察、遣臣大怒曰、爾ガ所造ノ屋ニハヲノレ居ヨトテ案、雙、雙、弓、遍オヒ入シ

ム、兄猶イナブ處ナシ、ヲノレ機ヲ踏テ壓死、ソノ屍ヲ陳シテ斬之、流血淋漓、故号ニ其地ヲ菟田血

原ト云、弟猶大設牛酒、皇師ヲ勞饗ス、天皇御謚之曰

于儀能多伽機珥辭藝和奈破蘆和俄末夷夜辭藝破佐夜羅孺伊殊區波辭區死羅佐夜羅固奈機那居波佐磨多知曾歷能未適那羅句鳩居氣辭被惠宇破奈利俄那居波佐摩伊智佐介幾未適於朋鷄句鳩居氣辭被惠

是來目哥ト云

ウタノ(兔田也) 多カキ(高木也) シキ(鳴ナリ) ワナハル(嫩張也) ワカマツヨ(我待夜也) シキハ(鳴

也、皇軍也) サヨラス(ヨラザル也、サハ助言) イスクハシ(不レ得レ救也、心ハ不レ達ニ本懷也) クシラ

(鯨也、兄猶ヲ云也) サヨリ(寄也、サハ助詞ナリ、心ハ兄猶ガ機ヲフムナリ) コナミカ(前妻ヲ云) ナ

コハ(女ノ通称ナリ) サバ(詞也、如レ讀ニ加奈氣利也) タチソバノミノ(不立副之身也) ナケクヲ(歎

也) カケシ(懸也)加古五音相通、言懸(兩妻也) ヒエネ(未詳也、詞賦) ウハナリガ(後妻ヲ云) ナコハ(女通稱) サバ(詞也) イチサケキミノ(逸身也) オホケタヲ(多也) カケタ(懸也) ヒエネ (詞賦)

御哥ノ意ハ、皇軍ヲ鳴ニタトフ、兄猶ヲ鯨ニタトフ、天皇ヲ後ノ妻ニタトフ、兄猶ヲ前ノ妻ニタトフ、兄猶ヲマウクトイヘド、皇軍ハヨラズ、機ハ歎ニタトフ、兄猶カヘツテ機ヲフム由也、栗田縣ハ兄猶ガ本居也、天皇征夷之、タトヘバ後ノ妻ヲ以寵シ、前ノ妻ヲ退シハ離別ヲ歎也、タチソハヌ身也、後妻ハ依隨順(如多立)副之身、イチサケキ身ノ立ソフノ身、イチハヤキ心也、天皇於今者栗田縣ノ田ヲ、サムベキ也

一ウマサケミワ 日本紀第五、崇神天皇八年夏四月庚子朔乙卯、以高橋邑人活日、爲大神之掌酒、多十二月丙申朔乙卯、天皇以大田根子令祭大神、是日活日自擊神酒、獻天皇、仍歌之曰

許能瀨根破(此酒) 和俄瀨根那瀨(非吾酒也) 那勝等(大和) 那殊(私記曰、有二義、一説猶言倭國平作成、一那瀨、言在大和國也) 於期望能養之能(大物主也、神名) 介瀨之瀨根(神酒也) 伊句賢佐伊句賢佐(幾久也)

如此歌之、宴于神宮、即宴竟之、諸大夫等哥之曰

宇磨佐開(甘美酒、言旨酒也) 瀨和能等能能(三輪之神殿也) 阿佐姑耳毛(朝戶) 伊弟氏由介那(〇耶) 瀨和能等能度場(出行)

於茲天皇歌之曰

宇磨佐開瀨和能等能能阿佐姑耳毛於許能瀨根那瀨(難押開也) 瀨和能等能能鳥(三輪殿戶也) 即開神宮門而幸行之、所謂大田根子、今三輪君等之始之祖也

第一ノ哥ハ、大物主ノミキヲ天皇ニ獻也、イタヒサハ、神酒ノ歷年賦、又天皇寶算ヲ祝賦。第二ハ、ミキヲ美ナレドモツキニ從車駕由也。第三、御哥ハ神酒ノ美ナルニヨリ、還幸ヲオシミ、三輪殿戶ヲヲシヒラキガタシ、ト名殘ヲオボス也

丸云、万葉ノ哥ニ、味酒乎三輪之祝我忌杉ナド云歌ノ註ニ、アチサケトカンナヲツケタルアリ、味酒ト書タルモ、ウマ酒ナルベシ、又三輪トツマクルハ、酒ノモロミト云モノアレバ、三輪トウケタリトイヘリ、コレモ後人ノ古尺賦、既ニウマサケトモツマケタレバ、只此大物主ニ奉リシ時ノ哥ヨリヲコル枕詞ナルベシ、又活日ノ哥ニカミシ酒トアルハ、昔ハ酒飯ノ米麴ヲモ齒ニテカミテ作シ故ナリ、藥方ニ吹咀シトアルニ同

一ト部 ウラハ

一樹下集 法橋源賢撰

一ウコノムマハ 右近馬場

一ウタカタ 水ノ泡ノ名也、浮テタエガタキモノト云コトヲ略シテツケタル名也、サレバウタカタ人ニアハデ消メヤモ、シバラクモト云事也、定家卿ノ寧ノ字ノ説モ、伊勢ガ哥ノ心ニノミ叶ヤウニセラレタリ、シバ

シト云事トコ、ロエヌレバ、諸歌ニソムカズ、宗祇口傳ノ説ナリ

一ウキ ウキネト云ハ底モ水ノアタリモ水ニテアルガ、アシナドノ根ニトヂカラメラレテアル處ヲ云ナリ

芦根ハフウキヲワタルトセシホドニ我身ノヤガテ沉ヌルカナ

一浦ノハツシマ 名所ニモアリ、又浦ニ滿塩ノ引時、嵐ガミエテ、ヤガテウスルヲモ云

思カネ浦ノ初嶋キテミレバ人モ渚ノアトノ白浪

一ウタ、 ウタテ、同。アマリニト云心ナリ、ツネニウタテシキト云ニハカハレリ、ウキコトニヨメル哥

ナシ、但一首アリトヤラン。右祇説也

ウタ、ハ轉字也、詩ニ多シ、イヨ／＼ト云心ナリ、世上ノウキ事ヲウタテシト云心ニカハリテ、ウタテトヨミタル哥多シ、又カヨハセテ「ウタ、」ヲ「ウタテ」トヨミタルモアリ、哥ニヨリテ可ニ分別ニウキコトニ非ズト一途ニオモフモ又アシカルベシ、根本詞ノヲコリヲタヅヌルニ「ウタ、」ト云詞モ「ウタテ」ト云詞モウタテシキ心ヨリ始リタル也、物ニアキミチヌルハウキモノナレバ、イカナル事ノカサナルヲ、ウタテシキト思フヨリ、イヨ／＼マス／＼ト云義ニテ、ウタ、ト云詞ハ出来レバ、ウキコトニ「ウタテ」トヨミテモ苦カラザルベシ、サレドモウキコトニ「ウタ、」トハヨムベカラズ、コレハウタテノ事也

一ウケラカ花 ヲケラトモ云、尤ト云

ワギモコニアドカモイハンムサシノ、ウケラガ花ノ時ナキモノヲ

俊頼長哥

ウケラガ花ノ、サキナガラ、ヒラケヌコトノ、イブセサニ

アサカマダシホヒノユタニ思ヘラバウケラガ花ノ色ニ出メヤモ

童蒙抄云、トコナツニ花アリ、ツボミタルヤウゾサク也、集註尔雅云、花アリトイヘドヒラケザルガ如シ、サレバ時ナキモノトヲトヨメリ。本草云、尤ハ夏花開紫碧色也。又如薊花云々、顯昭万葉ノ時キナキトイヘル相違

丸案ニ、非ニ相違、万葉ノトキナキハ、ヒラクトキナキト云心也、コレヲミソコナヒテ、童蒙ニモ常ニ花アリト尺セリ、誤ナリ、只尤ハ夏花サク、咲テモヒラケヌヤウニミユル花ノ姿、色ハ紫碧、本艸如ト可レ知

一ウラヘカタヤキ

ムサシノニウラヘカタヤキマサテニモノラヌ君ガ名ウラニデニケリ

奥義抄云、公家ニ龜甲ノ御トト云コトアリ、ト部氏ノモノ、ハワカノ木ニテ、龜ノ甲ヲヤキテウラナフ也、又ソレガヤウニ鹿ノ肩ノホネヲヤキテ、占ヲスル也、万葉ニ、ムサシノトヨム、或物ニハ、奥ノエビスノ鹿ノ肩ノ骨ヲヤキテ占ヲスル。江都督哥

カグヤマノハ、カマ下ニ占トケテカタヌク鹿ノ聲キコユナリ

童蒙抄云、昔天テル神、アメノイハヤニ籠シ時、思兼神天ノカグヤマノ鹿ヲイケナガラトラヘテ、其骨ヲヌ

キ麗ヲバ放ヤリ、カゴ山ノハワカノ木ニテヤキ、太神ノ出マサンコトヲ占フ、思兼神ハ今ノト部氏ノ遠祖也、万葉式ニ、天香山・天香具山・天鹿具山ト書。又顯昭考云、龜トニ五兆ト云事有、其中ニタメハ云字云人ト云字(○タメノ字ハ人ト云字ヲカクア)ヲ書ト云ミ、仲實戀歌ニ

ハワカヒニチカヘルカメノウラグシヤタメトハシルハ君ガアヘルカ

ハワカビトハ朱櫻桃火、又櫻桃トモ云「タメ」ニハ「アフ」ト云コトアリ、相字ヲ書リ、龜ノウラヲバ「カメノマ」スラトモヨメリ、師時卿歌

思カネカメノマスラニコト、ヘバタメアヒタリトキクゾウレシキ

又万葉ニ

ト部ヲモヤソノチマタニウラドヘバ君ヲアヒミルタドキシラズモ

同長歌ニ、チハヤブル神ニモマクナ、ト部スヘカメモナヤキノ云ミ

一ウチノハシヒメ 一禪御説「ヒメ」ヲ濁也

チハヤブルウヂノハシヒメナレヲシゾカナシトハ思フトシノヘヌレバ

橋(○姫橋)大明神トテ橋ノ下ニオハスル神ヲ云、其モトヘ離宮ト申神ノ、毎夜通給、曉毎ニ河浪オビタマシク立ト云傳、又隆縁ト云僧ハ、住吉神ノ宇治へ通給トイヘリ、宇治ノ橋ハ孝徳ノ大化二年ニ道昭始造、住吉ハ神代ノ神也、但古今註ニ、ウヂノ玉姫ト註セリ、橋不造サキトモ申ベシ、奥義抄云

サムシロニ衣カタシキコヨヒモヤワレマツランウヂノハシヒメ

此哥ハ、橋姫ノ物語ニアリ、昔妻二人モタリケル男、モトノメノウツハリシテ、七イロノメヲネガヒケリ、求ニ海へ行ニ、龍王ニトラレテウセニケルヲ、モトノメタヅネアリケルホドニ、濱ベナル庵ニヤドリタリケル夜、此男此哥ヲウタヒテ海ベヨリ來ナリ、扱コトノ有様云テ、アタレバ失ヌ、今ノ妻此コトヲ聞テ、行テ待ニ、又此哥ヲ誦テ來ル、ワレヲバ思ハデモトノメヲ戀ルニコソ、トネタク思テ、男ニトリカ、リタレバ、男モ我モ雪ナドノキユルガ如ニウセニケリ、世ノフル物語ナレバ委カラズ

一ウツタヘ

ウツタヘニアマタノ人ハアリト云ヲワキテワレシモヨルヒトリヌル

顯昭云、ウチハヘテ歟、「ツ」ト「チ」ト同音也、「ハ」ト「タ」ト同音ナリ

古 禰ニモ手ハフルトイフヲウツタヘニ人ヅマトイフハフレヌモノカハ

奥義抄ニ、ウツタヘハ浮タルモノヲ云トアレバ、此哥ノ心不レ叶

ウツタヘニ籬ノスガタミマホシミユカントイフヤ君ヲミニコソ

是等ニテ心得合スルニ、ヒトヘニト云心ニヤ

ウツタヘニ鳥ハ、マネドツナハヘテモラマクホシキ梅花カモ

此哥モ、心アレド詞不レ叶、又籬ノ姿ノハ、ヤスラフ心歟、但

ワギモコガヤドノ籬ヲミニユカンケダシ門ヨリカヘシテンカモト云歌ノ返事也、ソレモ人ノユカリナルベシ

丸云、ウツハ打也、打トケ手ニテ、物ヲウツニアラズ、タマウチヲク・ウチスツナド云詞也、「タヘ」ハ堪字也、サレバ不斷常住ノ心也、ヒタスラナル事也

一 ウルマノシマ

オボツカナウルマノシマノ人ナレヤ我コトノハヲシラヌ良ナル

ウルマノ篇ノ人ノ、コ、ニ放タレ來テ、コ、ノ人ノモノ云ヲキ、モシラデナンアルト云比、返事セヌ女ニ公任卿ノツカハセシ哥也

一 ウレリメ

サカ殿ハケサハナハキソウレリメノモヒキスソ引ケサハナハキソ

コレハ神樂酒殿ノ哥也、賀茂ノミトシロニカタラヒニモ來ル女、イロドリタル、ミカハタ持テアルヲ、ルリメトツ申、ソレヲ「ウレリメ」トモ「ムレリメ」トモ云ニヤ、神田作ルモノ、食物モツヲ、ミカハタトハ云也、ムレリメハ、群女ト云心ナルベシ

一 ウケフ

相オモハズ君ハアルラシウバ玉ノ夢ニモミエズ憂日干(手袖)宿勝

顯昭云、ウケフハ日本紀ニ、或ハ祈ト書、或ハ誓ト書、祈符ト書テ「ウケヒガリ」トヨメリ。古語拾遺云、誓槽、古語字氣布禰、約誓之意云々、今云、ウケフネト云也、槽ムマフネ

ミヤコヂヲトヲミヤイモガ此比ハ得飼而雖宿夢ニミエコヌ

サネカヅラ後ニアハント夢ニノミ受日ゾワタルトシハヘニツ、

私云、此ウケヒテヌトヨメル哥、共ニ祈トキコエタリ、誓トテハ少ダガヘリ

丸云、神ノイノルコトヲウケント誓給ヨリ、何ゴトヲモイノレバ、誓ノ字モ其理アル歟。但、伊勢物語ニ、昔宮ノ内ニテ、アル後達、局ノ前ヲワタリケルニ、何ノ仇ニカ思ケン、ヨシヤ草バノナランサガミント云、男

罪モナキ人ヲウケヘバ忘草ヲノガ上ニゾオフトイフナル

此註ニ、人ヲウケヘハ、呪咀シ、ノロフナリ、此哥ハ法花經普門品ノ呪咀諸毒藥所欲害其身者念彼觀音力還齋於本人ノ心ト一禪ノ御説ナレバ、ウケヘハノロフ也、今川了俊ノ書ニハ、ウケヘト濁ベシトアリ、冷泉家ノ流ナルベシ、然ハ万葉ノ歌共モ、祈ヨリ猶、ノロフ心ニテヨクキコエ侍

一 ウトハマ

ウトハマニアマノハ衣昔キテフリケン袖ヤケフノハフリゴ

昔駿河國ウト濱ニ、神女ノアマクダリテ舞シヲ、野叟ノ學傳ヘテ舞ヲ、今ハスルガ舞トテ、アヅマアソビニスルハ是ナリ

一ウハヘナキ

宇波幣無モノカモ人ハカクバカリ遠家ヅカヘスト思ヘバ

顯昭云、ハヘナキト云詞ナリ、「ウ」ハ助也、ハヘトシト云ハ、ハヘアリトテホムル詞ナリ、此哥ハ湯原王贈ニ娘子ニ哥、(志貴皇子女ナリ)又

得羽重無イモニモアルカモカクバカリ人ノ心ヲツクスト思ヘバ

コレハ、家持贈ニ娘子ニ哥也

丸云、花ノ夕バヘナト云モ、モノ、ハヘアルト云モ、榮ノ字也、サレバウハベモ「ウ」ハ上ノ字ナルベシ、打アフテ先氣バヘ・心バヘノナキヲ、ウハヘナキト云ベシ、ウチ任テイハマ情ナシト云義歟
一ウツラ

撫子ガ花トリ持テウツラノ見マクノホシキ君ニモアル哉

顯昭云、ウツラノト云詞歟、「ウ」ハ休字ナリ、情ニハアラズ、コト心也、物ヲミルヲバツラノトミルト云ナリ、又アタラノトモ云歟、アタラト云ハ「アラタ」ニト云也、「ア」ト「ラ」ト「タ」ト「ツ」ト同音也。土佐日記ニ住吉ノ沖ニテ海ノアレケレバ、梶取ノス、メニヨリテ、鏡ヲ奉ルニ、浪風シヅマリニケレバヨメル
チハヤブル神ノ心ヲアル、海カミミヲ入テカツミツル哉
イタク、スミノ江・忘草・キシノヒメ松ナド云神ニハアラズカシ、メモウツラノ、鏡ニ神ノ心ヲコソミツ

レ、梶取ノ詞ハ神ノ御心也ケリ、此詞ニテ心得合ベシ、是モ目モアラタニト云詞トキコエタリ、丸云、ウツラノト云ヲ、一アト「コラ」ト「タ」ト「ツ」ト同音ナレバ、アタラノト云義ハアマリノ了簡歟、只ツネニ無ニ他念ニ打マモル時ノ心ヲ、タレモ云ウツラノニテ、土佐日記ノ詞ノ心モキコユルナリ、タトヘバネイラレヌ時、夢ニハアラデウツラノト、目ニモノ、面カゲヲミルヲリノ心ヲ云モ同事也、現ノ字ヨリ出タル詞也

歌林樸楸 第十四

【キ】

一サナトリ 允恭天皇幸ニ於茅渟宮ニ衣通郎姫歌

トコシヘニ(鑷也、常也、略祭) 根ミモアヘヤモ(君遇也) キサナトリ(謂鯨取也、師説曰、古語、異舍

者鯨也、漁ニ彼魚ニ之条大事也、邂逅也、仍喻ニ希有事也) ウミノハマモノ(海淡藻也) ヨルトキクノヲ

(寄吃々ナリ)

吃天皇謂ニ衣通郎姫曰、是歌不可レ聆^{アツシヒト}他人、皇后^{ヒメノミコ}聞^ク必^ニ大恨^ト、故吃^ク人号^ス濱藻^ニ謂^フ祭能利曾毛^ト、

几哥意者、常欲^シ奉^ル遇^フ、如^シ濱藻^ノ之密^ニ、時々有^ル臨幸^ニ總慕^ル之由也

万葉七

キノフコソフナデハセシカキサナトルヒヂキノナダヲケフミツルカモ

万葉九

トコシヘニ夏冬マケヤ表

一キテ 朝東風ニ井堤コス浪トヨムハ、堤ノ水入ル水門ナリ

一キ 宗祇云、ツ、井ハ、竹ヲソコヨリメグリ立ルヲ云、ツ、ミ井モ同

丸案ニ、筒井ト云ヨリ此註アル歟、只桶ヲ以石クラノ代ニコシラヘタル井ナルベシ、ツ、ミ井トハ除夜ニ藥子ノ藥ヲ、井ノ半ニオロシ、井ノクチヲフサギテ、元日ニヒラク、其間ヲ云歟、アガタ井ハ、メグリニ石ヲタム、志賀ノ山ニヨメリ、岩〔○井^{成カ}〕ト同、イサラ井ハ、淺井ノ水ノ少ヲ云、イサラ小川ト同ジ

丸案ニ、イサラ小川ハ率小川ト云、雨後ナドニ俄ニナガル、水歟、エノハ井ハ、トヨラ寺ノ西ニアリ、覆木ノ下ニアリ

古細ノ覆ノハ井清水ミクサキテ月サヘスマズナリニケルカナ

此歌ヲミレバ、カナラズ名所ナラネドモ、覆木ノ下ノ井ヲ、エノ葉井トヨム歟

一キモリノシルシ 付ヌグ菴ノカサナル

ヌグ菴ノカサナルコトノカサナレバキ守ノシルシイマハアラジナ

法華經玄贊六云、守宮^ノ以^テ血^ヲ盜^シ女人^ノ臂^ニ必有^ル私^ノ情^ヲ、洗^ハ之^ヲ不^レ落^キ可^シ以^テ守^ル宮^ヲ。コレハ肉ニシツミ入テ、上ハ失ト云コト也、外典ノ博物志ノ説トウチギ、ハカハレドモ心ハ同ナリ

忘ナヨタブサニ付シ虫ノ色ノアセナバ人ニイカマコタエン

返シ

アセヌトモ我ヌリカヘシモロコシノ井守モマモルカギリコソアレ

無名抄云、女ノミソカゴトスル折ニハ、菴ノヲノヅカラ重テ、ヌギヲカル、ナリ。童蒙抄云、ヌグ菴ノ歌ハ一

条院御時、或人ノメニヨシテトラセケル歌也

一井テノ玉水

約記

ヤマシロノ井デノ玉ミツ手ニ結ビタノミシカヒモナキ世ナリケリ

翻昭云、ナラヘ行道ニ、井手ノ水トテメダキ水道ヅラニアリ、コレヲ玉水トモ、玉ノ井トモ云、ソレヲ手ニテノムト云コトヲ、人ヲタノムニヨセテヨムナリ、此歌ハ井デニテ契レル伊勢物語ノコトヲ、タレカ語ケルニヤ、若大和物語ニ書サシタル事ハコレニヤ、極テ不定ノ推量ニテハアレド、事ノホド相似タルナリ、而ニ俊成卿

トキ返シ井デノ下帯ユキメグリアフセウレシキ玉川ノ水

トヨメルハ、大和物語ノ心也、サレド此物語ハ書サシタレバ、ユキメグリテアフ由モナキヲ、サモアリヌベキ事ナレバ、アヒタル定ニヨミナシタルニヤ、又玉川ノ水トアルニモ如何トキコユ、牛一ノ川ナミトヨミ、玉水トヨミタル哥ドモヲ取合ヨメルニヤ
丸案ニ、此大和物語ノ説ハ、伊勢物語ノ以後、業平ノ哥ヲ以テ作出タルベシ、大和物語ノ古ヲ以、業平ノヨメルニハ非ジ、ソノユヘハ、大和物語ニ云、昔田舎人ニアリケル人、勅使ニ下リケリ、井手ト云ワタリニトアリ、シカレバ、平安城ヨリ大和ヘ下ルトミエタリ、伊勢物語ニハ、ナラノ京ハハナレ、此京ハ人ノ家マダサダマラザリケル時ニ、トアレバ業平ノ時分ニ古事ニ取用ラルベキイハレハナキナリ

一牛ナノ水ウミ

大海ニアラタナ吹ソシナガ鳥イナノ水ウミ舟トムルマデ

翻昭云、湖ハ近江、其外ヨゴノ海トテ別アリ、信濃ニ諏方ノウミ、越中ニフセノ海アリ、攝州牛一野ニ湖ナシ、コヤノ池コソ侍レ、是ハ湖ノ字ヲ書チガヘタルベシ、二条院御時或人湖上月ト云題ニテ、井ナノ水ウミトヨメルヲ、其坐ノ哥仙達モトガメラレズト承レ、口情事ナリ、仍シルシ付侍也

【ノ】

一野中ノシミツ 古今

古ノ野中ノ清水ヌルケレドモトノコ、ロヲシル人ゾクム

能因哥枕ニ、野中ノシミツトハ、モトノメヲ云

イニシヘノ野中ノシミツミルカラニサシグムモノハナミダナリケリ
モトノメニカヘリスムトキ、テ

ワガタメハイトマアサクヤナリヌラン野中ノシミツフカサマサレバ
拾遺ニ、フルクモノ云ケル人ニツカハシケル、元輔

草ガクレカレニシ水ハヌルクトモムスピシ袖ハイマモカハラズ
同集ニ、ケサウスル女ノ、サラニ返事モセザレバ、實方中將

ワガタメハ玉井ノシミヅヌルケレド猶カキヤランサテモスムヤト

コレラ皆、古今ノ哥ヨリ出タリ。和語抄ニハ、野中ノ清水ハ河内國ニモアリ。奥義抄ニ、此水ハ播磨ノ印南野
ニアリ、昔ハメデタキ水ニテアリケルガ、末ニハワルクナリテ、人ナドモスサメヌヲ、昔ヲキ、ツタヘタルモ
ノ、尋テミルニ、キタナゲニナリテアリケレドモ、イカデカノマデスギントテ、ノメリケル事ヲヨメルトゾ申
メル、コレヨリモトヲシレル事ニ云傳タルナリ、今ハカタモ侍ラヌニヤ

一野守ノカ、ミ

著龜ノ野守ノ鏡エテシガナオモヒ思ハズヨソナガラミン

顯昭云、雄略狩ヲコノミ給フ、御鷹ソリテミエズ、野守ヲメシトハル、ニ、アリ所ヲ申ス、イカ、シテ知ゾト
ノタマヘバ、此野ノ水ニウツリ侍ヨシヲ申ト云傳タリ、無名抄ニハ天智天皇トアリ〔○イヅレトサダメガタケ
レド、古ヨリオホクハ雄略トカケリ、又神代〕彼天皇狩ヲ好給由、國史ニミエタリ、又徐君ガ鏡ハ人ノ心ノ中
ヲテラシケレバ、世コゾリテホシガリケリ、コレ更ニ我持トゲジト思テ、塚ニ埋テケリトゾ、匡房ハ被申シ、
イヅレカ實ナラン、トカケリ。奥義抄云、ソレニテハ著龜ノ野守ノ鏡ト云ベキユヘナシ。私云、徐君ガ鏡ノ事
可考之。或古抄云、此事ハ本古哥二首也

ハシタカノ野守ノカ、ミエテシガナ繼シキ人ノカゲヤウツルト

東路ノ野守ノ鏡エテシ哉思ヒオモハズヨソナガラミン

是ヲ一首ニ書リ云。今案ニ徐君ガ鏡ナラバ、著龜トハイハデ、東路トテコソハアラメ、東路トサスコトハ、
野トツマケン料也、東ハ野多故ナリ、但儘ミエタル事ナケレバ、著龜ノ野守ノ鏡トイヘルアシカラズ、又或抄
云、野ヲ守リケル鬼ノモタリケル鏡ナリ、人ノ心ノ中ヲテラシ、イミジキ鏡ト聞テ、國王ノメスニ鬼惜ケレ
バ、野ヲヤキハラハントシタマヒケル時ニ奉云。私考、載記ニ云、秦始皇帝即位三年ニ夜、有鬼而與一鏡
也、徑三尺也、有病人以鏡察、病人之腸六腑五臟皆見知病在所也、始皇崩後鏡忽然而亡也。又西京
雜記云、高祖初入感陽宮周行府庫有方鏡、四尺九寸、表裏有明、人來照之影俱見、以手掩之掩
心而來即胸貫五臟歷然無疑〔顯〕人有病則掩心而照之、即知病所在又女子邪心有則膽張心動、秦始
皇帝以照宮人膽云。今案ニ、兩說相違載記ニハ鏡モ與始皇共亡乎、雜記ニハ高祖入感陽見鏡云、
又鬼ノ帝ニ奉事ハ同ケレド、詞ノ次第不備。又綺語抄云、曾文ガ破鏡ノ事ニテ尺タリ、ソレハ鶴鏡ナリ、ハ
シダカト云ベカラズ、或タカタヌキヲ野守ノ鏡トハ云ナリ、タカヲソラシテハ、タカタヌキヲ目ニアテ、ミレ
バ其ユルト云。今案云、サラバ野守ト云ベカラズ

丸云、顯昭ハ雄略天皇ノ水鏡ノ説ヲ信ゼラル、トミニ、俊賴ノ無名抄ニハ、天智ノ時トシルセリ、國史ニモ天
智ノ符ヲ好タマフトコソノセタレ、〔○こ〕の記事によれば前文の袖中抄による補入は不用か〔鏡ノ事ハナシ、

サレバ日本紀ニモノセズ、此説ハ、此哥ヨリ作出セル事トミエタリ、又始皇ニ鬼ノ奉シコトハ證文明也、高祖ノ咸陽宮ニテ得給鏡モ文明也、此則始皇ノ崩時失シ鏡ガ咸陽宮ニアリシナルベシ、又徐君ガ鏡ノコトハ何ノ書ニアルトハミエネドモ、大江匡房大才ノ人ノ書ヲクコトナレバ、ウタガフヘカラズ、コレヲ丸ハ信用ス、徐君ガ死骸ヲ守ル鬼ヲ野守トサスベシ、塚ハ野ニアル故ナリ、推スルニ始皇ニ獻ゼシモ此鏡ナルベシ、人ノ死タル魄ヲ鬼ト云コトハ分明ナリ、又箸臙トヲクコトハ、野トイハンタメナリ、其上狩ニハ獲物ヲセンニスルコトナリ、サレバ鳥ヲウルヨリモ、野モリノモチタル鏡ヲ得テシガナ、トネガヒタル哥ナリ、思フカ、オモハヌカノ、君ガコ、ロヲミントヨメル也、何不審モナク、徐君ガ鏡ヲ野守ノ鏡ト云、匡房ノ説ニ付ベシ、水ニ影ノウツルホド、マノアタリニアル臙ヲ、行幸ノ供奉ノ者トモミツケズト云事ナカルベシ、コレハ淺ハカナル作事トキコユ

【オ】

一尾代 雄略崩シ、新羅ヲ征ズル將軍吉備臣尾代吉備國ニ過レリ、所率五百ノ蝦夷等、天皇ノ崩ズルヲヨキ時トテ聚結テ傍郡ヲ侵ス、於是尾代戰ヒ丹波國浦狹水門ニ追カケ盡ニ殺之、立ヲ執末而歌曰
 ミチニアフヤ(道遇也) オシロノコ(尾代子也、自稱也) アメニコソ(チ也) キコエズアラメ(不聞在也) クニ、ハ(國也) キコエテナ(聞也)

是天皇崩之間、不能聞之故歟

一西影 三アリ、一ハ、其モノヲミル心、二ハ、其物ニ似ル心、三ニハ、ソトバカリミエタル也、宗祇説
 佛ハ身ヲモハナレズナレ、テワカル、方モ白河ノ關
 秋ノ名殘ナガメシ空ノアリ明ニ佛近キ多ノ三日月
 本度計ノ心
 ヨシサラバトハズハトハズアリモセテ佛バカリキテカヘルラン

一百姓

一御侍讀 天子ノ御モノヨミノ師也

一女藏人

一尾上 尾スヂトテ、嶺ノハシリタルヲ云

一老サヒ 老テ若ヤグ事也

一オボロ舟 仁徳ノメシタル舟也、オボレタル古舟也

一オホヤケニユルシ給ヘル今叱(○夜カ)ノミノマン酒カモチリウスナユメ

昔京中酒ヲ制シ給シニ、一二人モユルシ給ヘル時ヨミシ哥也

一翁サヒ 男サヒモ同。オキナスサビ也、手スサビナドノ如ク、タハフル、心ナリ、取蛇尾ト書。万葉ノ

長哥ニ

マストラオノ男サビストツルギダチコシニトリハキサツ弓ヲタニギリ持テ
又清見原天皇幸ニ吉野河一琴引給時、神女天降テ舞歌ニ云

乙女子ガ乙女サビスモカラ玉ヲ袂ニマキテ乙女サビスモ

奥義抄ニハ、乙女サビスモソノカラ玉ヲトアリ、漳ニ日本紀也。無名抄ニハ、翁サレト云詞ナリ。童蒙抄ニハ
翁アソビ也。又法性殿哥合ニ、殘菊ヲ基俊

ケサミレバサナガラ霜ヲイタマキテ翁サビ行白菊ノ花

俊頼判云、翁サビ行ト侍事タシカニシラヌコト也、只フルキ哥ニツキテ心ヲ得ルニ、翁サビトイヘル事ハ翁サ
レトイヘルコト、ゾ承ヲキタルニ、是ハ此心ニハ違ヘリ。又万ニ

ハリ袋コレハタバリヌ布袋イマハエテシガ翁サビセン

基俊歌ハ、神サビ・浦サヒ、サビシキ方ノ詞也、行平ノ翁サビ人ナトガメソノハスサビ也

丸案ニ、翁サビト云詞ヲ今ヨマンニ、基俊ノ哥ノ如ニヨマンハアヤマリニナルベシ、俊頼ノ判道理至極歟

一大原 後拾遺云、三条院御時、大嘗會御撰ナド過テノ比、雪ノフリケルニ、大原ニ住侍ケル小將井、尼
ノ許ニツカハシケル 伊勢大輔

世ニトヨムトヨノミソギヲヨソニシテヲシホノヤマノミユキヲヤミン

返シ 小將井尼

小塩ヤマ梢モミエズフリツミシコヤスベラギノミユキナリケン

顯昭云、少將井尼ハ、北山スミヤク大原ニスムナリ

大原ヤ小塩ノ山ノ小松原ハヤコダカ、レ千世ノカゲミン

コレハ、左大臣ノオノコマ女子カウブリシ、モキ侍リケルニ、貫之ガヨメル、西山也、西ヲ北ノ大原ヘヨミヤ
ルハ僻事也、サレド伊勢大輔ガ詠ヲ、通俊卿・後拾遺ニ入、又難後拾遺ニモ不難シカレバ大原ト云詞ニ付テ
カヨハシテ詠歟、サラバ大原トコソヨマメ、小塩ノ山ヲバ可詠モアラズ

丸案ニ、大原ニ住侍ル小將井尼トアレバ、北山トハカ、ズ、サレバ西ノ大原ニスミケルナルベシ、人ノ一生ノ
内ハ住所不定者多ケレバ、必北ヤマニノミ住ント思ベカラズ、此哥ヲトリカハセシ時ハ、西ヤマニアリシトミ
ルベシ、小シホノ西ニアル事ハ、犬ウツワラハモ知事ナルニ、ヨミマガフルコトヤハアルベキ、嬖女ドテノハ
カナキスサビニヨミマガヘタリトモ、西ヤマニアリシ時ト定ベシ

一オホヲソ鳥

鳥テフオホヲソ鳥ノマサデニモキマサヌ君ヲコロクトゾナク

顯昭云、万葉東哥不知國歌ナリ、アツマニハ鳥ヲオホヲソ鳥ト云、モノクヒキタナシト云心也、マサデニモ
トハ、マサニモト云也、「テ」トハ万葉ノ詞ニクハ、レル詞ナリ、コロクト云モ、アツマ詞ナリ、人ヲコヨカシ

ト云ヲバ、コロクト云也、「コロハ」コヨリナリ、「コロハ」詞ノ助ナリ、「ク」モ助ナリ、万二人ノコヲモ「コロ」トヨメリ、山ノネヲモ「ネロ」トヨメリ、サテ鳥ノ「コカ」トナクヲバ、コロクトナクト云也
丸案ニ、只「コロク」ト鴉ノ啼也、コカト云ヲ助字ヲ入云義不叶、マサテモト云註、ワケキコエズ、マサテモト云コト歟。万葉浦島十哥ニ

トコヨベニアラマシモノヲツルギ太刀ワガ心カラヲゾヤコノ君
コレモヲゾヤハ、キタナキノ詞也。無名抄ニモ

鳥テフオホヲソ鳥ノ心モテウツシ人トハナニナノルラン

此歌ハ、伊勢ニテアル家ニ、鳥巢クヒ雄鳥コロサレ、久ミエザレバ、雌カイゴラステ、他ノ男ガラスト相具シアリキテ、カイゴクサリケルヲ、主ノ郡司ミテ、道心ヲコシ、法師ニ成リケル、ソレヲヨメリ。童蒙抄・奥義同レ之。日本紀(○紀行カ)靈異記云、子モチ鴉ノ雄ノ死タルニ、コト雄ヲマウケテ、カイゴヲクサラカスヲミテウンジテ、和泉ノ者出家シ、行基ヲ弟子ニナリ、淨土ニ生ヘキ由契ケルガ、サキザマニハカナクナリケレバ 行基存

鳥テフオホヲソ鳥ノ事ヲミテ友ニトイヒテサキ立イヌル

此入道、法名信嚴トゾ云ケル、此歌ヲ本文ニテ現人ノ哥ヲヨム歟、和泉國ノ拯ヲ、伊勢ノ郡司ト豐遠歟
丸案ニ、凡鳥トテ、ホメタ事ニイヒタル古事アリ、カラスモイヤシキモノナレバ、ホメヌ鳥ト云コトナリ、ワ

ソヤ此君ノ「ヲソ」ト同ト云説相違ナリ

一オホヨソ衣

宮人ノオホヨソゴロモヒザトヲシ雪ノヨロシモオホヨソ衣

是ハ神樂ノ宮人ノ哥也。古語拾遺ニ、崇神天皇ハ人皇十代ニ當リオハシマス、漸神代ニトヲザカリ給ニヨリ、三種神樂ヲ恐タマヒ、新ク作り、モトノヲバ天皇第三ノ皇女。豐饒入姫命ヲ奉齋焉。大和國笠置ノ岡ニ磯城神籬立奉遷祭之夕、宮人皆參終夜宴。樂哥曰

美夜比登能於保與酒我良尔伊佐登保志由伎能與保(○侶カ)志茂於保與酒我良尔

今俗哥ニ、オホヨスガラヲ、オホヨソ衣トウタヒ、イサトヲシヲ、ヒザトヲシトウタフ也、凡衣トハ、ナベテノ衣也、短ニヨリテ膝マデトマカヌヲ、ヒザトヲシト云ナリ、雪ノヨロシモハ雪ノ夜ナリ、「コロハ」助字也

一オホロノシミツ 古今

大原ヤ醜ノ清水世ニスマバ又モアヒミン面ガハリスナ

山城ノ大原野ニアリ、良通ガ山莊ノ邊ニアリ云々。後拾遺良通法師、大原ニコモリキヌト聞テ

案意

ミクサキシオボロノシミツ底スミテ心ニ月ノカゲハウカブヤ

返シ

ホドヘテヤ月モウカバン大原ヤオボロノシミツスムナバカリニ

顯昭考、伊勢物語云、男女ヲヌスミテ行道ニ、水アルトコロニテ、男ノマントヤ思ト、フニ、ウナヅケバ、手ニムスビテノマス、サテキテノボリニケリ、男(○女カ)ハカナクナリニケレバ、モトノ所ヘカヘリ行ニ、カノ水ノミシ所ニテ

大原ヤセカ井ノ水ヲムスビアゲテアクヤト、ヒシ人ハイヅクハ(ニ種)又神樂取物ノ中ニ抄哥

大ハラヤセカ井ノ水ヲヒサゴモテ鳥ハナクトモアソビテユカン

又能宣ガ伊勢ヨリノボルニ、京ニテ尋ント思フ女ノ、相坂ノ鬮ニアヒタリケルヲ、タヅネケレバ、男ニツキテ東ヘマカリケレバ、ヨミテ遣シケル

行末ノイノテモシラヌ別路ハケフ相坂ヤカギリナルラン

女ノ返事ニ、鬮ノシミツト申セトナン云ケル、是ハ古今ノ又モアヒミンノ哥ノコ、ロナリ
一オロノハツオニカ、ミカケ

ヤマ鳥ノ乎呂ノ波都乎ニ加賀美カケトナフベニコソ何ヨソリケメ

顯昭云、古來ニ様ニアリ、一ニハ山鳥ノ、鏡ニ影ノウツレルヲミテ舞、一ニハマコトノ鏡ニテアラズ、山鳥ハメオ一處ニネズ、ヤマノ尾ヲ隔ヌル、雌雄ノハツ尾ニ、雌ノ影ノウツルヲミテナケバカク云也、此ニ義ノ中ニ、先ノ義ニテハ、尾ニ鏡カケガタシ、後義ニテハ「オロ」ハ雄也、「ロ」ハ助字也、後ノ「ハツオ」ハ「ナキ尾」ナリ、

鳴尾ハ始ニ生レバ「ハツオ」ト云也。私云、尾ニ鏡影ノウツランコト無ニ證文、又田舎ノ者申ハ、雌雄一處ニ伏云ミ、鏡ヲカケテ舞事アレバ、ソレニヨセテコソ、カマミカケトハ云ベケレ、「オロ」トハ雄ナリ、次ノ「ハツオ」ハ尾ニアラズ、ソレモ尾字ハカ、ズ、乎字ヲカケバ雄ナリ、「ハツ」トハ初ニ非ズ、友ヲハナレタレバ獨アル鳥ヲ「ハツオ」ト云ベシ、鞍ヲカヌ馬ヲ「ハツセ」ト云ガ如シ、尾ニハカケネド、カタハラニカクルヲ、鏡カケト云ナリ、万葉ニ尾トヨムトキハミナ尾ノ字ヲ書リ、此哥ニハ二所ナガラ乎字ヲ書ナリ。無名抄、昔隣ノ國ヨリ、ヤマ鳥ヲ奉、鳴尾タヘニシテ聞者愁ヲ忘ルト云リ、帝ヨロコンデカヒ給ニ、鳴コトナシ、此鳥ナカセタラン女御ハ后ニタテン、トアレバ、アル女御、友ヲ離テナカヌナメリ、ト鏡ヲ置ラニ立、ヨロコベル氣色ニテ、尾ヲヒロゲ、カマミニアテ、ナクコトシゲシ、サテ立后アレバ、カタヘノ女御ネタミソネムト云ヘリ。

童蒙抄 六帖哥ニ

ヒルハキテヨルハワカル、ヤマ鳥ノカゲミル時ゾネハナカレケル

ヤマドリハヨル獨ヌル心ヲヨメリ、影ミルトキ音ヲナク心ハ。異苑曰、「○山鳥カ」鶴變ニ其毛羽ヲ、映レ水則舞、魏武帝ノ時、南方ヨリ獻レ之、公子蒼舒令レ人取ニ大鏡ヲ置其前ニ、山鳥變レ形ヲ而舞、不レ止。奥義抄云、ナキヨソリケメトソアラント思フニ、何ヨソリケメトアリ、オボツカナシ。私云、無名抄ニハ實ノ鏡ノ事ヲノミ書テ、尾ニ影ノウツル事ヲハイハズ、俊賴哥云

ヤマ鳥ノハツオノカマミカケラレテカゲヲダニヌ人ゾ戀シキ

此歌ハ尾ニ影ウツル心賦、無名抄ノ後ニ、此義ヲ聞ニヤ、又愚案ノ如ク、マコトノ鏡ノカケタルニタガハヌ心ヲ存賦、オボツカナシ、又ヨソリハヨル也、ヨソルトモヨサレトモヨメリ、トナフハ鳴也

ニヒタヤマネニハツカナクワニヨソリハシナルコロハアヤニ悲モ

ニヒタ山ニハツカズ我ニヨリテ悲ト也、ハシハ山ノ外ト云心賦、ネハヤマノ高ネナリ、ワハ我ナリ、奥義抄ニ、ナキヨソリケメ、トコソアラメトアルハ、ヨク此哥ノ心ヲオホメケル詞ナリ、ニヒタ山ハ、上野新田山也、ヲニヒタ山ハ小新田也、ハツセヲ、ヲハツセト云ガ如シ、而ヲカナニ付テ、鬼ヒタヤマト云ハ口惜ナリ、又此山鳥ノカマミハ、鸞鏡ト云コトニモ紛ヌベシ。六帖云

鬪賓王獲ニ一鸞、鸞鏡以照之、鸞觀其形乃鳴而舞云

丸案ニ、兩義之内、無明抄ノ説ヨキヤラン、八雲御抄ニモ其義ヲノベ給リ、然ニ「何ヨソリケメ」ヲ「ヨル」ト云心ニテ哥ノ理ヲ聞ニ、サラニ心不落、トナフハナク事ナレバ、ナクベク何ヨリニケン、トハイマダナカメヌ事也、君ガソバヘ泣ヨルコトヲ、ナニシニヨリタルゾト云ヤウニニコユ、丸云、存ハ「何ヨソリ」ハ「ユスリ」ナルベシ、五音通ナリ、「ユスル」ハ造作振動スル心ナリ、我今君ヲヘダテ、ヒトリキテ、カクバカリ泣安ニ、昔ノ山鷄ハナニユヘニナカズシテ、宮中ユスリテナカセタクセラレケル事ヨ、ト云義カトコソ存候ヘ。丸ガ門生ハ此義ヲ以、此哥ヲ吟遊スベシ

一オハナ オバナトハ薄ノ穂ヲヨメリ、万葉ニ尾花哥多也、大ヤウハ薄トヨメリ

サヲシカノ入野、薄初尾花イツシカイモガ手枕ニセン

コレハ儲ニ薄ナリ、又馬ニ尾花アシゲトヨム、芦毛ニ取テ白ミタルヲ云也、サレバ芦ノ穂ヲモ尾花ト云。又醫書ニ蘆蓬葦トカキテ「アシノオバナ」トヨム、蘆也

丸案ニ、尾花トハ薄・芦ノ穂ニ出タルヲ云ナレバ、カナラズ尾花ト云草アリト思ベカラズ、又薄ニカギルト思ベカラズ、萩ニテモ何草ニテモ獸ノ尾ノヤウニ、ナガク穂ニ出タルモノヲ云ト心得侍ベシ

一オホ、シク イホ、シク イフセク

コモリノミヲレバ、^{イフセク}鬱悒ナグサムト・ハシキヤシ翁ノウタニオホ、シキ・國トヲキ道ノナガテヲイホ、シク・鬱悒ト書、鬱字ハ「ム」モレタリトモヨメリ

丸案ニ、万葉ニ鬱ノ字ヲイブセシトモヨマセタリ、イブセキハムサキ心モアリ、鬱ハ病ノ名ニモ氣鬱ナドアリ、氣ノフサガリテ、ハレヤカナラヌ心也、オホ、シクモ、イホ、シクモ皆モノ、ウチオホヒフサガリテイブセク、ハレヤカナラヌ心アリ、ツネニ人ノウツタウシキト云モ、鬱字ナリ、サレバオホ、シキモ、モノ、ウヘニオホヒタルヤウノコ、ロトシルベシ

一オホノヒ

ハシキヤシマヂカキコトノ君ミント大能備ニカモ月ノテリタル

顯昭云、オホノビトハ、オホノ(○サヲア)ヒト云詞賦